

履修要項

福井大学大学院医学系研究科
修士課程看護学専攻

2018年度

目 次

1. [修士課程] カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー	3
2. [修士課程] 平成30年度 行事予定表	5
3. [修士課程] 平成30年度 看護学専攻授業時間割表	6
4. 履修について	
平成30年度 授業科目一覧表	8
看護学専攻履修の手引き	9
福井大学大学院医学系研究科規程	10
福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項	13
専門看護師教育課程履修の手引き	15
福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻における 専門看護師教育課程の履修規程	16
5. 授業科目について	
共通科目	
看護研究	20
看護倫理	21
看護理論	23
看護教育論	25
看護管理論	27
看護政策論	29
コンサルテーション論	31
ヘルスアセスメント	33
病態生理学	35
臨床薬理学	37
教育・研究領域科目	
《基礎看護学》	
基礎看護学特論	38
基礎看護学演習	40
基礎看護学特別研究	41
《地域看護学》	
地域看護学特論	42
地域看護学演習	44
地域看護学特別研究	45
《成人看護学》	
成人看護学特論	46
成人看護学演習	47
成人看護学特別研究	48
(がん看護専門看護師教育課程)	
がん看護学特論Ⅰ	49
がん看護学特論Ⅱ	51
がん看護学特論Ⅲ	53
がん看護学特論Ⅳ	55

がん看護学特論Ⅴ	57
がん看護学演習Ⅰ	59
がん看護学演習Ⅱ	61
がん看護学実習Ⅰ	63
がん看護学実習Ⅱ	65
がん看護学実習Ⅲ	67
がん看護学実習Ⅳ	69
がん看護学課題研究	71
《老年看護学》	
老年看護学特論	72
老年看護学演習	73
老年看護学特別研究	74
(老年看護専門看護師教育課程)	
老年看護学特論Ⅰ	75
老年看護学特論Ⅱ	76
老年看護学特論Ⅲ	78
老年看護学特論Ⅳ	80
老年看護学特論Ⅴ	82
老年看護学演習Ⅰ	84
老年看護学演習Ⅱ	86
老年看護学実習Ⅰ	88
老年看護学実習Ⅱ	90
老年看護学実習Ⅲ	92
老年看護学課題研究	94
《母子看護学関連科目》	
母子看護学特論	95
母子看護学演習	97
母子看護学特別研究	98
《災害看護学関連科目》	
(災害看護専門看護師教育課程)	
災害看護学特論Ⅰ	99
災害看護学特論Ⅱ	101
災害看護学特論Ⅲ	103
災害看護学特論Ⅳ	105
災害看護学演習Ⅰ	107
災害看護学演習Ⅱ	109
災害看護学演習Ⅲ	111
災害看護学実習Ⅰ	112
災害看護学実習Ⅱ	114
災害看護学実習Ⅲ	116
災害看護学実習Ⅳ	118
災害看護学特別研究	120
災害看護学課題研究	121

[修士課程] カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー

教育課程の構成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

教育方針

医学系研究科修士課程では、教育理念・目標に基づき、豊かな人間性と倫理観、幅広い知識と理論に基づく根拠のある技術力を有し、高度専門的看護ケア実践能力を備えた看護職のリーダーとなる人材を育成すること、また、地域保健医療福祉に貢献できる看護職、及び看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成することを目的としている。これらの目的を達成するため、「看護学専攻」のもと、基礎・地域看護学、成人・老年看護学、母子看護学、災害看護学の各分野で、優れた看護学の知識と技能を修得する論文課程と、卓越した看護実践能力を修得する専門看護師（CNS）教育課程を設け、複数の大学院担当教員により体系的に教育・研究指導を行う。

1. 教育課程の編成

教育方針を具現化するため、以下の教育課程を編成する。

- ①論文課程では、2年以上在学し、看護研究2単位、当該分野又は他分野科目20単位、共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上、合計30単位以上を修得させる。

本課程では、4分野（基礎・地域看護学、成人・老年看護学、母子看護学、災害看護学）6領域（基礎看護学、地域看護学、成人看護学、老年看護学、母子看護学、災害看護学）の科目を設け、1年次に講義・演習を開講し、2年次には、演習と学位論文等の作成に必要な特別研究科目を開講し、各分野・領域における高度な知識および技術を幅広く修得させる。

- ②専門看護師教育課程では、2年以上在学し、共通科目A（看護研究、看護倫理、看護理論、看護教育論、看護管理論、看護政策論、コンサルテーション論）から8単位以上、共通科目B（ヘルスアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）6単位、領域科目（特論、演習、実習）24単位、合計38単位以上を修得させる。また、併せて修士の学位取得のため、課題研究2単位あるいは特別研究12単位を修得させる。

本課程では、1年次に講義・演習を開講し、各専門分野に必要な基礎的な知識・技術を修得させ、2年次には、演習および実習を開講し、エビデンスに基づく的確な判断、卓越したケア技術とキュアの知識を修得させる。

2. 教育課程の実施

教育方針を具現化するため、以下の体制で教育課程を実施する。

- ①大学院生ごとに指導教員を置き、必要に応じて副指導教員を置くこととする。
- ②共通科目および各領域科目においては、各授業科目に教科主任となる科目担当責任教員を置き、授業内容に応じて複数の担当教員により実施される授業の一貫性を担保し、授業科目を統括する。
- ③2年次に、大学院生による公開の中間研究報告会を義務付け、研究の進捗状況等を発表し、参加教員等からの意見や助言を受ける。また、2年次修了前に、研究の取りまとめを行い、修士論文公開発表会を行う。
- ④専門看護師教育課程の大学院生は、課題研究の論文をもって修士論文に代えることができる。
- ⑤社会人大学院生に対して教育方法の特例を適用した柔軟な授業形態による履修指導を行うとともに、学外非常勤講師による講義を活用し、教育目標を達成するための教育指導の工夫を行う。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

各課程の目的に照らして、大学院生が修得すべき学習成果の達成を学位授与の方針とする。
具体的には、

修了要件

- ①論文課程では、2年以上在学し、看護研究2単位、当該分野又は他分野科目20単位、共通科目又は他領域の特論科目から8単位、合計30単位以上を修得し、各領域で専門性の高い高度な看護ケアを実践する能力、自らの知識と技術を磨く自己研鑽能力、科学的・理論的に判断し説明する能力、医学・看護学の発展のために研究を計画・実行し、その成果を公表する能力を十分に有していること。
- ②専門看護師教育課程では、2年以上在学し、共通科目A（看護研究、看護倫理、看護理論、看護教育論、看護管理論、看護政策論、コンサルテーション論）から8単位以上、共通科目B（ヘルスアセスメント、病態生理学、臨床薬理学）6単位、領域科目（特論、演習、実習）24単位、合計38単位以上を修得し、個人、家族および集団に対して、キュアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる能力、高度な実践、教育、相談、研究、調整、倫理の6つの能力が高まり、看護活動を創意工夫して変革できる能力を十分に備えていること。
- ③医学系研究科修士課程に2年以上在学および上記の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査および最終試験に合格すること。

学位の授与

本大学医学系研究科修士課程を修了した者には「修士(看護学)」の学位を授与する。

[修士課程] 平成30年度 行事予定表

月	日	曜日	行 事 等	備 考
4	6	金	入学式・新入生オリエンテーション	
	9	月	前期授業開始	前期授業4月9日～8月2日
	9	月	履修届提出期限	
5	11	金	定期健康診断	
	23	水	中間研究報告会	2年次生対象
6	11	月	修士論文提出締切日	9月修了予定者
	27	水	修士論文公開発表会	9月修了予定者
7	27	金	最終試験	9月修了予定者
8	2	木	前期授業終了	
9	28	金	学位記授与式	9月修了者
10	1	月	開学記念日	
	1	月	後期授業開始	後期授業10月1日～2月8日
11	28	水	中間研究報告会	翌年度9月修了予定者等
1	7	月	後期授業再開	～2月8日
	10	木	修士論文提出締切日	3月修了予定者
	31	木	修士論文公開発表会	3月修了予定者
2	8	金	後期授業終了	
3	1	金	最終試験	3月修了予定者
	22	金	学位記授与式	3月修了者
	31	日	学年終了	

[修士課程] 平成30年度 看護学専攻授業時間割表
1 年 次 生 前 期

時 限 曜日	1 8:45～10:15	2 10:30～12:00	3 13:00～14:30	4 14:45～16:15	5 16:30～18:00	6 18:00～19:30	7 19:40～21:10
月			看護管理論 (上野 他)	看護研究 (長谷川智 他)		※看護管理論 (上野 他)	※看護研究 (長谷川智 他)
火			基礎看護学特論 (長谷川智 他)	成人看護学特論 (繁田 他)		※基礎看護学特論 (長谷川智 他)	※成人看護学特論 (繁田 他)
				がん看護学特論Ⅰ (片山 他)			※がん看護学特論Ⅰ (片山 他)
				老年看護学特論Ⅱ (四谷 他)			※老年看護学特論Ⅱ (四谷 他)
水			病態生理学 (上野 他)	地域看護学特論 (長谷川美 他)		※病態生理学 (上野 他)	※地域看護学特論 (長谷川美 他)
				がん看護学特論Ⅱ (上野 他)			※がん看護学特論Ⅱ (上野 他)
				老年看護学特論Ⅲ (四谷 他)			※老年看護学特論Ⅲ (四谷 他)
木			コンサルテーション論 (長谷川智 他)	老年看護学特論 (四谷)		※コンサルテーション論 (長谷川智 他)	※老年看護学特論 (四谷)
				がん看護学特論Ⅲ (繁田 他)			※がん看護学特論Ⅲ (繁田 他)
				老年看護学特論Ⅰ (上野 他)			※老年看護学特論Ⅰ (上野 他)
金			母子看護学特論 (波崎 他)	看護理論 (上野 他)		※母子看護学特論 (波崎 他)	※看護理論 (上野 他)

注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

[修士課程] 平成30年度 看護学専攻授業時間割表
1 年 次 生 後 期

時 限 曜日	1	2	3	4	5	6	7	
	8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:00～19:30	19:40～21:10	
月	領域演習（担当教員）	看護政策論 （上野 他）	災害看護学特論Ⅰ （酒井 他）	災害看護学特論Ⅰ （酒井 他） がん看護学特論Ⅳ （磯見 他） 老年看護学特論Ⅳ （四谷 他）	※看護政策論 （上野 他）	※災害看護学特論Ⅰ （酒井 他）	※がん看護学特論Ⅳ （磯見 他） ※老年看護学特論Ⅳ （四谷 他）	
火			災害看護学特論Ⅱ （酒井 他）			ヘルスアセスメント （長谷川智 他）	※災害看護学特論Ⅱ （酒井 他）	※ヘルスアセスメント （長谷川智 他）
			がん看護学特論Ⅴ （繁田 他）				※がん看護学特論Ⅴ （繁田 他）	
		老年看護学特論Ⅴ （四谷 他）	※老年看護学特論Ⅴ （四谷 他）					
水		看護倫理 （長谷川美 他）	看護教育論 （繁田 他）	※看護倫理 （長谷川美 他）	※看護教育論 （繁田 他）			
木		領域演習 （担当教員）	領域演習 （担当教員）	※領域演習 （担当教員）	※領域演習 （担当教員）			
		がん看護学演習 （担当教員）		※がん看護学演習 （担当教員）				
		老年看護学演習Ⅰ （四谷 他）		※老年看護学演習Ⅰ （四谷 他）				
金		災害看護学特論Ⅲ （酒井 他）	臨床薬理学 （出口 他）	※災害看護学特論Ⅲ （酒井 他）	※臨床薬理学 （出口 他）			
		がん看護学演習 （担当教員）		※がん看護学演習 （担当教員）				
		老年看護学演習Ⅱ （四谷 他）		※老年看護学演習Ⅱ （四谷 他）				

注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。

2 領域演習は、領域毎に担当教員の指導により4単位（120時間）の授業を行うものとする。

3 老年看護学の実習は、別途連絡します。

[修士課程] 平成30年度 看護学専攻授業時間割表
2 年 次 生 前 期

時 限 曜 日	1	2	3	4	5	6	7
	8:45～10:15	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:00～19:30	19:40～21:10
月	特別研究・課題研究（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員）	
	災害看護学／がん看護学／老年看護学 演習および実習（担当教員）					※災害看護学／がん看護学／老年看護学 演習および実習（担当教員）	
火	特別研究・課題研究（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員）	
	災害看護学／がん看護学／老年看護学 演習および実習（担当教員）					※災害看護学／がん看護学／老年看護学 演習および実習（担当教員）	
水	特別研究・課題研究（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員）	
	災害看護学／がん看護学 ／老年看護学 演習および実習（担当教員）		災害看護学特論Ⅳ （酒井 他）	災害看護学／がん看護学 ／老年看護学 演習および実習（担当教員）		※災害看護学特論Ⅳ （酒井 他）	※災害看護学／がん看護学 ／老年看護学 演習および実習（担当教員）
木	特別研究・課題研究（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員）	
	災害看護学／がん看護学／老年看護学 演習および実習（担当教員）					※災害看護学／がん看護学／老年看護学 演習および実習（担当教員）	
金	特別研究・課題研究（担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員）	
	災害看護学／がん看護学／老年看護学 演習および実習（担当教員）				※災害看護学／がん看護学／老年看護学 演習および実習（担当教員）		

- 注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。
 2 特別研究は、領域毎に担当教員の指導により12単位（360時間）の授業を行うものとする。
 3 災害看護学・がん看護学・老年看護学の課題研究は、担当教員の指導により2単位（60時間）の授業を行うものとする。
 4 災害看護学・がん看護学・老年看護学の演習等は、別途連絡します。

[修士課程] 平成30年度 看護学専攻授業時間割表
2 年 次 生 後 期

時 限 曜 日	1 8:45～10:15	2 10:30～12:00	3 13:00～14:30	4 14:45～16:15	5 16:30～18:00	6 18:00～19:30	7 19:40～21:10
月	特別研究・課題研究（担当教員） 災害看護学実習／がん看護学実習／老年看護学実習 （担当教員）					※特別研究・課題研究（担当教員） ※災害看護学実習／がん看護学実習／老年看護学実習 （担当教員）	
火							
水							
木							
金							

- 注1 ※印は、大学院設置基準第14条に基づく教育方法の特例適用者に係る授業を示す。
 2 特別研究は、領域毎に担当教員の指導により12単位（360時間）の授業を行うものとする。
 3 災害看護学・がん看護学・老年看護学の課題研究は、担当教員の指導により2単位（60時間）の授業を行うものとする。
 4 災害看護学・がん看護学・老年看護学の演習等は、別途連絡します。

履修について

平成30年度 授業科目一覧表

分野	研究領域・教育領域	授業科目	配当年次	開設単位	履修時間数			学生の所属看護領域							CNS学生			単位修得
					講義	演習	実習	基礎	地域	成人	老年	母子	災害	がん	老年	災害		
	共通科目	看護研究	1	2	30			●	●	●	●	●	●	△	△	△	指導教員の指導により下記のとおり修得しなければならない。 ●科目は必修 △科目から8単位以上選択 ▲科目から2単位以上選択 ■科目から6単位以上選択 ☆どちらか一方、または両方を選択	
		看護倫理	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△		
		看護理論	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△		
		看護教育論	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△		
		看護管理論	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△		
		看護政策論	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△		
		コンサルテーション論	1	2	30			△	△	△	△	△	△	△	△	△		
		ヘルスアセスメント	1	2	30			△	△	△	△	△	△	●	●	●		
		病態生理学	1	2	30			△	△	△	△	△	△	●	●	●		
臨床薬理学	1	2	30			△	△	△	△	△	△	●	●	●				
基礎・地域看護学	基礎看護学	基礎看護学特論	1	2	30			●	●	△	△	▲△	▲△				基礎看護学領域を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●基礎看護学領域の3科目18単位 ●地域看護学特論2単位 △共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を修得	
		基礎看護学演習	1	4		120		●										
		基礎看護学特別研究	2	12		360		●										
	地域看護学	地域看護学特論	1	2	30			●	●	△	△	▲△	▲△					
		地域看護学演習	1	4		120			●									
		地域看護学特別研究	2	12		360			●									
成人・老年看護学	成人看護学	成人看護学特論	1	2	30			△	△	●	●	▲△	▲△				地域看護学領域を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●地域看護学領域の3科目18単位 ●基礎看護学特論2単位 △共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を修得	
		成人看護学演習	1	4		120				●								
		成人看護学特別研究	2	12		360				●					☆			
	(専門看護師教育課程)	がん看護学特論Ⅰ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	▲△	●				
		がん看護学特論Ⅱ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	▲△	●				
		がん看護学特論Ⅲ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	▲△	●				
		がん看護学特論Ⅳ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	▲△	●				
		がん看護学特論Ⅴ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	▲△	●				
		がん看護学演習Ⅰ	1	2		60								●				
		がん看護学演習Ⅱ	1	2		60								●				
		がん看護学実習Ⅰ	2	2		90								●				
		がん看護学実習Ⅱ	2	2		90								●				
		がん看護学実習Ⅲ	2	4		180								●				
		がん看護学実習Ⅳ	2	2		90								●				
		がん看護学課題研究	1・2	2		60								☆				
	老年看護学	老年看護学特論	1	2	30			△	△	●	●	▲△	▲△				老年看護学領域を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●老年看護学領域の3科目18単位 ●成人看護学特論2単位 △共通科目又は他の特論科目から8単位以上 計30単位以上を修得	
		老年看護学演習	1	4		120					●							
		老年看護学特別研究	2	12		360					●			☆				
	(専門看護師教育課程)	老年看護学特論Ⅰ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	▲△		●		母子看護学領域を専門とする学生 ●看護研究2単位 ●母子看護学領域の3科目18単位 ▲他分野の特論科目から2単位 △共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を修得	
		老年看護学特論Ⅱ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	▲△		●			
		老年看護学特論Ⅲ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	▲△		●			
		老年看護学特論Ⅳ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	▲△		●			
		老年看護学特論Ⅴ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	▲△		●			
		老年看護学演習Ⅰ	1	2		60								●				
		老年看護学演習Ⅱ	1	2		60								●			災害看護学領域を専門とする学生 ●看護研究2単位 ■災害看護学領域の特論科目及び演習科目から6単位 ●災害看護学特別研究12単位 ▲他分野の特論科目から2単位 △共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を修得	
		老年看護学実習Ⅰ	1	2		90								●				
		老年看護学実習Ⅱ	2	4		180								●				
		老年看護学実習Ⅲ	2	4		180								●				
		老年看護学課題研究	1・2	2		60								☆				
母子看護学	母子看護学	母子看護学特論	1	2	30			△	△	△	△	●	▲△				災害看護学領域を専門とする学生 ●看護研究2単位 ■災害看護学領域の特論科目及び演習科目から6単位 ●災害看護学特別研究12単位 ▲他分野の特論科目から2単位 △共通科目又は他領域の特論科目から8単位以上 計30単位以上を修得	
		母子看護学演習	1	4		120						●						
		母子看護学特別研究	2	12		360						●						
災害看護学	(専門看護師教育課程を含む)	災害看護学特論Ⅰ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	■			●	* 専門看護師教育課程を専門とする学生の履修等に関しては別に定めるが、併せて修士の学位取得のため、☆課題研究（または特別研究）を修得	
		災害看護学特論Ⅱ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	■			●		
		災害看護学特論Ⅲ	1	2	30			△	△	△	△	▲△	■			●		
		災害看護学特論Ⅳ	2	2	30			△	△	△	△	▲△	■			●		
		災害看護学演習Ⅰ	1	2		60							■			●		
		災害看護学演習Ⅱ	2	2		60							■			●		
		災害看護学演習Ⅲ	2	2		60							■			●		
		災害看護学実習Ⅰ	2	2		90										●		
		災害看護学実習Ⅱ	2	3		135										●		
		災害看護学実習Ⅲ	2	2		90										●		
		災害看護学実習Ⅳ	2	3		135										●		
		災害看護学特別研究	2	12		360							●			☆		
		災害看護学課題研究	1・2	2		60										☆		

※CNS学生は専門看護師教育課程のこと。

看護学専攻履修の手引き

1. 履修届の提出

所定の履修届を4月9日（月）までに提出してください。届出のない授業科目については、履修できません。なお、履修科目を変更するときは、提出した履修届を取りに来ていただき、修正のうえ担当教員の許可を得て、学務室大学院係へ再提出してください。

2. 提出先 福井大学学務部松岡キャンパス学務室 大学院係

電話 0776-61-8247（直通） 0776-61-3111（代表）内線 2141

FAX 0776-61-8162

E-mail: gmtgakuin-s@ad.u-fukui.ac.jp

3. 修了要件

修士課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学（休学期間は除く。）し、所定の授業科目について30単位以上※1を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文※2の審査及び最終試験に合格する必要があります。

修得単位については、授業科目一覧表（1頁）の「単位修得」欄をよく読んでください。

なお、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げたものについては、当該課程に1年以上在学すればよいこととなっています。

また、職業を有している等の事情により、標準修業年限（2年）を超えて一定の期間（4年以下）にわたり、計画的に教育課程を履修（「長期履修」という。）することを希望する場合は、学務室大学院係へお問い合わせください。

※1 専門看護師の資格を取得しようとする学生は、40単位以上

※2 専門看護師の資格を取得しようとする学生は、課題研究の論文

4. その他

(1) 大学院学則により、修士課程における在学期間は、標準修業年限（2年）の2倍（4年）の年数（「長期履修」の場合は5年）を超えることができないことになっています。

また、休学期間は、通算して2年を超えることができないことになっています。

このため、入学してから在籍できる期間は、休学期間を含め最長6年間（「長期履修」の場合は7年間）となります。

(2) 医療並びに医学関連分野で活躍されている社会人の方々に、高度な医学研究能力を身に付けていただく機会を与えるために、授業科目によっては夜間にも開講しています。

(3) 諸事情により、授業時間割表と実際の開講時間が異なる場合がありますので、履修届の提出にあたっては、事前に担当教員に確認してください。

(趣旨)

第 1 条 福井大学大学院医学系研究科（以下「本研究科」という。）に関する事項は、福井大学大学院学則（平成 16 年福大規則第 2 号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

(教育研究上の目的)

第 2 条 大学院学則第 4 条第 2 項に規定する、本研究科における人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的については、次のとおりである。

医学系研究科

高度な医学及び看護学の知識を修得し、高い水準の医学研究を遂行できる研究能力や先端的で高度専門的な臨床技術を提供できる実践能力を身につけ、高い倫理観と豊かな人間性のもと、人類の健康福祉と社会福祉に貢献できる医療人を育成することを目的とする。

博士課程

統合先進医学専攻

医科学および生命科学領域において、高度な知識および科学的・論理的思考に基づき、独創性・創造性に優れた研究を遂行し、国際的にも活躍できる自立した研究者の養成、各診療分野で優れた臨床研究能力と先端的で高度な医療技能を備え、高い倫理観と研究マインドを持った臨床医高度専門医療人の養成、並びに地域に貢献ができる臨床研究能力や教育的指導力を備えた質の高い総合診療医・E R 救急医・家庭医を養成することを目的とする。

修士課程

看護学専攻

豊かな人間性と幅広く高度な看護理論・技術を有し、高度専門的看護ケア実践能力を備え、地域保健医療福祉に貢献できる看護職及び看護学を体系化・深化させる研究を遂行できる指導的役割を担う教育・研究者を養成することを目的とする。

(研究科長)

第 3 条 医学系研究科に研究科長を置く。

2 研究科長に関し必要な事項は、別に定める。

(教育課程)

第 4 条 開設する授業科目、履修単位数及び履修年次等は、博士課程にあっては、別表 1、修士課程にあっては、別表 2 のとおりとする。

(修得単位)

第 5 条 博士課程の学生は、別表 1 に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の修得単位欄に定めるとおり 30 単位以上を修得しなければならない。

2 修士課程の学生は、別表 2 に定める授業科目を指導教員の指導により、同表の修得単位欄に定めるとおり 30 単位以上を修得しなければならない。また、修士課程に専門看護師教育課程を置き、専門看護師の資格取得に係る履修科目、修得単位等について、別に定める。

3 指導教員が必要と認めた場合は、医学系研究科委員会の議を経て、他の課程又は本学大学院の他の研究科の授業科目を履修させ、これを当該課程で修得した単位とすることができる。ただし、当該修得単位は、修了要件の単位には算入しないものとする。

4 博士課程授業科目早期履修制度を利用する者は、医学系研究科委員会の議を経て、大学院の授業科目を履修することができ、博士課程入学後に単位を認定することがある。

(履修の届出)

第 5 条の 2 学生は、別表 1、2 より選択した授業科目を、当該授業科目担当教員及び指導教員の承認を経て、指定する期日までに所定の履修届により届け出なければならない。

2 学生は、前項の履修届の提出後に授業科目の変更をしようとするときは、指定する期日までに所定の手続を行わなければならない。

(単位の計算方法)

第5条の3 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算する。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(単位修得の認定)

第5条の4 授業科目の単位修得の認定については、試験その他の審査により授業科目担当教員が行う。

(試験)

第6条 試験は、定期試験、追試験及び再試験とする。

2 定期試験は、年1回行う。

3 追試験は、学生が、病気、災害等やむを得ない理由により定期試験を受験できなかったときに、願い出により行う。この場合において、当該願い出は、当該授業科目担当教員の承認を得て行わなければならない。

4 再試験は、定期試験又は追試験を受験し不合格となった学生に対して、願い出により行うことがある。

5 試験において不正行為を行った学生に対しては、当該試験を無効とし、大学院学則第43条の規定により懲戒する。

(成績の評価)

第7条 試験その他の審査による成績の評価については、評価点又は評価をもって表し、可否の認定は、次の表に掲げる基準により行う。ただし、再試験による評価は、60点以下とする。

評価点	評価	評価基準	認定
100点～90点	秀	目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果を挙げている	合格
89点～80点	優	目標を十分に達成している	
79点～70点	良	目標を概ね達成している	
69点～60点	可	目標を最低限達成している	
59点～0点	不可	目標を達成していない	不合格

(雑則)

第8条 大学院学則及びこの規程に定めるもののほか、本研究科に関する必要な事項は、医学系研究科長が定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年2月15日福大院医規程第1号)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年2月7日福大院医規程第1号)

1 この規程は、平成20年4月1日施行する。

2 平成20年3月31日以前に入学した者は、この規程第2条、別表1及び別表2の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、看護学専攻の学生が、CNS（がん看護学）科目を履修希望する場合は、選考の上認めることがある。

附 則 (平成21年3月12日福大院医規程第1号)

この規程は、平成21年4月1日から施行し、この規程による改正後の福井大学大学院医学系研究科規程は、平成20年10月1日から適用する。

附 則 (平成22年6月17日福大院医規程第6号)

この規程は、平成22年10月1日から施行する。

附 則 (平成24年2月16日福大院医規程第1号)

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 3 月 15 日福大院医規程第 2 号）

- 1 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 24 年 3 月 31 日以前に入学した学生は、この規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 25 年 1 月 17 日福大院医規程第 1 号）

- 1 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 25 年 3 月 31 日以前に入学した学生は、この規程にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 25 年 3 月 19 日福大院医規程第 2 号）

- 1 この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 25 年 3 月 31 日以前に入学した者は、この規程第 2 条、別表 2 の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 25 年 6 月 20 日福大院医規程第 3 号）

この規程は、平成 25 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 2 月 13 日福大院医規程第 1 号）

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 6 月 19 日福大院医規程第 2 号）

この規程は、平成 26 年 7 月 1 日から施行する。

附 則（平成 27 年 3 月 19 日福大院医規程第 1 号）

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 28 年 3 月 17 日福大院医規程第 1 号）

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 30 年 3 月 7 日福大規程第 31 号）

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項

平成 30 年 1 月 23 日
医学系研究科長裁定

(趣旨)

第 1 条 この要項は、福井大学学位規程（平成 16 年福大規程第 30 号。以下「規程」という。）第 31 条の規定に基づき、修士の学位に係る学位論文（以下「修士論文」という。）審査の実施及び学位記授与に関する取扱いについて必要な事項を定める。

(出願者の資格及び提出期限)

第 2 条 規程第 3 条第 2 項の規定による修士論文の審査を願い出ることができる者は、福井大学大学院医学系研究科修士課程の最終学年（福井大学大学院学則（平成 16 年福大規則第 2 号）第 36 条ただし書の規定に該当する場合を含む。）に在学し、所定の単位を修得した者で、かつ、必要な研究指導を受けた者とする。

2 規程第 4 条の提出期限は、原則、次のとおりとする。

(1) 3 月修了予定者 1 月 10 日

(2) 9 月修了予定者 6 月 10 日

3 前項に定める日が土曜日、日曜日及び祝日のときは翌履修日を提出期限とする。

(出願のための提出書類等)

第 3 条 規程第 4 条に規定する提出書類の様式及び部数は、次の各号に掲げるとおりとし、提出する際には、指導教員の承認を得て学務部松岡キャンパス学務室に提出する。

(1) 修士論文審査願（別紙様式第 1 号） 1 部

(2) 論文目録（別紙様式第 2 号） 4 部

(3) 修士論文 4 部

(4) 論文内容要旨（別紙様式第 3 号） 4 部

(5) 履歴書（別紙様式第 4 号） 1 部

必要に応じて以下を提出

(6) 参考論文 4 部

(修士論文)

第 4 条 規程第 4 条の規定により提出する修士論文は、単著とする。

2 専門看護師の資格を取得しようとする学生は、課題研究の論文をもって修士論文に代えることができる。

3 論文提出後から最終試験までの間に、論文名に変更が生じた場合には、学位論文題目変更願（別紙様式第 5 号）により速やかに変更を届け出るものとする。

(修士論文の受理)

第 5 条 医学系研究科長は、修士論文の審査の出願があったときは、医学系研究科修士課程委員会（以下「修士課程委員会」という。）の議を経て修士論文を受理する。

(審査委員会の構成)

第 6 条 規程第 7 条第 1 項に規定する審査委員会委員は、3 名で構成する。

2 前項に規定する審査委員会は、修士課程委員会で協議のうえ選出した大学院担当教授 2 名及び指導教員 1 名で構成する。

3 前項の修士課程委員会で選出される 2 名の委員のうち 1 名は、提出論文の内容に応じた関連分野の准教授をもって代えることができる。

4 審査委員会は、修士課程委員会で選出された 2 名の委員のうち委員の互選により 1 名を主査とし、他の 2 名を副査とする。

(審査基準)

第 7 条 審査委員会は、論文内容の信頼性及び発展性等の観点から修士の学位にふさわしいものであるかを審査する。

(公開発表会)

第 8 条 審査委員会は、修士論文の審査の過程において、修士論文についての公開発表会を開催するものとする。

(最終試験)

第9条 審査委員会は、規程第8条に規定する最終試験を行うものとする。

(修士論文審査等の結果の報告)

第10条 審査委員会は、論文審査等の結果を、修士論文審査結果報告書(別紙様式第6号)により、修士課程委員会に報告するものとする。

(学位授与予定者の決定)

第11条 修士課程委員会は、規程第11条の規定により、前条の審査委員会による報告に基づき、学位を授与すべきか否かを審議し、単記無記名投票により議決するものとする。

2 研究科長は、規程第12条の規定により、前項で議決された者を学位授与予定者として学長へ報告する。

(修士論文の最終提出)

第12条 学位授与決定の通知を受けた者は、修士論文に表紙をつけて製本したもの2部を学位記授与日の前日までに医学系研究科長に提出するものとする。

(雑則)

第13条 この要項に定めるもののほか、修士論文審査の実施に関し必要な事項は、修士課程委員会の議を経て、別に定める。

附 則

この要項は、平成30年4月1日から施行する。

なお、福井大学大学院医学系研究科修士論文審査実施要項(平成28年4月1日学長裁定)は廃止する。

専門看護師教育課程履修の手引き

本学の各専門看護師教育課程を修了することが、日本看護協会が行っている専門看護師認定審査の受験資格の一つとなっています。

- (認定審査) ・災害看護専門看護師
・がん看護専門看護師
・老年看護専門看護師

専門看護師教育課程を修了するには、

1. 各専門看護師教育課程で定めた科目のうち、38単位以上を修得する。

① 共通科目Aは、次の7科目のうち8単位以上を修得する。

「看護研究2単位」, 「看護倫理2単位」, 「看護理論2単位」,
「看護教育論2単位」, 「看護管理論2単位」, 「看護政策論2単位」,
「コンサルテーション論2単位」

② 共通科目Bは、次の3科目6単位を修得する。

「ヘルスアセスメント2単位」, 「病態生理学2単位」,
「臨床薬理学2単位」

③ 専攻教育課程科目の各教育課程で定める特論、演習、実習の全科目24単位を修得する。

2. 上記の単位修得に加え、「課題研究2単位（または特別研究12単位）」を修得することで、専門看護師教育課程を修了（修士学位の取得）となります。

《参考》

認定審査（一次審査）に提出する「看護実績報告書」の提出事例は次のとおり。

- | | | |
|--------------|---|----------------------------|
| ・実践 | (個人、家族および集団に対する直接的な看護実践) | : 1 例 |
| ・コンサルテーション | (看護者を含むケア提供者に対する事例) | } うち2つを選び
各1事例を提示
する |
| ・調整(コーディネート) | (保健医療福祉に携わる人々の間の調整) | |
| ・倫理調整 | (個人、家族および集団の権利を守る為に、
倫理的な問題や葛藤の解決を図った事例) | |
| ・教育 | (ケア向上で看護者に対し実施した教育活動) | : 1 例 |
| ・研究 | (修士課程で取り組んだ研究) | : 1 例 |

福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻における
専門看護師教育課程の履修規程

平成 28 年 7 月 20 日
福大規程第 120 号

(趣旨)

第 1 条 この要項は、福井大学大学院医学系研究科規程（平成 16 年福大院医規程第 5 号）第 4 条第 2 項の規定に基づき、福井大学大学院医学系研究科修士課程看護学専攻における専門看護師教育課程（以下「専門看護師教育課程」という。）の履修科目、修得単位等に関し必要な事項を定める。

(教育課程の種類)

第 2 条 専門看護師教育課程は、次のとおり。

- (1) 災害看護専門看護師教育課程
- (2) がん看護専門看護師教育課程
- (3) 老年看護専門看護師教育課程

(授業科目等)

第 3 条 専門看護師教育課程の授業科目及び単位数は、次のとおり。

2 共通科目

区分	授業科目名	単位数
共通科目 A	看護研究	2 単位
	看護倫理	2 単位
	看護理論	2 単位
	看護教育論	2 単位
	看護管理論	2 単位
	看護政策論	2 単位
	コンサルテーション論	2 単位
共通科目 B	ヘルスアセスメント	2 単位
	病態生理学	2 単位
	臨床薬理学	2 単位

3 専攻教育課程科目

- (1) 災害看護専門看護師教育課程

授業科目名	単位数
災害看護学特論Ⅰ	2 単位
災害看護学特論Ⅱ	2 単位
災害看護学特論Ⅲ	2 単位
災害看護学特論Ⅳ	2 単位
災害看護学演習Ⅰ	2 単位
災害看護学演習Ⅱ	2 単位
災害看護学演習Ⅲ	2 単位

災害看護学実習Ⅰ	2単位
災害看護学実習Ⅱ	3単位
災害看護学実習Ⅲ	2単位
災害看護学実習Ⅳ	3単位

(2) がん看護専門看護師教育課程

授業科目名	単位数
がん看護学特論Ⅰ	2単位
がん看護学特論Ⅱ	2単位
がん看護学特論Ⅲ	2単位
がん看護学特論Ⅳ	2単位
がん看護学特論Ⅴ	2単位
がん看護学演習Ⅰ	2単位
がん看護学演習Ⅱ	2単位
がん看護学実習Ⅰ	2単位
がん看護学実習Ⅱ	2単位
がん看護学実習Ⅲ	4単位
がん看護学実習Ⅳ	2単位

(3) 老年看護専門看護師教育課程

授業科目名	単位数
老年看護学特論Ⅰ	2単位
老年看護学特論Ⅱ	2単位
老年看護学特論Ⅲ	2単位
老年看護学特論Ⅳ	2単位
老年看護学特論Ⅴ	2単位
老年看護学演習Ⅰ	2単位
老年看護学演習Ⅱ	2単位
老年看護学実習Ⅰ	2単位
老年看護学実習Ⅱ	4単位
老年看護学実習Ⅲ	4単位

(修得単位)

第4条 各専門看護師教育課程の単位修得は、次の各号のとおりとする。

- (1) 前条第2項に掲げる共通科目Aから8単位以上かつ共通科目Bの6単位の合計14単位以上を修得すること。

- (2) 前条第3項に掲げる専攻教育課程科目から各号の課程ごとに指定するすべての科目を修得すること。
- (3) 修士の学位取得のため、必要な研究指導を受けた課題研究(または特別研究)を修得すること。

附 則

- 1 この規程は、平成28年7月20日から施行し、平成28年4月1日から適用する。
- 2 平成28年3月31日以前に入学した学生は、この規程の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 福井大学大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)における災害看護専門看護師資格取得のための履修に関する要項(平成25年3月14日 医学系研究科長裁定)は、廃止する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

授 業 科 目 に つ い て

【共 通 科 目】

注)「担当教員名」の○印は，単位認定者を表す。

【看護研究】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
看護研究		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○長谷川 智子 四谷 淳子 米澤 洋美 江本 リナ	教 授／基礎看護学 教 授／老年看護学 准教授／地域看護学 教 授／日本赤十字看護大学	hasekatz@u-fukui.ac.jp jyotsuya@u-fukui.ac.jp hyone@u-fukui.ac.jp emoto@redcross.ac.jp	
【1 学習目標】			
(1) 臨床看護実践の質の向上に資する看護研究の意義と主要な研究方法を習得する。 (2) 看護研究の知識と具体的なプロセスを学び、臨床の看護事象から研究主題を絞り込み、科学的探究と理論的解明ができる能力を養う。 (3) 帰納法・演繹法を理解したうえで、研究課題に合った研究方法を選択し計画する能力を養う。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 看護実践と研究のプロセス	(1) 臨床実践における研究活動の意義 (2) 研究主題の明確化と研究計画・方法・分析	長谷川智子 長谷川智子	
2) 研究における利益相反と倫理的配慮	(1) 利益相反への配慮 (2) 倫理的配慮と審査委員会の意義	四谷 淳子 四谷 淳子	
3) 文献検討の意義とエビデンス	(1) 文献の重要性と成果の活用 (2) 検索と吟味（クリティーク）	四谷 淳子 四谷 淳子	
4) 質的研究	(1) 研究の特徴 (2) データ収集方法 (3) データの分析と考察	米澤 洋美 米澤 洋美 米澤 洋美	
5) 量的研究	(1) 研究の特徴 (2) 調査研究方法 (3) 量的データの扱いと分析（統計的処理） (4) 結果の検討と考察	長谷川智子 長谷川智子 長谷川智子 長谷川智子	
6) アクションリサーチ	(1) アクションリサーチの概念 (2) 看護実践とアクションリサーチ	江本 リナ 江本 リナ	
【3 授業形式】			
講義、プレゼンテーション、ディスカッション			
【4 評価方法】			
授業参加態度、課題など			
【5 教科書及び参考図書等】			
(1) 松本光子、小笠原知枝編. (2012) これからの看護研究、基礎と応用. ヌーベルヒロカワ：東京 (2) 石井京子、多尾清子. (2002) ナースのための質問紙調査とデータ分析. 医学書院：東京. (3) 浜田知久馬 (1999) 学会・論文発表のための統計学、統計パッケージを誤用しないために. 真興交易：東京. (4) 特集：臨床看護研究に求められるもの、INR、29（1）、2006. (5) 筒井真優美、江本リナ他. (2010) アクションリサーチ入門、看護研究の新たなステージへ. ライフサポート：東京.			
【6 その他】			
【課題】			
✔ 研究計画書を A4 レポート 2 枚にまとめること。 ✔ テーマは何でも可 ✔ 調査内容を明記する必要があるが、調査票を作成する必要はない。			

【看護倫理】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
看護倫理		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○長谷川 美香 秋野 裕信 西村 高宏 米田 誠 松倉 早知子	教 授／地域看護学 教 授／医療安全管理部 准教授／医学教育・倫理学 教 授／福井県立大学 急性・重症患者看護専門看護師／ 日本赤十字社富山赤十字病院	mikah@u-fukui.ac.jp uroha@u-fukui.ac.jp tanishi@u-fukui.ac.jp myoneda@fpu.ac.jp matsukura@toyama-med.jrc. or.jp	
【 1 学習目標 】			
(1) 学習目標 卓越した看護実践の基礎となる倫理的調整に必要な基礎的能力を獲得するため、臨床看護の実践における倫理的問題を明確化し、倫理的調整の土台となる諸理論の特徴および問題解決に必要な知識を教授する。また、それらを踏まえ、看護実践場面で経験する倫理的問題を検討することで、自己の考え方を見直し、倫理的感受性を高め、専門看護師としての倫理的調整に必要な基礎的能力を獲得する。			
(2) 達成目標 1) 看護実践場面での倫理的調整に必要な生命倫理、看護倫理に関する知識を獲得する。 2) 看護実践場面で遭遇した倫理的問題を抱える事例を検討し、本人、家族、医療職等のそれぞれの立場・価値観の違いから生じる葛藤を明確化できる。 3) 看護実践場面で直面する倫理的問題について、専門看護師として発言することができる。			
【 2 授業内容 】			
(主題)		(学習内容)	(教員)
1) 倫理的調整に必要な基礎知識 1)		倫理原則：倫理原則に基づくアプローチ	長谷川
2) 〃 2)		看護実践上の倫理的概念：看護師の倫理的意思決定の基盤となる概念	長谷川
3) 倫理的意思決定への支援 1)		価値形成と価値の対立	長谷川
4) 〃 2)		医療職とインフォームド・コンセント	西 村
5) 〃 3)		医療者、患者、家族の意思決定	西 村
6) 看護実践場面で直面する			
	倫理的問題 1)	生命操作と倫理的問題 1)：生殖医療	西 村
7) 〃 2)		生命操作と倫理的問題 2)：遺伝子医療	米 田
8) 〃 3)		生命操作と倫理的問題 3)：事例検討	米 田
9) 〃 4)		臓器移植と倫理的問題：脳死・臓器移植	秋 野
10) 〃 5)		延命治療と倫理的問題：延命操作・薬害問題	西 村
11) 倫理的問題の検討		看護実践で直面する倫理的問題の分析方法	長谷川
12) 看護実践における倫理調整 1)		専門看護師としての倫理的調整の実際 1)	松 倉
13) 〃 2)		専門看護師としての倫理的調整の実際 2)	松 倉
14) 〃 3)		専門看護師としての倫理的調整の実際 3)	松 倉
15) 看護倫理と研究		CITI Japan PROGRAM	長谷川

【3 授業形式】 講義、グループワーク、事例検討
【4 評価方法】 授業、発表、討議への参加度
【5 教科書及び参考図書等】 教科書 1) サラ T. フライ著、片田範子・山本あい子訳：看護実践の倫理第3版、日本看護協会出版会、2010. 2) 宮坂道夫著、医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ（第3版）：医学書院、2016. その他、講義で適宜提示する。また、必要に応じて資料を配布する。 参考書 1) 岡崎寿美子、小島恭子編集；ケアの質を高める看護倫理 ジレンマを解決するために、医歯薬出版株式会社、2002
【6 その他】

【看護理論】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
看護理論		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○上野 栄一 川嶋 みどり 宮脇 美保子 山勢 善江 月田 佳寿美	教 授／基礎看護学 名誉教授／日本赤十字看護大学 教 授／慶応義塾大学 教 授／日本赤十字九州国際看護大学 准教授／成人・老年看護学	eiichiu@u-fukui.ac.jp MidoriKawashima@nifty.com mmiyawa@sfc.keio.ac.jp y-yamase@jrckicn.ac.jp tsuki@u-fukui.ac.jp	
【1 学習目標】 看護理論の変遷と諸理論の特徴について知識を深め、諸理論と看護現象との関係について理解し、各看護領域の実践、教育、研究に活用するための視点を探求する。また、その存在論的、認識論的、方法論的前提を分析し、看護の理論的基盤を模索する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 概念と理論 (1)	概念と理論、理論の種類、理論の生成過程	上野	
2) 概念と理論 (2)	看護理論の歴史、理論の実践での活用	上野	
3) 看護と関連領域の理論 (1)	中範囲理論、ストレス理論と活用	山勢	
4) 看護と関連領域の理論 (2)	危機理論と活用	山勢	
5) 看護理論と実践	看護理論と看護過程	上野	
6) 看護理論 (環境論)	ナイチンゲール看護理論と活用 (1)	川嶋	
7) 看護理論 (環境論)	ナイチンゲール看護理論と活用 (2)	川嶋	
8) 看護理論 (ニード論)	ヘンダーソンの看護理論と活用	月田	
9) 看護理論 (ニード論)	オレムのセルフケア理論と活用	月田	
10) 看護理論 (システム論)	ロイの適応モデルの活用、ペプロウ、	上野	
(対人関係理論)	トラベルビー理論と活用		
11) 看護理論と中範囲理論	看護理論・中範囲理論と実践	上野	
12) 看護理論 (ケアリング) (1)	ワトソン看護理論と活用 (1)	宮脇	
13) 看護理論 (ケアリング) (2)	ワトソン看護理論と活用 (2)	宮脇	
14) 看護と関連領域の理論 (1)	ベナー：看護ケアの臨床知の活用 (1)	月田	
15) 看護と関連領域の理論 (2)	ベナー：看護ケアの臨床知の活用 (2)	月田	
【3 授業形式】 講義、グループワーク、発表、討議			
【4 評価方法】 授業、発表 (プレゼンテーション)、討議への参加度、レポート等により総合的に評価する。 評価基準：プレゼンテーション(30%)、討議への参加(20%)、レポート(50%)で総合評価する。			

【5 教科書及び参考図書等】

〔参考図書〕

Hesook Suzie Kim ; 上鶴重美監訳 : 看護学における理論思考の本質、看護協会出版会、2003.

松本光子、小笠原知枝、久米弥寿子編集 : 看護理論 — 理論と実践のリンケージ、ヌーベルヒロカワ、2006.

Marriner-Tomey A. ; 都留伸子監訳 : 看護理論家とその業績、医学書院、1995.

ジュリア・B・ジョージ編 ; 南裕子、野嶋佐由美、近藤房恵訳 (増補改訂版) : 看護理論集 — より高度な看護実践のために、日本看護協会出版会、1998.

Connie M. Dennis ; 小野寺杜紀監訳 : オレム看護論入門 — セルフケア不足看護理論へのアプローチ、医学書院、1999.

Justus Akinsanya, Greg Cox, Carol Crouch, Lucy Fletcher ; 木村留美子、山形賀津子、乾留実子訳 : 《看護モデルを使う 4》ロイの適応モデル、医学書院、1995.

井上智子監訳 : ベナー看護ケア医学書院 2005

アン・マリナー・トメイほか編著、都留伸子監訳、看護理論家とその業績、医学書院、2004.

城ヶ端初子監修、実践に生かす看護理論 19、医学芸術社、2005.

その他、講義で適宜提示する。また、必要に応じて資料を配布する。

【6 その他】

【看護教育論】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
看護教育論		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○繁田 里美 白鳥 さつき 松倉 早知子	准教授／成人・老年看護学 教 授／愛知医科大学 急性・重症患者看護専門看護師／富山 赤十字病院	shigeta@u-fukui.ac.jp sswan486@aichi-med-u.ac.jp matsukura@toyama-med.jrc.or.jp	
【1 学習目標】			
1) 看護実践・教育における教育的機能を効果的に果たすために必要な教育学の基礎理論を理解し、看護の継続教育に必要な知識と技術を修得する。			
2) 看護実践力向上に必要な実践知・理論知に基づく教育力・判断力を養い、専門看護師としての看護教育実践活動が展開できる能力を養う。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 教育学の基礎理論(1)	看護実践における教育の重要性 学習活動に影響する要因	繁田	
2) 教育学の基礎理論(2)	実践知とは	繁田	
3) 教育学の基礎理論(3)	教育方略と教育評価	繁田	
4) 臨床看護実践における学習者の理解と成人学習(1)	成人学習論における学習過程	白鳥	
5) 臨床看護実践における学習者の理解と成人学習(2)	臨床看護実践における学習支援	白鳥	
6) 専門看護師教育と生涯教育(1)	キャリア形成と能力開発(1)	白鳥	
7) 専門看護師教育と生涯教育(2)	キャリア形成と能力開発(2)	白鳥	
8) 教育活動と継続教育(1)	専門看護師の教育的役割	松倉	
9) 教育活動と継続教育(2)	看護ケア向上における教育的機能	松倉	
10) 教育活動と継続教育(3)	看護教育活動の実践(1)	松倉	
11) 看護実践における教育課題の検討	プレゼンテーション(1)	繁田	
12) 看護実践における教育課題の検討	討議(1)	繁田	
13) 看護実践における教育活動の検討	プレゼンテーション(2)	繁田	
14) 看護実践における教育活動の検討	討議(2)	繁田	
15) 看護実践における教育活動の検討	討議とまとめ(3)	繁田	
【3 授業形式】			
講義及びプレゼンテーションと討議			

【4 評価方法】

修学状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

- 1) ドナルド・ショーン：専門家の知恵 ゆるみ出版.
- 2) ドナルド・A・ショーン：柳沢昌一他(監訳) 省察的实践とは何か-プロフェッショナルの行為と思考- 鳳書房.
- 3) ジーン・レイヴ エティエンヌ・ウェンガー：佐伯 胖(訳)状況に埋め込まれた学習-正統的周辺参加 産業図書.
- 4) サラ・バーンズ編：田村由美他(監訳)看護における反省的实践-専門的プラクティショナーの成長- ゆるみ出版.
- 5) ユーリア・エングストローム：山住勝広他(訳)拡張による学習-活動理論からのアプローチ- 新曜社.
- 6) ジョン・デューイ：市村尚久(訳)学校と社会 子供とカリキュラム 講談社学術文庫.

【6 その他】

看護教育に興味のある方、臨床及び教育現場において教育的役割を担う方もしくは今後そのような領域で活動することを希望する方は是非一緒に学びましょう。

【看護管理論】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
看護管理論		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属		E メールアドレス
○上野 栄一 江守 直美 尾崎 フサ子	教 授／基礎看護学 看護部長／看護部 特任教授／新潟リハビリテーション 大学大学院		eiichiu@u-fukui.ac.jp naomi@u-fukui.ac.jp ozaki@nur.ac.jp
【1 学習目標】			
1) 保健医療システムについて理解し、看護管理者として携わる看護職と協力して、専門看護師としての職務が遂行できるように専門的知識を学ぶ。 2) 看護サービスの特徴とアウトカムとしての評価方法について説明できる。 3) 医療政策、政策決定への影響力、社会の変化を裏づけ説明できる。 4) 看護管理上の課題を理解する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 看護管理とは	看護管理の概念、看護管理の構成要素、 看護管理のプロセス	上野	
2) 看護管理に影響する要因	看護管理に影響する内的・外的環境	上野	
3) 組織の概念	近代的組織論、組織の成り立ちと構想、 動機づけ理論、組織文化と組織倫理	上野	
4) 組織と意思決定	組織の意思決定、問題解決と問題解決技法、 コンフリクト、特性理論、パス・ゴール・モデル、 SL 理論、変革理論	上野	
5) 医療・看護の質保証（1）	医療・看護ケアの評価方法とインディケーター	上野	
6) 医療・看護の質保証（2）	医療・看護ケアの評価と質保証、診療報酬制度、 看護の診療報酬	上野	
7) 看護サービス論（1）	サービスの概念と看護サービスにおける人材開発	江守	
8) 看護サービス論（2）	看護サービスのマネジメントと評価	江守	
9) 看護サービス論（3）	看護サービスと看護体制	江守	
10) キャリア発達	キャリアの概念とキャリア発達	尾崎	
11) 病院経営論（1）	病院経営の特徴、組織風土・組織文化	尾崎	
12) 病院経営論（2）	職場環境と職務満足（1）	尾崎	
13) 病院経営論（3）	職場環境と患者満足（2）	尾崎	
14) 看護経済・医療経済（1）	看護経済とは何か、医療経済とは何か（1）	上野	
15) 看護経済・医療経済（2）	看護経済とは何か、医療経済とは何か（2）	上野	
【3 授業形式】			
講義形式			
【4 評価方法】			
レポート課題 50%、発表 25%、討議への参加度 25% レポート課題については、講義中に課題を発表する。A4 用紙 2 枚程度。必ず文献を読み記載すること。			

【5 教科書及び参考図書等】

井部俊子・中西睦子監修：看護マネジメント論：看護管理学習テキスト第2版第3巻、日本看護協会出版会、2012

井部俊子・中西睦子監修：看護組織論：看護管理学習テキスト第2版、日本看護協会出版会、2012

変革のマネジメントー組織と人をめぐる理論・政策・実践、内野崇、生産性出版、2006

井部俊子著：マネジメントの探究、ライフサポート社、2007.

勝原裕美子著：看護師のキャリア論、ライフサポート社、2007

アン・ワジナー著：アウトカム・マネジメント 日本看護協会出版会、2003.

＊その他、講義で適宜提示する。また、必要に応じて資料を配布する。

【6 その他】

看護管理は患者や家族に最も効果的な看護ケア、安楽を与えるための看護職が行う仕事のプロセスです。本授業ではマネジメントサイクル、組織構造、看護提供システム、目標管理、キャリア開発、看護の質の評価と管理等について学びます。多くの経営学書にも目を通してほしい。また、新聞の経済面にも関心をもって講義に臨んでほしい。

【看護政策論】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
看護政策論		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○上野 栄一 江守 直美 井部 俊子 森山 美知子	教 授／基礎看護学 看護部長／看護部 特任教授／聖路加国際大学 教 授／広島大学	eiichiu@u-fukui.ac.jp naomi@u-fukui.ac.jp ibetoshi@slcn.ac.jp morimich@hiroshima-u.ac.jp	
【1 学習目標】			
1) 社会的な看護のあり方を政策として把握し、看護政策や変革を推進するための看護制度の運営に参加できる基礎的能力の向上のために、関連知識を得る。			
2) 保健医療システム、人的資源活用および組織論に関する基礎理論を理解するとともに、専門職としての能力基盤を高める。			
3) 医療政策、看護政策の形成過程と影響力について探究する。			
4) 政策が策定される過程の検討、政策の分析を通じ、看護実践に対する新しい視点を培う。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 社会及び保健・福祉・医療政策システムと看護の役割	看護の質保証とは何か 看護の質保証と看護の役割・機能	上野	
2) 医療経済システムと看護の役割	医療経済システムとは何か 医療経済と看護の接点	上野	
3) 医療法制度と看護の役割	医療法制度の歴史 看護政策形成過程 医療法制度と看護との関係	上野	
4) 福祉と看護の連携	福祉と政策、母子保険と政策	上野	
5) 医療政策と病院経営	国民の医療ニーズに基づく良質の医療提供体制	江守	
6) 医療事故と法的解釈	医療事故の対応と経営への影響―事例分析	江守	
7) 専門看護師の組織への導入	専門看護師の活躍の場―具体的事例	江守	
8) 政策のあり方やその立案、実施、評価の過程	看護政策のプロセス（医療提供体制の改革）	上野	
9) 政策のあり方やその立案、実施、評価の過程（1）	看護政策のプロセス（看護政策の分析）	井部	
10) 政策のあり方やその立案、実施、評価の過程（2）	看護政策のプロセス（看護行政の課題）	井部	
11) 看護改革や政策に関する研究方法（1）	看護研究成果から政策に活かすアプローチ（1）	上野	
12) 看護改革や政策に関する研究方法（2）	看護研究成果から政策に活かすアプローチ（2）	上野	

13) Change Agent としての 上級看護実践者(1)	上級看護実践/専門看護実践の展開の障害/問題点を生み出す構造について、多角的に分析する。日本及び諸外国における上級看護実践の制度と法的位置づけ。	森山
14) Change Agent としての 上級看護実践者(2)	上級看護実践/専門看護実践の展開の障害/問題点を生み出す構造について、多角的に分析する。日本及び諸外国における保険制度(支払制度を含む)、ヘルスケア提供システム。	森山
15) Change Agent としての 上級看護実践者(3)	上級看護実践/専門看護実践の今後の発展と担う役割。 疾病構造の変化、QOL、費用対効果に対応するヘルスケア提供システムへの転換と上級看護実践者の役割。	森山
【3 授業形式】 講義		
【4 評価方法】 レポート 50%、プレゼンテーション 30%、討論参加 20% とする。		
【5 教科書及び参考図書等】 [参考図書] 井部俊子著(2007). マネジメントの探究. ライフサポート社、2007 井部俊子、中西睦子監修：看護管理学習テキスト〈別巻 2012 年版〉看護管理基本資料集、日本看護協会出版会、2012 矢野、井上、今田、宮古他：「提言：魅力ある看護のために」、労働旬報社 1994. 森山美知子：新しい慢性疾患ケアモデル-ディジーズマネジメントとナーシングケースマネジメント、中央法規、2008		
【6 その他】 看護政策論では広く社会の仕組みの中で、看護のあり方に関する知識を習得し、それを看護実践において活用することが重要です。積極的な授業への参加を望みます。		

【コンサルテーション論】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
コンサルテーション論		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○長谷川 智子	教 授／基礎看護学	hasekatz@u-fukui.ac.jp	
上野 栄一	教 授／基礎看護学	eiichiu@u-fukui.ac.jp	
上原 佳子	准教授／基礎看護学	uehara@u-fukui.ac.jp	
齋藤 清二	教 授／立命館大学	sights8823@gmail.com	
西端 若由	慢性呼吸器疾患認定看護師／福井循環器病院	godspeed@tempo.ocn.ne.jp	
細田 清美	感染管理認定看護師／福井県済生会病院	hosoda.kiyomi8025@fukui.saiseikai.or.jp	
室井 洋子	感染看護認定看護師／福井大学医学部附属病院	ymuroi@u-fukui.ac.jp	
竹川 幸恵	専門看護師／大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター	takekaway@ra.opho.jp	
【1 学習目標】			
(1)学習目標			
専門看護師等の高度実践看護師が看護師や管理者などから臨床的な相談を受けた時、その相談内容を分析し、状況を改善するための知識や技術を助長するようなケアが提供できるように基礎的知識およびカウンセリングや問題解決技法を修得する。また、専門看護師等による高度な知識と技術を駆使した実践的なコンサルテーションのあり方を理解し、実践できる能力を修得する。			
(2)達成目標			
1) 高度実践看護師によるコンサルテーションの概念を述べることができる。			
2) 臨床的な相談に対して、高度実践看護師として専門的な状況分析ができる。			
3) 臨床的問題に対して、高度実践看護師として問題解決に向けた技術を提供できる。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) コンサルテーションの定義 1	コンサルテーションの概念と定義	長谷川	
2) コンサルテーションの定義 2	コンサルテーションの概念と定義	上原	
3) コンサルテーションの定義 3	コンサルテーションが使われる分野と定義	上野	
4) コンサルテーションと コミュニケーション技法論(1)	マイクロカウンセリング技法の枠組みと個別技法について理解する。	齋藤	
5) コンサルテーションと コミュニケーション技法論(2)	マイクロカウンセリング技法の枠組みと個別技法について応用する。	〃	
6) コンサルテーションと ナラティブ・アプローチ(1)	ナラティブ・インタビューと無知の姿勢	〃	
7) コンサルテーションと ナラティブ・アプローチ(2)	ナラティブの書き換えと変容、医療メデイエーションとナラティブ	〃	
8) コンサルテーションの実際	慢性呼吸器疾患看護におけるコンサルテーションの実際	西端	
9) コンサルテーションの実際	〃	〃	

10)	コンサルテーションの実際	感染管理認定看護師のコンサルテーション	細田
11)	コンサルテーションの実際	〃	〃
12)	コンサルテーションの実際	医療施設内の感染管理に関するコンサルテーション	室井
13)	コンサルテーションの実際	〃	〃
14)	コンサルテーションの実際	専門看護師によるコンサルテーション	竹川
15)	コンサルテーションの実際	〃	〃
【3 授業形式】 講義、グループワーク			
【4 評価方法】 授業，発表，討議への参加度			
【5 教科書及び参考図書等】 [参考図書] (1)佐藤直子：専門看護師制度 理論と実践、医学書院、1999. (2)斎藤清二（著）：『はじめての医療面接ーコミュニケーション技法とその学び方』．医学書院，2000. (3)Greenhalgh T, Hurwitz B （編）（斎藤清二他監訳）：『ナラティブ・ベイスト・メディスンー臨床における物語と対話』．金剛出版，2001. (4)斎藤清二・岸本寛史：『ナラティブ・ベイスト・メディスンの実践』，金剛出版，2003.			
【6 その他】 《課題レポート》 以下の内容について考えをまとめ、レポート（A4 で3 ページ以内）を作成すること。 ● 自らのコンサルタントあるいはコンサルティとしての経験についてまとめ、その時の自らの行動と考えるについて客観的に評価する。 ● コンサルテーション論の講義に対する感想			

【ヘルスアセスメント】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
ヘルスアセスメント		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○長谷川 智子 上原 佳子 木村 哲也 山村 修 大藤 和也 松田 秀岳 早稲田 優子 上田 真弓	教 授／基礎看護学 准教授／基礎看護学 准教授／救急医学 講 師／地域医療推進講座 助 教／内科学（2） 助 教／内科学（2） 助 教／内科学（3） 認定看護師／加賀市医療センター	hasekatz@u-fukui.ac.jp uehara@u-fukui.ac.jp tkimu@u-fukui.ac.jp kapi@u-fukui.ac.jp kzzyy@u-fukui.ac.jp hidem@u-fukui.ac.jp m.ueda@city.kaga.lg.jp	
【1 学習目標】 複雑な健康問題をもった対象の身体状況を査定し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を学ぶ。看護学の視点から人々の健康についてアセスメントすることができる。			
【2 授業内容】			
(学習内容)		(教員)	
1 看護ヘルスアセスメント		上原	
2 聴診すべき呼吸音・呼吸の聴診方法と意味づけ		早稲田	
3 循環のフィジカルアセスメント		木村	
4 心臓の聴診—正常心音		木村	
5 心臓の聴診—心雑音		木村	
6 腹部のアセスメント		大藤	
7 中枢神経系のアセスメント		山村	
8 症状論—意識障害		山村	
9 症状論—頭痛		山村	
10 症状論—頭痛		長谷川	
11 症状論—胸痛		松田	
12 症状論—呼吸困難		長谷川	
13 聴診による呼吸の判断		上田	
14 呼吸循環の総合アセスメント		上田	
15 医学的診断から看護アセスメントとしての発展、 看護の戦略的展開についてのグループワーク		長谷川・上田	

【3 授業形式】 講義、グループワーク、発表
【4 評価方法】 授業・討論への参加内容、文献レビュー
【5 教科書及び参考図書等】 看護のための臨床病態学(南山堂 2012) Bates' Guide to Physical Examination And History Taking (Lynn S Bickley) 11TH edition, Lippincott, 2012 Egan's Fundamentals of Respiratory Care (RL Wilkins 他編) 10th edition, Mosby, 2012
【6 その他】 グループワークでは《医学的診断から看護アセスメントとしての発展、看護の戦略的展開》についてレポート（2 ページ程度/A4）にまとめ、自らの考えを述べる準備をして臨んでください。 なお、レポートはグループワーク当日に提出すること。

【病態生理学】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
病態生理学		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○上野 栄一	教 授／基礎看護学	eiichiu@u-fukui.ac.jp	
酒井 明子	教 授／臨床看護学	sakaiaki@u-fukui.ac.jp	
石塚 全	教 授／内科学(3)	tamotsui@u-fukui.ac.jp	
岩崎 博道	教 授／感染症・膠原病内科	hiwasaki@u-fukui.ac.jp	
吉田 好雄	教 授／産科婦人科学	yyoshida@u-fukui.ac.jp	
浦崎 芳正	教 授／保健管理センター	urasakiy@u-fukui.ac.jp	
平松 活志	准教授／光学医療診療部	hiramat@u-fukui.ac.jp	
宇隨 弘泰	准教授／循環器内科	huzui@u-fukui.ac.jp	
東間 正人	准教授／神経科精神科	mtohma@u-fukui.ac.jp	
松田 秀岳	助 教／内科学(2)	hidem@u-fukui.ac.jp	
粕野 健一	助 教／循環器内科	kaseno@u-fukui.ac.jp	
高橋 直生	助 教／腎臓内科	ntakahas@u-fukui.ac.jp	
重松 陽介	客員教授／福井大学	yosuke@u-fukui.ac.jp	

【1 学習目標】

エビデンスに基づき、対象の病態生理学的変化を解釈、判断するために必要な知識と技術について学ぶ。病態生理の知識を適用し、科学的根拠をもって看護援助方法を発展させることができる。

【2 授業内容】

(主題)	(学習内容)	(教員)
1 感染症	感染症の病態生理・診断・予防・治療的対応、 空気感染、飛沫感染、接触感染の予防	岩崎
2 呼吸器疾患	呼吸器疾患の病態生理と慢性呼吸器疾患、 在宅酸素療法、肺炎の種類と治療法	石塚
3 循環器疾患	循環器疾患の病態生理、循環器疾患の種類と発生頻度	宇隨
4 循環器疾患	循環器疾患の病態生理、循環器疾患の予防策	粕野
5 消化器疾患	消化器疾患の病態生理、 上部消化管・下部消化管の解剖生理、内視鏡検査	平松
6 消化器疾患	消化器疾患の病態、胃の解剖生理、 胃潰瘍とヘリコバクターピロリについての治療法	松田
7 内分泌・代謝疾患	糖尿病・高血圧の病態生理、糖尿病の3大合併症、 糖尿病予防、目標値	上野
8 腎・泌尿器疾患	腎・泌尿器疾患の病態生理、腎臓の解剖生理、 血液透析の基礎と実際、腹膜透析の原理と種類、 持続濾過透析	高橋
9 血液疾患	血液疾患の病態生理、血液疾患の原因分類、 貧血の定義と治療法、造血剤、輸血の種類と注意点	浦崎
10 膠原病	膠原病の病態生理、関節リウマチの病態生理と治療法	岩崎
11 小児救急疾患	小児救急疾患の病態生理、小児慢性疾患への対応	重松

12	産婦人科救急疾患	産婦人科救急疾患の病態生理、 妊娠初期・中期に多い産科救急疾患と治療法	吉田
13	精神疾患	精神疾患の病態と対応、 サイコロジカルファーストエイド	東間
14	看護実践における 病態生理学	病態生理と看護判断のグループワーク	上野・酒井
15	看護実践における 病態生理学	病態生理と高度実践看護のプレゼンテーション	上野・酒井
【3 授業形式】 講義			
【4 評価方法】 レポート提出による評価			
【5 教科書及び参考図書等】			
【6 その他】			

【臨床薬理学】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
臨床薬理学		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○出口 洋二	教 授／環境科学		ydegu@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】			
緊急応急処置、症状調整、慢性疾患管理に必要な薬剤を中心に、薬剤使用の判断、投与後のモニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識と技術を学ぶ。			
【2 学習目標】			
	(主題)	(学習内容)	(教員)
1	医薬品総論 1)	医薬品の分類と関連する法律	出口
2	医薬品総論 2)	医薬品の作用原理と影響要因	出口
3	医薬品総論 3)	医薬品を適正に使用するための注意事項	出口
4	生活習慣病に使用する医薬品の機序と服用上の注意点		出口
5	がん・痛みに使用する医薬品の機序と服用上の注意点		出口
6	感染症に使用する医薬品の機序と服用上の注意点		出口
7	脳・中枢神経系疾患に使用する医薬品の機序と服用上の注意点		出口
8	救命救急時に使用する主要医薬品の機序と服用上の注意点		出口
9	アレルギー・免疫不全に使用する医薬品の機序と服用上の注意点		出口
10	消化器疾患に使用する医薬品の機序と服用上の注意点		出口
11	その他の症状調整に使用する医薬品の機序と服用上の注意点		出口
12	臨床薬物動態学		出口
13	医薬品開発と臨床試験		出口
14	医薬品情報の活用		出口
15	全体総括		出口
【3 授業形式】			
講義、グループワークと発表			
【4 評価方法】			
授業で学んだ概要と薬物療法における臨床薬理学の意義と看護師の役割について考察したレポート（A4 10 枚程度）を提出させ学習成果を評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】			
教科書：『臨床薬理学 第4版』（古川裕之他編，メディカ出版，2016 年）			
参考書：『イメージできる臨床薬理学』（ナーシング・サプリ編集委員会編、メディカ出版，2017 年）			
『臨床薬理学 第4版』（日本臨床薬理学会編，医学書院，2017 年）			
【6 その他】			
第1回の授業で、第4回～第14回（グループワークと発表）の班編成をする。			

【教育・研究領域科目】

注)「担当教員名」の○印は、単位認定者を表す。

【基礎看護学特論】

科 目 名		単位数	開 講 時 期																																																
基礎看護学特論		2 単位	1 年次前期																																																
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス																																																	
○長谷川 智子 上野 栄一 上原 佳子 本田 育美 吉岡 さおり	教 授／基礎看護学 教 授／基礎看護学 准教授／基礎看護学 教 授／名古屋大学大学院 准教授／京都府立医科大学	hasekatz@u-fukui.ac.jp eiichiu@u-fukui.ac.jp uehara@u-fukui.ac.jp ihonda@met.nagoya-u.ac.jp s-yoshi@koto.kpu-m.ac.jp																																																	
【1 学習目標】 学術的な論文の特徴を理解し、学術論文を作成する上で必要な基礎知識を身につける。 加えて、看護の対象となる人間を統合的・多面的に理解し捉えるために必要な様々なアセスメント方法とその評価について学ぶ。																																																			
【2 授業内容】 <table><tr><th>(主題)</th><th>(学習内容)</th><th>(教員)</th></tr><tr><td>1) 学術論文の基礎</td><td>学術論文の構成と内容</td><td>長谷川</td></tr><tr><td>2) 看護診断と研究</td><td>看護過程の展開と看護診断能力</td><td>長谷川</td></tr><tr><td>3) 看護における国際的視点</td><td>海外における看護の動向</td><td>長谷川</td></tr><tr><td>4) 疫学的視点</td><td>看護学における疫学的視点</td><td>長谷川</td></tr><tr><td>5) 学術論文の公表</td><td>効果的プレゼンテーション</td><td>長谷川</td></tr><tr><td>6) 現象学と看護</td><td>現象学の方法と看護への貢献</td><td>上野</td></tr><tr><td>7) 帰納法と演繹法からみた看護研究</td><td>帰納法と演繹法の特徴と看護研究への応用</td><td>上野</td></tr><tr><td>8) 尺度開発とは</td><td>尺度開発と必要な知識</td><td>上野</td></tr><tr><td>9) 尺度開発の方法</td><td>手順、質問項目の設定と質問表の作成 因子分析、信頼性・妥当性の検討</td><td>上野</td></tr><tr><td>10) 尺度の活用</td><td>尺度活用研究の講読</td><td>上野</td></tr><tr><td>11) 補完代替療法と看護(1)</td><td>補完代替療法と看護への応用</td><td>上原</td></tr><tr><td>12) 補完代替療法と看護(2)</td><td>補完代替療法に関する実験研究と評価</td><td>上原</td></tr><tr><td>13) 尺度開発事例</td><td>尺度開発過程の実際</td><td>吉岡</td></tr><tr><td>14) 人間の健康行動と評価</td><td>健康行動理論の概説と実際・評価</td><td>本田</td></tr><tr><td>15) 情報伝達の実際</td><td>効果的プレゼンテーションの実際</td><td>長谷川</td></tr></table>				(主題)	(学習内容)	(教員)	1) 学術論文の基礎	学術論文の構成と内容	長谷川	2) 看護診断と研究	看護過程の展開と看護診断能力	長谷川	3) 看護における国際的視点	海外における看護の動向	長谷川	4) 疫学的視点	看護学における疫学的視点	長谷川	5) 学術論文の公表	効果的プレゼンテーション	長谷川	6) 現象学と看護	現象学の方法と看護への貢献	上野	7) 帰納法と演繹法からみた看護研究	帰納法と演繹法の特徴と看護研究への応用	上野	8) 尺度開発とは	尺度開発と必要な知識	上野	9) 尺度開発の方法	手順、質問項目の設定と質問表の作成 因子分析、信頼性・妥当性の検討	上野	10) 尺度の活用	尺度活用研究の講読	上野	11) 補完代替療法と看護(1)	補完代替療法と看護への応用	上原	12) 補完代替療法と看護(2)	補完代替療法に関する実験研究と評価	上原	13) 尺度開発事例	尺度開発過程の実際	吉岡	14) 人間の健康行動と評価	健康行動理論の概説と実際・評価	本田	15) 情報伝達の実際	効果的プレゼンテーションの実際	長谷川
(主題)	(学習内容)	(教員)																																																	
1) 学術論文の基礎	学術論文の構成と内容	長谷川																																																	
2) 看護診断と研究	看護過程の展開と看護診断能力	長谷川																																																	
3) 看護における国際的視点	海外における看護の動向	長谷川																																																	
4) 疫学的視点	看護学における疫学的視点	長谷川																																																	
5) 学術論文の公表	効果的プレゼンテーション	長谷川																																																	
6) 現象学と看護	現象学の方法と看護への貢献	上野																																																	
7) 帰納法と演繹法からみた看護研究	帰納法と演繹法の特徴と看護研究への応用	上野																																																	
8) 尺度開発とは	尺度開発と必要な知識	上野																																																	
9) 尺度開発の方法	手順、質問項目の設定と質問表の作成 因子分析、信頼性・妥当性の検討	上野																																																	
10) 尺度の活用	尺度活用研究の講読	上野																																																	
11) 補完代替療法と看護(1)	補完代替療法と看護への応用	上原																																																	
12) 補完代替療法と看護(2)	補完代替療法に関する実験研究と評価	上原																																																	
13) 尺度開発事例	尺度開発過程の実際	吉岡																																																	
14) 人間の健康行動と評価	健康行動理論の概説と実際・評価	本田																																																	
15) 情報伝達の実際	効果的プレゼンテーションの実際	長谷川																																																	
【3 授業形式】 講義、グループワーク、発表、討議																																																			
【4 評価方法】 授業、グループワーク、発表、討議への参加度																																																			
【5 教科書及び参考図書等】 (1) 浜田麻里他：大学生と留学生のための論文ワークブック、くろしお出版、1997。 (2) 学習技術研究会：知枝のステップ第3版、くろしお出版、2011 (3) ベナー/ルーベル 難波卓志 訳：現象学的人間論と看護 医学書院 1999。 (4) 木下是雄(1996)：理科系の作文技術（第37版）.中央公論社、東京。 (5) 清水幾太郎（1993）：論文の書き方（第63版）.岩波書店、東京。																																																			

【6 その他】

【課題】

- 自らでテーマを決め、それについて以下の項目を満たしたレポートを作成すること。テーマは自分の好きなもの（こと、本、人、動物等）、趣味、はまっているもの（こと等）、人に紹介したいもの（こと等）とする。
- 好きな理由、はまっている理由等を客観的根拠を踏まえて述べること。
- 引用文献を入れること。
- 体裁はレポートの書き方あるいは American Psychology Association: APA フォーマットに従うこと。
- A4 レポート用紙 3 枚以内とすること。

【基礎看護学演習】

科 目 名		単位数	開 講 時 期																																	
基礎看護学演習		4 単位	1 年次後期																																	
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス																																		
○長谷川 智子 上野 栄一 上原 佳子	教 授／基礎看護学 教 授／基礎看護学 准教授／基礎看護学	hasekatz@u-fukui.ac.jp eiichiu@u-fukui.ac.jp uehara@u-fukui.ac.jp																																		
【1 学習目標】 修士論文のテーマに関する文献講読を通して研究課題を明確にして、課題に応じた研究方法、研究計画の作成能力、遂行能力を養う。																																				
【2 授業内容】 <table><tr><th>(主題)</th><th>(学習内容)</th><th>(教員)</th></tr><tr><td>1) 看護実践を踏まえた研究的課題の検討</td><td>研究動機の明確化</td><td>長谷川・上野・上原</td></tr><tr><td>2) 研究の意義・視点の検討</td><td>リサーチクエッション</td><td>〃</td></tr><tr><td>3) 過去の研究背景の分析</td><td>文献クリティーク</td><td>〃</td></tr><tr><td>4) 過去の研究における課題</td><td>文献クリティーク</td><td>〃</td></tr><tr><td>5) 研究の概念枠組の検討</td><td>理論的背景</td><td>〃</td></tr><tr><td>6) 研究方法の検討</td><td>帰納法的、演繹手法、研究デザイン</td><td>〃</td></tr><tr><td>7) 分析手法の検討</td><td>量的・質的な分析と相補関係</td><td>〃</td></tr><tr><td>8) 結果のまとめ方</td><td>結果の効果的な表示方法・書き方</td><td>〃</td></tr><tr><td>9) 考察と結論のまとめ方</td><td>考察と結論の効果的な表示方法・書き方</td><td>〃</td></tr><tr><td>10) 発表・プレゼンテーションの方法</td><td>効果的・説得力のあるプレゼンテーション</td><td>〃</td></tr></table>				(主題)	(学習内容)	(教員)	1) 看護実践を踏まえた研究的課題の検討	研究動機の明確化	長谷川・上野・上原	2) 研究の意義・視点の検討	リサーチクエッション	〃	3) 過去の研究背景の分析	文献クリティーク	〃	4) 過去の研究における課題	文献クリティーク	〃	5) 研究の概念枠組の検討	理論的背景	〃	6) 研究方法の検討	帰納法的、演繹手法、研究デザイン	〃	7) 分析手法の検討	量的・質的な分析と相補関係	〃	8) 結果のまとめ方	結果の効果的な表示方法・書き方	〃	9) 考察と結論のまとめ方	考察と結論の効果的な表示方法・書き方	〃	10) 発表・プレゼンテーションの方法	効果的・説得力のあるプレゼンテーション	〃
(主題)	(学習内容)	(教員)																																		
1) 看護実践を踏まえた研究的課題の検討	研究動機の明確化	長谷川・上野・上原																																		
2) 研究の意義・視点の検討	リサーチクエッション	〃																																		
3) 過去の研究背景の分析	文献クリティーク	〃																																		
4) 過去の研究における課題	文献クリティーク	〃																																		
5) 研究の概念枠組の検討	理論的背景	〃																																		
6) 研究方法の検討	帰納法的、演繹手法、研究デザイン	〃																																		
7) 分析手法の検討	量的・質的な分析と相補関係	〃																																		
8) 結果のまとめ方	結果の効果的な表示方法・書き方	〃																																		
9) 考察と結論のまとめ方	考察と結論の効果的な表示方法・書き方	〃																																		
10) 発表・プレゼンテーションの方法	効果的・説得力のあるプレゼンテーション	〃																																		
【3 授業形式】 ゼミナール形式で行う。																																				
【4 評価方法】 発表、討議への参加度																																				
【5 教科書及び参考図書等】 (1) D.F. ポーリット、B.P. ハングラー 近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法. 医学書院、1999. (2) 小笠原知枝、松木光子編：これからの看護研究、基礎と応用第3版. 医学書院、2012. また、講義の中で、適宜、参考図書を紹介します。																																				
【6 その他】																																				

【基礎看護学特別研究】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
基礎看護学特別研究		1 2 単位	2 年次通年
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○長谷川 智子 上野 栄一 上原 佳子	教 授／基礎看護学 教 授／基礎看護学 准教授／基礎看護学		hasekatz@u-fukui.ac.jp eiichiu@u-fukui.ac.jp uehara@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】			
1. 修士論文のテーマに関する文献講読を通して研究課題を明確にし、研究の意義を見出す。 2. 研究課題に応じた研究方法を選択し、研究計画を作成・実施する。 3. 得られたデータを的確に分析・考察し、研究の臨床的応用を見出す。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 研究課題の明確化	各自の研究課題、問題意識の明確化	長谷川・上野・上原	
2) 研究課題の現状と意義の検討	文献クリティーク	〃	
3) 研究方法の検討	研究の限界と研究デザインの検討	〃	
4) 研究計画の立案	研究デザインの作成	〃	
5) 研究計画の実施	計画の実施とデータ収集の実際	〃	
6) データ分析	データの分析とその解析方法	〃	
7) 結果の評価	結果と考察の文章化	〃	
8) 研究の文章化	修士論文の作成	〃	
9) 研究内容の公開	効果的プレゼンテーション	〃	
【3 授業形式】			
ゼミナール形式と個別指導			
【4 評価方法】			
発表内容、討議への参加度			
【5 教科書及び参考図書等】			
適宜、提示する。			
【6 その他】			

【地域看護学特論】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
地域看護学特論		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○長谷川 美香 出口 洋二 米澤 洋美 北出 順子 猫田 泰敏	教 授／地域看護学 教 授／環境科学 准教授／地域看護学 講 師／地域看護学 教 授／首都大学東京	mikah@u-fukui.ac.jp ydegu@u-fukui.ac.jp hyone@u-fukui.ac.jp jkitade@u-fukui.ac.jp nekoda@hs.tmu.ac.jp	
【1 学習目標】			
地域で生活している様々なライフステージの人々や地域を対象として、地域住民の健康管理、地域包括ケアシステムの構築およびQOLの向上を目指し、家族のアセスメント・介入、保健指導等の看護支援、統計の活用について学び、関連研究について理解を深める。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) ガイダンス	地域看護の定義	長谷川	
2) 家族の理論 1)	家族の発達段階と課題 1)	長谷川	
3) 同 2)	家族の発達段階と課題 2)	長谷川	
4) 家族のアセスメント・介入モデル 1)	カルガリーモデル 1)	長谷川	
5) 同 2)	カルガリーモデル 2)	長谷川	
6) 同 3)	カルガリーモデル 3)	長谷川	
7) ドメスティックバイオレンス	暴力が健康に与える影響、看護職の役割	長谷川	
8) 健康管理論 1)	母子保健	出 口	
9) 同 2)	成人保健	出 口	
10) 地域包括ケアシステム 1)	定義および概念	米 澤	
11) 地域包括ケアシステム 2)	在宅医療推進のための多職種間連携	米 澤	
12) 地域包括ケアシステム 3)	システムの構築と推進	米 澤	
13) 保健活動の方法	ポピュレーションアプローチ	北 出	
14) 量的看護研究の基礎 1)	研究概論	猫 田	
15) 同 2)	研究デザイン	猫 田	
【3 授業形式】			
プレゼンテーション、ディスカッション、講義			
【4 評価方法】			
授業参加態度、プレゼンテーション内容、課題レポート			

【5 参考図書等】

- (1) 森山美知子編：ファミリーナーシングプラクティスー家族看護の理論と実践、医学書院、2001.
- (2) 鈴木和子、渡辺裕子：家族看護学ー理論と実践第4版、日本看護協会出版会、2012.
- (3) 小林奈美、グループワークで学ぶ家族看護論第2版 カルガリー式家族モデル実践へのファーストステップ、医歯薬出版株式会社、2011.
- (4) ケヴィン・ブラウン／マーティン・ハーバート：藪本知二／甲原定房監訳：家族間暴力防止の基礎理論、明石書店：2004.
- (5) 平野かよ子、尾崎米厚編集：事例から学ぶ保健活動の評価、医学書院、2001.
- (6) 二木立：地域包括ケアと地域医療連携、勁草書房、2015
- (7) Penelope Hawe、Deirdre Degeling、Jane Hall 著、鳩野 洋子訳：
ヘルスプロモーションの評価ー成果につながる5つのステップ、医学書院、2003.
- (8) Geoffrey Rose：予防医学のストラテジー、医学書院、1998.
- (9) Glanz/Rimer/Lewis：健康行動と健康教育ー理論、研究、実践ー、医学書院、2006

【6 その他】

非常勤講師の講義日程は調整のうえ連絡する。

【地域看護学演習】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
地域看護学演習		4 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○長谷川 美香 出口 洋二 米澤 洋美	教 授／地域看護学 教 授／環境科学 准教授／地域看護学		mikah@u-fukui.ac.jp ydegu@u-fukui.ac.jp hyone@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】			
地域看護学関連の理論・実践に関する文献のクリティークを通して、研究課題・研究方法について考察し、研究課題を明確にするための研究計画の立案に必要な基礎的能力を修得する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 課題文献の輪読	地域看護・保健理論および自らの研究課題に関連したテーマの文献収集およびクリティークを行ないプレゼンテーションに必要な資料を作成する。	長谷川 出 口 米 澤	
2) 課題の明確化	文献クリティークを通して、自らの研究課題を明確化する。 クリティークを行なった文献は、基礎資料としてまとめておく。	長谷川 出 口 米 澤	
3) 研究計画立案	研究課題を明確にするために必要な研究計画書を作成する。 その際、研究実施に不可欠な視点である倫理的問題についても考察する。	長谷川 出 口 米 澤	
4) 分析手法	分析手法に関する基礎知識を学ぶ。	長谷川 出 口 米 澤	
【3 授業形式】			
プレゼンテーション、ディスカッション			
【4 評価方法】			
授業参加態度、プレゼンテーション内容・資料			
【5 教科書及び参考図書等】			
(1) D. F. ポーリット, C. T. ベック 近藤潤子監訳:看護研究 原理と方法 第2版. 医学書院 2010. (2) 対馬栄輝著:「SPSSで学ぶ医療系多変量データ解析」. 東京図書 2008. (3) 上野栄一・出口洋二・一ノ山隆司著「楽になる看護研究」メヂカルフレンド社 2012. (4) 奥田千恵子著「医薬研究者のための評価スケールの使い方と統計処理」金芳堂 2007.			
【6 その他】			

【地域看護学特別研究】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
地域看護学特別研究		1 2 単位	2 年次通年
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○長谷川 美香 出口 洋二 米澤 洋美	教 授／地域看護学 教 授／環境科学 准教授／地域看護学		mikah@u-fukui.ac.jp ydegu@u-fukui.ac.jp hyone@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】			
研究課題を探索し、調査、分析、考察の過程を通して、研究に必要な知識、技術等の基礎的能力を修得する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 研究実施への準備	研究目的、意義を再確認し、研究計画に基づき調査項目の精選を行なう。また、研究フィールドを開拓し、研究実施への協力依頼を行なう。	長谷川 出 口 米 澤	
2) 研究実施への準備	研究フィールドへ出向き、対象者への調査を行なう。	長谷川 出 口 米 澤	
3) 分析	課題を明確にするために最も適切な分析手法を選択し、収集したデータを分析手法に基づき分析する。	長谷川 出 口 米 澤	
4) 論文作成	論理性を考慮し、論文の構成を考える。また、分析結果から先行研究との比較、結果が意味するもの等を考察するとともに、研究結果を示す図表の作成を行なう。	長谷川 出 口 米 澤	
5) プレゼンテーション準備	プレゼンテーションに必要な抄録およびパワーポイント資料を作成する。プレゼンテーションについては、必ず発表前にリハーサルを行なう。	長谷川 出 口 米 澤	
【3 授業形式】			
プレゼンテーション、ディスカッション、個別指導			
【4 評価方法】			
授業参加態度、修士論文および修士論文発表内容			
【5 教科書及び参考図書等】			
(1) D. F. ポーリット, C. T. ベック 近藤潤子監訳:看護研究 原理と方法 第2版. 医学書院 2010. (2) 対馬栄輝著:「SPSSで学ぶ医療系多変量データ解析」. 東京図書 2008. (3) 上野栄一・出口洋二・一ノ山隆司著「楽しくなる看護研究」メヂカルフレンド社 2012. (4) 奥田千恵子著「医薬研究者のための評価スケールの使い方と統計処理」金芳堂 2007.			
【6 その他】			

【成人看護学特論】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
成人看護学特論		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○繁田 里美 磯見 智恵 月田 佳寿美	准教授／成人・老年看護学 教 授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp tsuki@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】 成人期にある人と家族への看護の基盤となる概論・理論について探求し、研究の視点と概要について基本的な体系づけおよび研究を展開する基礎的能力を習得する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 成人期にある人の成長発達①	理論を用いた分析	繁田	
2) 成人期にある人の成長発達②	リフレクションでの事例検討	繁田	
3, 4) セルフケア理論	理論を用いた事例検討	磯見	
5, 6) ケアリング理論	理論を用いた事例検討	月田	
7) 危機理論	理論を用いた事例検討	月田	
8) Stress と対処および適応	理論を用いた事例検討	繁田	
9) 対人関係理論	理論を用いた事例検討	繁田	
10) 適応理論	理論を用いた事例検討	月田	
11) "	理論を用いた事例検討	月田	
12) 事例検討	理論を用いた事例検討	繁田・磯見・月田	
13) 研究の検討	"	"	
14) "	研究論文のクリティーク	繁田・磯見・月田	
15) "	"	"	
【3 授業形式】 講義・プレゼンテーションおよび検討			
【4 評価方法】 レポート・プレゼンテーション及び講義参加状況			
【5 教科書及び参考図書等】 講義時提示			
【6 その他】			

【成人看護学演習】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
成人看護学演習		4 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○ 繁田 里美 磯見 智恵 月田 佳寿美 川口 めぐみ	准教授／成人・老年看護学 教 授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学 講 師／精神看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp tsuki@u-fukui.ac.jp senmegu@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】			
成人期にある対象の健康及び健康障害における看護に関する文献を研究的視点をもって分析し、研究課題を明確にするために課題探求の基礎的能力を修得する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 文献クリティーク	成人期の健康問題および看護実践に関する研究を多角的視点で検討し、体系的に知識を整理し、関連のある文献のクリティークができる。	繁田・磯見・月田 川口	
2) 研究論文のクリティーク	関心のある領域において、多様なデザインの研究論文のクリティークのスキルを養い、研究能力を身につける。 英文論文の抄読 (0.5 単位) 文献クリティーク (1.5 単位)	〃	
3) 研究課題の明確化と研究計画の立案	自分の研究課題を明確にし、研究を展開するための基盤を形成することができる。(2 単位) ・指導担当教員の指導・助言のもとに自分の研究課題を焦点化できる。 ・研究課題に関する文献を収集し、文献クリティークができる。 ・研究課題に対する研究計画が立案できる。	〃	
【3 授業形式】			
研究動機から主題として絞り込みをする段階を演習担当教員・指導教員とともに文献クリティークを主要な活動として展開するので、プレゼンテーション、意見交換の形式をとる。			
【4 評価方法】			
レポート及び研究課題に対する取組状況			
【5 教科書及び参考図書等】			
適宜紹介する。			
【6 その他】			

【成人看護学特別研究】

科 目 名		単位数	開 講 時 期																					
成人看護学特別研究		1 2 単位	2 年次通年																					
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス																						
○ 繁田 里美 酒井 明子 磯見 智恵 月田 佳寿美 川口 めぐみ	准教授／成人・老年看護学 教 授／災害看護学 教 授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学 講 師／精神看護学	shigeta@u-fukui.ac.jp sakaiaki@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp tsuki@u-fukui.ac.jp senmegu@u-fukui.ac.jp																						
【1 学習目標】 成人期にある対象に関する自己の研究課題を設定し、指導教員の指導及び助言を活用し、研究活動を展開して修士論文を作成する。																								
【2 授業内容】 <table><tr><td>(主題)</td><td>(学習内容)</td><td>(教員)</td></tr><tr><td>1) 研究課題の明確化と研究計画の立案</td><td>研究課題に基づいて研究計画の概要を明確にすることができる。</td><td>酒井・繁田・磯見 月田・川口</td></tr><tr><td>2) 研究計画の調整</td><td>研究計画に基づいて計画の実施についての調整ができる。</td><td>〃</td></tr><tr><td>3) データ収集</td><td>研究計画に基づいて研究を展開することができる。</td><td>〃</td></tr><tr><td>4) データの分析, 考察</td><td>研究結果について多面的に検討し、先行論文との比較検討ができる。</td><td>〃</td></tr><tr><td>5) 研究論文の作成</td><td>研究論文を作成することができる。</td><td>〃</td></tr><tr><td>6) 発表</td><td>作成した論文に基づいて、発表し、説明することができる。</td><td>〃</td></tr></table>				(主題)	(学習内容)	(教員)	1) 研究課題の明確化と研究計画の立案	研究課題に基づいて研究計画の概要を明確にすることができる。	酒井・繁田・磯見 月田・川口	2) 研究計画の調整	研究計画に基づいて計画の実施についての調整ができる。	〃	3) データ収集	研究計画に基づいて研究を展開することができる。	〃	4) データの分析, 考察	研究結果について多面的に検討し、先行論文との比較検討ができる。	〃	5) 研究論文の作成	研究論文を作成することができる。	〃	6) 発表	作成した論文に基づいて、発表し、説明することができる。	〃
(主題)	(学習内容)	(教員)																						
1) 研究課題の明確化と研究計画の立案	研究課題に基づいて研究計画の概要を明確にすることができる。	酒井・繁田・磯見 月田・川口																						
2) 研究計画の調整	研究計画に基づいて計画の実施についての調整ができる。	〃																						
3) データ収集	研究計画に基づいて研究を展開することができる。	〃																						
4) データの分析, 考察	研究結果について多面的に検討し、先行論文との比較検討ができる。	〃																						
5) 研究論文の作成	研究論文を作成することができる。	〃																						
6) 発表	作成した論文に基づいて、発表し、説明することができる。	〃																						
【3 授業形式】 指導教員及び副指導教員による個別指導 領域教員によるゼミ形式																								
【4 評価方法】 研究過程における取り組み姿勢、プレゼンテーション状況、作成された修士論文及び論文発表状況																								
【5 教科書及び参考図書等】 適宜紹介する。																								
【6 その他】																								

【がん看護学特論Ⅰ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
がん看護学特論Ⅰ		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○片山 寛次 上野 栄一 小林 基弘 浦崎 芳正 松本 英樹 塩浦 宏樹 小淵 岳恒 星野 瞳 根来 英樹 矢野 良一	教 授／がん診療推進センター 教 授／基礎看護学 教 授／腫瘍病理学 教 授／保健管理センター 准教授／放射線基礎医学 准教授／放射線部 講 師／救急部 特命助教／腫瘍病理学 助 教／がん診療推進センター がん専門薬剤師・薬剤主任／医学部附属病院 薬剤部	kanji@u-fukui.ac.jp eiichiu@u-fukui.ac.jp motokoba@u-fukui.ac.jp urasakiy@u-fukui.ac.jp hidekim@u-fukui.ac.jp shioura@u-fukui.ac.jp kobuta@u-fukui.ac.jp hhoshino@u-fukui.ac.jp enegoro@u-fukui.ac.jp yanor@u-fukui.ac.jp	
【1 学習目標】			
・腫瘍の概念、発生機序、病態生理、各種治療法など基礎と臨床を関連させて理解できる。 ・oncologic emergency の病態に対する診断と治療を理解できる。 ・放射線被ばく医療や災害時のがん医療について理解できる。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1- 3) がんの病態生理 (1)	腫瘍概論、がんの形態・分類、がんの原因・誘因	小林 星野	
がんの病態生理 (2)	がん遺伝子とがん抑制遺伝子		
がんの病態生理 (3)	がん細胞の特性、発がんが増殖、がんの進展と転移		
4) がんと免疫	がんと免疫応答、サイトカイン、腫瘍マーカー	小林 星野	
5) がんの疫学	がんの疫学的特性、がん医療の動向と課題 がん診療と検診のエビデンス	片山	
6) がんの診断	検診（肺癌）、画像診断、確定診断法	片山	
7) oncologic emergency	代謝物による emergency (SIADH、DIC など)、 構造的要因による emergency (上大静脈症候群、 脊髄圧迫など)	片山	
8) がんの内科的治療	最新の化学療法、分子標的治療、外来化学療法	根来	
9) がんの外科的治療	外科手術、ビデオ胸腔鏡下手術 (VATS)、HIPEC	片山	
10) がんの放射線治療 (1)	放射線物理学・放射線生物・放射線腫瘍学の基礎、 放射線による生物影響－分子から個体へー、 がんの放射線治療における修飾因子、 がんの放射線／抗がん剤併用治療の原理	松本	

11) がんの放射線治療 (2)	放射線療法の照射方法、効果判定、有害事象と医療処置	塩浦
12) 造血幹細胞移植	骨髄供給源の確定、適応疾患、造血幹細胞移植と合併症対策	浦崎
13) 放射線被ばくと健康への影響	医療被曝、原発事故などによる放射線被ばくとその対応	小淵
14) がんの補助薬物療法	がんの症状緩和と薬物療法 抗癌薬の薬理作用・薬物動態・有害事象	矢野
15) がん看護と病態生理	がん看護に関連した専門知識を深める	上野
【3 授業形式】 授業は、講義、文献購読、討論により行う。		
【4 評価方法】 授業での討論内容 (60%)、課題レポート (40%) を総合して評価する。		
【5 教科書及び参考図書等】 必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。 北陸がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。(分子腫瘍学特論、腫瘍放射線医学特論、分子生物学入門、がん外科学特論)		
【6 その他】 事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。		

【がん看護学特論Ⅱ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
がん看護学特論Ⅱ		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○上野 栄一 長谷川 美香 磯見 智恵 上原 佳子 繁田 里美 月田 佳寿美	教 授／基礎看護学 教 授／地域看護学 教 授／成人・老年看護学 准教授／基礎看護学 准教授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学	eiichiu@u-fukui.ac.jp mikah@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp uehara@u-fukui.ac.jp shigeta@u-fukui.ac.jp tsuki@u-fukui.ac.jp	
【1 学習目標】			
・がん看護領域の実践と研究に関連する理論や概念の活用について考え、理解を深めることができる。 ・研究結果や文献、個々の体験に基づいて、がん看護の現状の課題を分析し、今後の展望について洞察することができる。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) がん看護に関連する理論と研究 (1)	がん看護に活用できる理論や概念の理解と実践への適用 がん看護介入モデルの探究	上野	
2- 3) がん患者・家族に関連する理論 (1) (2)	家族看護に関する理論 ・家族看護の基本理念 ・システム理論、カルガリーモデル	長谷川	
4- 5) がん看護に関連する理論と研究 (2) (3)	ストレス・コーピング理論の理解と実践への適用	上原	
6) がん看護に関連する理論と研究 (4)	危機理論の理解と実践への適用 ・アギュララとメズニックの問題解決型理論 ・フィンの危機理論	上原	
7) がん看護に関連する理論と研究 (5)	セルフケア理論の実践への適用 ・オレムのセルフケア不足理論、治療的セルフケアマインド	磯見	
8) がん看護に関連する理論と研究 (6)	自己効力理論の理解と実践への適用 セルフマネジメントの理解と実践への適用	磯見	
9) がん看護に関連する理論と研究 (7)	不確実さの理論の理解と実践への適用 ・ミシエルの不確実理論	繁田	
10) がん患者・家族に関連する理論 (3)	悲嘆の概念と研究 ・予期的悲嘆 ・家族の悲嘆の心理過程の理解と実践への適用	繁田	
11) がん看護に関連する理論と研究 (8)	ケアリング理論の理解と実践への適用	月田	
12) がん看護に関連する理論と研究 (9)	がん予防と健康に関する理論と研究 ・プロチェスカの変化ステージモデル ・禁煙支援	上原	
13-14) がん看護に関連する理論と研究 (10) (11)	がん看護に関連する倫理的諸問題と理論 ・既存の諸理論を用いた倫理的課題の分析 ・倫理的意思決定の理解	月田	
15) がん看護に関連する研究結果の実践への導入	研究結果で得られた知識をがん看護の幅広い実践に導入して活用するアプローチ	上野	

【3 授業形式】

授業は、講義、文献購読、討論により行う。

【4 評価方法】

授業での討論内容（60％）、課題レポート（40％）を総合して評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。

【6 その他】

事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。

【がん看護学特論Ⅲ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
がん看護学特論Ⅲ		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○ 繁田 里美 酒井 明子 磯見 智恵 片山 寛次 上澤 悦子 我妻 孝則 高山 京子	准教授／成人・老年看護学 教 授／災害看護学 教 授／成人・老年看護学 教 授／がん診療推進センター 教 授／京都橘大学 がん看護専門看護師／金沢医科大学病院 講 師／千葉県立保健医療大学	shigeta@u-fukui.ac.jp sakaiaki@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp kanji@u-fukui.ac.jp kamisawa@tachibana-u.ac.jp wagataka@kanazawa-med.ac.jp kyoko.takayama@cpuhs.ac.jp	
【1 学習目標】			
・ サバイバーシップの概念について説明できる。 ・ 4つの季節の特徴に応じた適切な看護援助方法を探求できる。 ・ がん体験者の援助に活用可能な資源を説明できる。 ・ がん看護専門看護師の役割を説明できる。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) がんサバイバーシップの概念	がんサバイバーシップの概念 国内外におけるがん看護の動向	繁田	
2) 治療に伴う看護 (1)	最新の手術療法と治療に伴う看護援助 喪失・悲嘆	繁田	
3) 治療に伴う看護 (2)	最新のがん薬物療法と治療に伴う看護援助 がん薬物療法の有害事象と対症療法	繁田	
4) 治療に伴う看護 (3)	最新の放射線療法と治療に伴う看護援助 放射線療法の有害事象と対症療法	磯見	
5) 緩和ケア	がんのトータルペインの理解 (事例) 症状マネジメントとチーム医療 (事例)	繁田	
6) がん体験者の長期的支援 (1)	がん体験者の情報ニーズ がんサバイバーシップの季節に応じた情報提供	磯見	
7) がん体験者の長期的支援 (2)	栄養測定・栄養管理方法の理解 がん体験者に特有な栄養問題	片山	
8) がん体験者の長期的支援 (3)	セクシャリティーおよび生殖の問題	上澤	
9) がん体験者の長期的支援 (4)	災害とがん体験者支援	酒井	
10) がん体験者の長期的支援 (5)	サポートグループ、セルフヘルプ・グループ 活動の理解と支援方法	繁田	
11) がん体験者の長期的支援 (6)	がん患者に活用できる社会資源	繁田	
12-13) がんの臨床試験と看護 (1) (2)	臨床試験の過程とリサーチナースの役割 がん臨床試験において生じやすい倫理的問題、 被験者保護の実際	高山	
14-15) がん看護専門看護師の役割 (1) (2)	がん看護専門看護師の歴史と役割 がん看護専門看護師の役割の実際 事例検討：実践・相談・調整・倫理調整	我妻 繁田	

【3 授業形式】

授業は、講義、文献購読、討論により行う。

【4 評価方法】

課題レポート（40％）、事例の討論内容（30％）、参加態度（30％）を総合して評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。

北陸がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。（がん患者看護論）

【6 その他】

事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。

【がん看護学特論Ⅳ】

科 目 名	単位数	開 講 時 期
がん看護学特論Ⅳ	2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス
○磯見 智恵 ○田墨 恵子	教 授／成人・老年看護学 がん看護専門看護師・看護師長／ 大阪大学医学部附属病院	ichie@u-fukui.ac.jp ktazumi@hp-nurse.med.osaka-u.ac.jp
矢野 良一	がん専門薬剤師・薬剤主任／医学部 附属病院薬剤部	yanor@u-fukui.ac.jp
久保 博子	がん看護専門看護師・副看護師長／ 医学部附属病院看護部	kubohiro@u-fukui.ac.jp
高野 智早	がん看護専門看護師／医学部附属病院 看護部	tchihaya@u-fukui.ac.jp
我妻 孝則	がん看護専門看護師／金沢医科大学病院	wagataka@kanazawa-med.ac.jp

【1 学習目標】

- ・事例を通して、がん薬物療法の evidence based practice においてケアとキュアの融合ができる。
- ・抗腫瘍薬の効果と有害事象への臨床判断ができる。
- ・がん薬物療法における、がん看護専門看護師としての役割を説明できる。
- ・チーム医療を促進できるアプローチを説明できる。
- ・患者が疾患・治療に伴って生じる問題に自ら対処できるように支援する援助を理解する。

【2 授業内容】

(主題)	(学習内容)	(教員)
1- 3) 抗がん薬の臨床薬理の 理解とケア (1) (2) (3)	抗がん薬の臨床薬理を理解し、フィジカルアセスメント、臨床判断、患者教育に結びつけて考える (抗がん薬、分子標的薬、ホルモン剤、予後因子、効果予測因子、薬物動態、Biochemical modulation、抗がん薬耐性獲得機序)	矢野
4) 薬物療法による有害作用 の予防および症状マネジメント	主な有害事象に対する予防および症状緩和(チーム へのアプローチ含む)	田墨
5- 6) 消化器がん薬物療法と 療養過程のマネジメント (1) (2)	事例分析：胃がん・大腸がん ・事例のアセスメント(現病歴、既往歴、病理診断、 画像、看護情報などから) ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を 討議する。	田墨
7- 8) 肺がん薬物療法と療養 過程のマネジメント (1) (2)	事例分析：非小細胞肺がん ・事例のアセスメント(現病歴、既往歴、病理診断、 画像、看護情報などから) ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を 討議する。	我妻

9-10)	造血器腫瘍の薬物療法と療養過程のマネジメント (1) (2)	事例分析：白血病、悪性リンパ腫 ・事例のアセスメント（現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから） ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する。	久保
11-12)	がんの集学的治療と療養過程のマネジメント (1) (2)	事例分析：前立腺がん（手術、放射線、ホルモン、待機など） ・事例のアセスメント（現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから） ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する。	高野
13-14)	がんの集学的治療と療養過程のマネジメント (3) (4)	事例分析：乳がん（術前・術後補助化学療法、手術、放射線療法） ・事例のアセスメント（現病歴、既往歴、病理診断、画像、看護情報などから） ・必要な医療処置と看護ケアに関する臨床判断を討議する。	田墨 磯見
15)	がん薬物療法に伴う患者・家族へのセルフケア支援	事例検討：有害事象に対する予防および症状緩和に関するセルフケア支援	田墨 磯見
【3 授業形式】 授業は、講義、文献購読、討論により行う。			
【4 評価方法】 授業での討論内容（60％）、課題レポート（40％）を総合して評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】 必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。 北陸がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。（分子腫瘍学特論、腫瘍放射線医学特論、分子生物学入門、がん外科学特論）			
【6 その他】 事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。			

【がん看護学特論Ⅴ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
がん看護学特論 V		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○ 繁田 里美 長谷川 美香 東間 正人 小島 ひで子 梅田 恵 我妻 孝則	准教授／成人・老年看護学 教 授／地域看護学 准教授／精神医学 教 授／北里大学看護学部・ 生涯発達看護学 教 授／昭和大学保健医療学研究科 がん看護 がん看護専門看護師／金沢医科大学 病院	shigeta@u-fukui.ac.jp mikah@u-fukui.ac.jp mtohma@u-fukui.ac.jp hideko-k@nrs.kitasato-u.ac.jp mumeda2002@cmed.showa-u.ac.jp wagataka@kanazawa-med.ac.jp	
【1 学習目標】			
・がん看護における palliative care や end of life care に関して既存の文献などに基づいて分析し、現状の課題と今後の展望を洞察できる。 ・生命を脅かす疾患に起因した様々な問題に苦慮する患者・家族への緩和ケアに関して、適用される概念および看護活動について理解し、実践できる。 ・多職種との連携・協働や地域連携について理解を深める。 ・倫理調整について理解できる。 ・看護の緩和ケア技術や援助体系を創造することができる。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 緩和ケアの概念	緩和ケアの歴史と現状 ・緩和の歴史と理念 ・生命を脅かす疾患に起因した諸問題に苦慮する患者・家族にかかわる看護師の責務 ・緩和ケアの現状と課題 ・補完代替療法	繁田	
2) 症状マネジメント (1)	トータルペインの緩和とケア 症状マネジメントモデル 心理・社会的側面へのケア	繁田	
3- 5) 症状マネジメント (2) (3) (4)	身体的側面へのケア 症状発現のメカニズムとケア ・痛み、倦怠感、呼吸困難感、悪心・嘔吐、腹部膨満感、浮腫 ・特殊な状況 (腎機能障害、肝機能障害など) における薬剤の使い方	我妻	
6- 7C 症状マネジメント (5) (6)	精神面へのケア ・不眠、せん妄、抑うつ、不安、希死念慮などを呈する人へのケア	東間	
8- 9) 症状マネジメント (7) (8)	スピリチュアルケア ・スピリチュアルケアの概念、ケア (事例)	梅田	

10) 緩和ケアと倫理	看護師が遭遇する倫理的葛藤、倫理調整 ・セデーション、安楽死・尊厳死、輸液にかかわるケース	梅田
11) インフォームドコンセント	インフォームドコンセントと意思決定 ・緩和ケアにおけるコミュニケーション ・意思決定支援 ・バッドニュース後の患者・家族へのケア	梅田
12-13) 家族へのケア (1) (2)	家族看護学 ・グリーフケア、遺族ケア ・子どもへのケア	小島
14) 在宅における緩和ケア	地域連携 ・在宅ケアの現状と課題 ・社会資源の活用とソーシャルワーク ・退院調整	長谷川
15) 終末期のケア	・死期間近のケアと準備 ・看取りのケア	繁田
【3 授業形式】 授業は、講義、文献購読、討論により行う。		
【4 評価方法】 授業での討論内容（60％）、課題レポート（40％）を総合して評価する。		
【5 教科書及び参考図書等】 必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。 北陸がんプロ e-learning を合わせて聴講することを推奨する。（分子腫瘍学特論、腫瘍放射線医学特論、分子生物学入門、がん外科学特論）		
【6 その他】 事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。		

【がん看護学演習Ⅰ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
がん看護学演習Ⅰ		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○磯見 智恵 繁田 里美 上原 佳子 田墨 恵子 長 光代	教 授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学 准教授／基礎看護学 がん看護専門看護師・看護師長／ 大阪大学医学部附属病院 がん看護専門看護師／滑川市医師 会訪問看護ステーション	ichie@u-fukui.ac.jp shigeta@u-fukui.ac.jp uehara@u-fukui.ac.jp ktazumi@hp-nurse.med.osaka-u .ac.jp mitsuyo3843@gmail.com	
【1 学習目標】			
・がん薬物療法を受ける患者の時期に応じて適用できる理論やエビデンスを調べ、事例を通して考えることができる。 ・課題解決に必要な文献・資料を準備し、エビデンスに基づく援助計画を立てることができる。 ・がん薬物療法に必要な患者・家族のセルフマネジメントに向けた支援と教育が理解できる。 ・がん薬物療法における専門看護師の活動の実際を理解できる。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1- 2) 外来がん化学療法看護ガイドラインの理解	外来がん化学療法看護ガイドラインの作成過程および内容の理解と討議	繁田 磯見	
3- 6) エビデンスに基づく看護を展開するための検索	・文献検索のデータベースを活用して、国内外のがん薬物療法に関連した文献を検索する。 ・集めた文献の内容を正確に読み取り、整理・分析して、がん薬物療法に関する看護における研究の動向と看護の課題を明確にする。	磯見 繁田 上原	
7-11) エビデンスに基づく援助計画の立案	・文献から得た、がん薬物療法に関する知識を活用し、がん看護専門看護師の役割と機能を考えたうえで、事例にそって援助計画を立案する。	磯見 繁田 上原	
12-13) 援助計画の発表および討議	援助計画の発表および討議	磯見 繁田 長 上原	
14-15) 外来化学療法を受ける患者への看護	外来化学療法室におけるがん看護専門看護師の活動の実際	田墨	
16-17) がんの薬物療法にかかわる看護師への教育	薬物の安全な取り扱いと管理、リスクマネジメント	田墨	

18-20)	がん薬物療法に伴う患者・家族のセルフマネジメントに向けた支援・教育 (1) (2) (3)	教育技法などを用いて、患者・家族への健康教育のための模擬授業を行う。	長 磯見
21)	外来化学療法における地域連携	外来化学療法を受ける患者を支援するための連携	長 磯見
22-27)	フィールドワーク	がん薬物療法における看護の実際（福井大学医学部附属病院） ・外来化学療法室、または病棟の患者の特徴を理解し、活用されている資料などを把握する。 ・外来化学療法を受ける患者および入院患者（導入時）への援助の実際を観察、記述し、観察した場面をがん看護の視点で分析する。（ガイドラインその他の資料の活用状況、観察場面の看護師への面接含む） ・演習で立案した援助計画を実現可能とするために必要なことを臨床の指導者とともに検討する。	繁田 磯見
28-30)	フィールドワークのまとめ発表および討議	・フィールドワークで得られた内容をまとめる。 ・フィールドワークのまとめの結果をふまえて、薬物療法におけるがん看護の課題を明らかにし、課題解決に向けて検討する。	長 繁田 磯見
【3 授業形式】 授業は、講義、演習、文献購読、討論により行う。			
【4 評価方法】 事例検討の内容（40％）、課題レポート（40％）、参加態度（20％）を総合して評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】 必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。			
【6 その他】 事前に文献検索の方法についてオリエンテーションを受けておく。 自主的に学習を進める。			

【がん看護学演習Ⅱ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
がん看護学演習Ⅱ		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○ 繁田 里美 片山 寛次 磯見 智恵 四谷 淳子 浦井 真友美 高野 智早 小坂橋 喜久代 紅谷 浩之 遠藤 久美 本山 清美 我妻 孝則 佐久間 由美 村上 真由美	准教授／成人・老年看護学 教 授／がん診療推進センター 教 授／成人・老年看護学 教 授／成人・老年看護学 乳がん看護認定看護師／医学部附属病院看護部 がん看護専門看護師／医学部附属病院看護部 教 授／京都橘大学看護学部 在宅医療専門医／オレンジホームケアクリニック がん看護専門看護師・看護師長／静岡がんセンター がん看護専門看護師・看護師長／静岡がんセンター がん看護専門看護師／金沢医科大学病院 がん看護専門看護師／聖隷三方原病院 がん看護専門看護師／富山赤十字病院	shigeta@u-fukui.ac.jp kanji@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp jyotsuya@u-fukui.ac.jp urai@u-fukui.ac.jp tchihaya@u-fukui.ac.jp koitabashi@tachibana-u.ac.jp info@orangeclinic.jp k.endo@scchr.jp k.motoyama@scchr.jp wagataka@kanazawa-med.ac.jp ys1970@sis.seirei.or.jp m-murakami@toyama-med.jrc.or.jp	
【1 学習目標】			
・既習の理論・概念、既存の文献を活用し、診断期～終末期各期に生じるさまざまな苦痛症状や心理社会的・霊的苦痛および苦悩を理解し、緩和する方法を検討することができる。 ・終末期患者および家族の病状・状況に合わせたケアを考えることができる。 ・看護の緩和ケア技術や援助体系を創造する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 緩和ケアにおけるチーム医療と OCNS の役割	・なぜチーム医療が必要なのか ・緩和ケアにおける OCNS の役割	我妻	
2- 3) 補完代替療法 (1) (2)	事例検討 ・補完代替療法を求める人への看護支援	小坂橋	
4- 5) 緩和ケアとリハビリテーション (1) (2)	・有酸素運動、エクササイズの生理的・医学的側面 ・ストレスとパフォーマンス ・体力低下と廃用症候群、生活関連動作へのアプローチ	小坂橋	
6) リンパ浮腫への援助	・リンパ浮腫の援助の実際 (手技演習、予防とセルフケア)	浦井	
7- 8) 栄養管理 (1) (2)	がん患者の栄養管理のポイント ・終末期癌患者に対する輸液治療のガイドライン ・がん患者の栄養管理の実際	片山	

9-11)	終末期に起こる様々な問題と看護（1）（2）（3）	事例検討 ・ホスピスにおける看護支援、在宅ケア、 エンド・オブ・ライフケア ・コミュニケーション（死にゆくことの言語化）	佐久間 繁田 磯見
12)	終末期に起こる様々な問題と看護（4）	・終末期のがん患者の皮膚の特徴とケア	四谷
13-14)	地域連携（1）（2）	事例検討 ・がん患者が地域で安心して療養生活ができる環境を整える。	村上 繁田
15-17)	緩和ケアに関連するがん患者教育・相談（1）（2）（3）	事例検討 ・がん療養に関する相談、意思決定支援、 ストレスマネジメント、セルフケア支援	村上 繁田
18-20)	フィールドワーク（1）（2）（3）	在宅緩和ケアの実際（オレンジホームケアクリニック） ・在宅診療に参加し、在宅での緩和ケアの実際を観察し、がん看護の視点で考察する。	紅谷
21-24)	フィールドワーク（4）（5）（6）（7）	施設での緩和ケアの実際（静岡がんセンター） ・緩和ケア病棟における緩和ケアに関する援助の実際を観察、記述し、観察した場面をがん看護の視点で分析する。 ・緩和ケアチームおよび看護相談に参加し、チーム医療と症状緩和の実際を観察、記述し、観察した場面をがん看護の視点で分析する。	遠藤 本山
25)	フィールドワーク（8）	・フィールドワークにおける事例分析	遠藤 本山
26-27)	緩和ケアについての看護師への教育（1）（2）	・緩和ケアについての看護師への教育計画を作成、看護職への教育を実施する。	高野 繁田
28)	スタッフに対する精神的支援	・がん患者・家族を看護するスタッフへの精神的支援の必要性和実際、デスカンファレンス	高野 繁田
29-30)	まとめ	フィールドワークでの分析結果をふまえてがん看護における緩和ケアの課題を検討する。	繁田 磯見
【3 授業形式】 授業は、講義、演習、文献購読、討論により行う。			
【4 評価方法】 事例検討の内容（40％）、課題レポート（40％）、参加態度（20％）を総合して評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】 必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。 e-learning を合わせて聴講すること。（在宅緩和医療特論、臨床栄養学特論）			
【6 その他】			

【がん看護学実習Ⅰ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期												
がん看護学実習Ⅰ		2 単位	2 年次前期												
担当教員名	職名／所属		E メールアドレス												
○ 繁田 里美 磯見 智恵 我妻 孝則	准教授／成人・老年看護学 教 授／成人・老年看護学 がん看護専門看護師／金沢医科大学病院		shigeta@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp wagataka@kanazawa-med.ac.jp												
【1 学習目標】 様々な問題をもつがん患者を受け持ち、直接ケアを通して専門的な知識・技術を修得し、CNS としての態度や実践能力を養う。															
【2 授業内容及び方法】 <table><tr><th>(主題)</th><th>(学習内容)</th><th>(教員)</th></tr><tr><td>1 専門的知識を活用し情報整理と問題の焦点化</td><td>がん患者・家族と取り巻く社会環境などを、包括的に理解、アセスメントし、問題の焦点化をする。</td><td>繁田 我妻 磯見</td></tr><tr><td>2 諸理論を活用した高度な看護実践と評価</td><td>様々な問題をもつ事例を受け持ち、包括的アセスメントに基づき、先行研究や諸理論を活用した高度な看護を実践し、評価する。</td><td>〃</td></tr><tr><td>3 実践事例を通じた課題の明確化</td><td>受け持ち事例の分析を通して、がん看護専門看護師としての自己の課題を明確にする。</td><td>〃</td></tr></table> (方法) CNS の指導のもとに、患者を 1 例以上受け持ち、患者や家族の様々な問題をとらえて包括的にアセスメントし、問題を焦点化する。苦痛の緩和、日常生活の再構築を促進するために、看護や関連する理論・概念を適用し、個別性を重視した看護を展開する。 患者のケアを通して、看護スタッフや他の職種とコミュニケーションを図る中で、CNS としての役割を探究する。 プリセプターの CNS には、カンファレンスにおける事例検討を含めて指導を受ける。 実習期間は原則 10 日以上で、カンファレンスは実習期間中に 2 回開催する。教員は 2 回以上実習場所に出向き、カンファレンスでの指導及び、学生や指導者との連絡・調整を図る。				(主題)	(学習内容)	(教員)	1 専門的知識を活用し情報整理と問題の焦点化	がん患者・家族と取り巻く社会環境などを、包括的に理解、アセスメントし、問題の焦点化をする。	繁田 我妻 磯見	2 諸理論を活用した高度な看護実践と評価	様々な問題をもつ事例を受け持ち、包括的アセスメントに基づき、先行研究や諸理論を活用した高度な看護を実践し、評価する。	〃	3 実践事例を通じた課題の明確化	受け持ち事例の分析を通して、がん看護専門看護師としての自己の課題を明確にする。	〃
(主題)	(学習内容)	(教員)													
1 専門的知識を活用し情報整理と問題の焦点化	がん患者・家族と取り巻く社会環境などを、包括的に理解、アセスメントし、問題の焦点化をする。	繁田 我妻 磯見													
2 諸理論を活用した高度な看護実践と評価	様々な問題をもつ事例を受け持ち、包括的アセスメントに基づき、先行研究や諸理論を活用した高度な看護を実践し、評価する。	〃													
3 実践事例を通じた課題の明確化	受け持ち事例の分析を通して、がん看護専門看護師としての自己の課題を明確にする。	〃													
【3 授業形式】 実習およびプレゼンテーションと討議。															
【4 評価方法】 目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。															

【5 教科書及び参考図書等】

必要に応じて文献の紹介を行う。

【6 その他】

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

【がん看護学実習Ⅱ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
がん看護学実習Ⅱ		2 単位	2 年次前期
担当教員名	職名／所属		E メールアドレス
○ 繁田 里美 磯見 智恵 遠藤 久美 本山 清美	准教授／成人・老年看護学 教 授／成人・老年看護学 がん看護専門看護師／静岡がんセンター がん看護専門看護師／静岡がんセンター		shigeta@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp k.endo@scchr.jp k.motoyama@scchr.jp
【1 学習目標】			
がん看護専門看護師としての高度なアセスメント能力、介入技術、職種間の調整及び連携、コンサルテーション、教育的機能を果たす能力、研究を通じた援助方法の開発推進、がん医療における地域連携の実際について、モデルを通して学ぶ。			
【2 授業内容及び方法】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 CNS としての役割を、役割モデルを通して学ぶ。	◆ CNS が実際の場面でどのように実践的な役割を果たしているのか、実践の意図や役割について理解する。 ◆ CNS のコンサルテーションに同行し、コンサルテーションに必要な知識や技術を理解する。 ◆ CNS が行っている調整的な役割について理解する。 ◆ CNS が行っているケアの質向上を目指した教育活動を理解できる。 ◆ CNS が行っている臨床における研究活動の実際を理解できる。 ◆ 倫理的問題の解決に向けた CNS の果たす役割を理解できる。 ◆ CNS の役割開発と課題について考え、言語化することができる。 ◆ がん看護の質の向上にむけた組織内の活動を理解する。	繁田 遠藤 本山 磯見	
(方法)			
CNS の指導のもとにおいて、実際の CNS の活動を経験し、CNS としての実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究の役割を理解し、自己の適性を高める。			
プリセプターである CNS と CNS の役割、機能、実習の成果について、実習記録を活用して定期的に討議する。実習期間は原則 10 日以上で、カンファレンスは実習期間中に 2 回開催する。教員はカンファレンスでの指導及び、学生や指導者との連絡・調整を図る。			
【3 授業形式】			
実習およびプレゼンテーションと討議。			

【4 評価方法】

目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】**【6 その他】**

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

【がん看護学実習Ⅲ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
がん看護学実習Ⅲ		4 単位	2 年次前期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○磯見 智恵 繁田 里美 佐久間 由美	教 授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学 がん看護専門看護師／聖隷三方原病院		ichie@u-fukui.ac.jp shigeta@u-fukui.ac.jp ys1970@sis.seirei.or.jp

【1 学習目標】

がん看護に関連する高度な専門知識・技術を用いて、がん患者とその家族、医療者が直面する問題状況を包括的にアセスメントし、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。専門看護師の6つの役割「実践」「教育」「相談」「調整」「研究」「倫理調整」を実践し、評価できる能力を養う。

【2 授業内容及び方法】

(主題)	(学習内容)	(教員)
1 がん看護専門看護師としての役割を実践する。	- 患者を包括的にアセスメントし、問題の焦点化および解決に向けた援助計画を立案し、実施・評価する。 - コンサルテーション技法に基づいてコンサルテーション活動を実施する。 - 関係職種・組織の連携機能の現状について把握し、患者のケアが円滑・効果的に行われるように調整する。 - 看護スタッフを対象とした教育活動ができる。 - 研究の成果を活用し、エビデンスに基づいた実践を行う。 - 常に倫理的視点を持って活動する。 - 実習を通して内省し、専門看護師としての役割開発と課題について言語化する。	磯見 佐久間 繁田

(方法)

実習Ⅰ・Ⅱを発展させ、スーパービジョンを受けながら、がん看護専門看護師としての6つの役割を実践し、問題解決に向けた総合的な実践能力を養う。

組織の特徴を理解し、病棟や外来などの集団に必要なニーズを把握し、看護職への教育活動を実施・評価する。コンサルテーション活動を行う。病棟内、組織横断的な活動、チーム内、地域連携など組織内外での調整を実践し、がん看護専門看護師に必要な能力を養う。

プリセプターである CNS の指導を受け、週 2 回以上面接にて実習の相談・調整およびフィードバックを受ける。教員から適宜スーパービジョンを受ける。教員は、CNS とともに必要な指導と調整を行う。実習期間は原則 20 日以上、カンファレンスは実習期間中 2 回以上開催する。自己の実習計画により実習期間が延長することもあるが、原則として 9 月下旬には終了する。

【3 授業形式】

実習およびプレゼンテーションと討議。

【4 評価方法】

目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

必要に応じて文献の紹介を行う。

【6 その他】

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

【がん看護学実習Ⅳ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
がん看護学実習Ⅳ		2 単位	2 年次後期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○磯見 智恵 片山 寛次 繁田 里美 久保 博子 高野 智早 田墨 恵子	教 授／成人・老年看護学 教 授／がん診療推進センター 准教授／成人・老年看護学 がん看護専門看護師・副看護師長 ／医学部附属病院看護部 がん看護専門看護師／医学部附属 病院看護部 がん看護専門看護師・看護師長／ 大阪大学医学部附属病院	ichie@u-fukui.ac.jp kanji@u-fukui.ac.jp shigeta@u-fukui.ac.jp kubohiro@u-fukui.ac.jp tchihaya@u-fukui.ac.jp ktazumi@hp-nurse.med.osaka-u .ac.jp	
【1 学習目標】			
がんの診断・治療過程を理解し、身体管理と治療の遂行に必要な看護援助を行うために、アドバンスなアセスメント能力と臨床判断能力を修得し、ケアとキュアを融合し、卓越した臨床判断とケアを実践できる能力を養う。 がん患者への長期的支援の観点から、がん医療における地域連携とがん専門看護師の役割と資源の活用について学ぶ。			
【2 授業内容及び方法】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 ケアとキュアを融合し、卓越した臨床判断と実践を行う。	がんの診断・治療過程を理解し、身体管理と治療の遂行に必要な看護援助を行うために、アドバンスなアセスメント能力と臨床判断能力を修得し、ケアとキュアを融合し、卓越した臨床判断とケアを実践する。 がん患者の苦痛緩和および薬物療法にかかわる身体管理と治療遂行を支援する。	片山 磯見 繁田 久保 高野 田墨	
2 がん医療における地域連携	がん患者への長期的支援の観点から、がん医療における地域連携とがん専門看護師の役割と資源の活用について考察する。 在宅療養への移行に必要な教育や支援、社会資源の活用や効果的な連携について考える。	〃	
(方法)			
緩和ケアチーム、緩和ケア外来、通院治療センター（外来化学療法室）、消化器外科外来、がん相談支援センターなどの実習を通して、フィジカルアセスメント、検査指示、必要な医療処置について判断した内容について、プリセプターである指導医からスーパーバイズを受けながら実習する。週に3～4日、病院にて実習し、週2回以上は指導医からフィードバックを受ける。がん看護における地域連携に関しては、地域連携室看護師とともに実習する。また、CNSに準ずる看護師から週1回以上フィードバックを受ける（実習時、OCNSコース修了者が勤務している予定）。教員は、臨床の指導者とともに必要な指導と調整を行う。実習期間は原則10日以上、カンファレンスは実習期間中2回以上開催する。			

【3 授業形式】

実習およびプレゼンテーションと討議。

【4 評価方法】

目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】**【6 その他】**

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

【がん看護学課題研究】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
がん看護学課題研究		2 単位	1 ・ 2 年次通年
担当教員名	職名／所属		E メールアドレス
○磯見 智恵 繁田 里美	教 授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学		ichie@u-fukui.ac.jp shigeta@u-fukui.ad.jp
【1 学習目標】 がん看護学の学修並びに実践を通して見出された研究課題に沿って研究を行い、論文を作成することにより、看護実践に活用できる研究能力を養う。			
【2 授業内容】 (主題) (教員) 1) 研究課題に基づいて研究計画の概要を明確にすることができる。 磯見・繁田 2) 研究計画に基づいて計画の実施についての調整ができる。 〃 3) 研究計画に基づいて研究を展開することができる。 〃 4) 研究結果について多面的に検討し、先行論文との比較検討ができる。 〃 5) 研究論文を作成することができる。 〃 6) 作成した論文に基づいて、発表し、説明することができる。 〃			
【3 授業形式】 指導教員及び副指導教員による個別指導 領域教員によるゼミ形式			
【4 評価方法】 研究過程における取り組み姿勢、プレゼンテーション状況、作成された修士論文及び論文発表状況			
【5 教科書及び参考図書等】 適宜紹介する。			
【6 その他】			

【老年看護学特論】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学特論		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○四谷 淳子	教 授／成人・老年看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】 老年看護の基本となる概念・理念を系統的に学び、あらゆる健康レベルにある高齢者とその家族への個別的看護を的確に展開する能力，老年看護を創造・開発する能力を養う。			
【2 授業内容】			
(主題)		(学習内容)	(教員)
1, 2) 老年看護の定義と老年期における特徴		エイジング，加齢に伴う変化と生活への影響 (老いが身体的・精神的・社会的に及ぼす影響)	四谷
3, 4) 老年看護学の諸理論		生涯発達理論，ライフサイクル理論，離脱理論， コンフォート理論などの理論を活用した看護 実践現場の事例検討	〃
5, 6) 高齢者に特有な症候と看護		フレイル，老年症候群，生活不活病	〃
7-9) 高齢者の健康生活の支援		高齢者の身体的・精神的・社会的側面の包括的 アセスメント ICF 生活機能評価，高齢者総合機能評価 (CGA)， IADL，認知機能アセスメント	〃
10, 11) 高齢者の倫理的課題		アドボカシー、エイジズム、高齢者虐待	〃
12, 13) 高齢者とその家族への支援		意思決定，エンドオブライフケア，終末期ケア	〃
14, 15) 老年看護学領域における 臨床研究と老年看護学の展望		老年看護学領域における臨床研究論文を読み， 老年看護技術の新たな動向と課題を討議	〃
【3 授業形式】 講義，プレゼンテーション，グループ討議			
【4 評価方法】 授業参加度，討議の参加度，発表内容			
【5 教科書及び参考図書等】 エリクソン、朝長正徳訳：老年期、みすず書房 その他講義の中で随時紹介する。			
【6 その他】			

【老年看護学演習】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学演習		4 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○四谷 淳子	教 授／成人・老年看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】			
老年看護学特論を踏まえて，老年期特有の健康問題をもつ高齢者とその家族の特性に応じた効果的な看護実践方法と研究方法について探究する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 老年看護学文献のクリティーク I	国内外の老年看護学分野に関する文献を収集し，それらを適切に批評する。	四谷	
2 文献のクリティーク II	文献レビューを作成する。 老年看護学分野における研究の動向や最新の知見，研究方法を明らかにする。	〃	
3 研究課題の明確化	文献レビューより，自身の研究課題を明確にする。	〃	
4 研究計画の立案	文献レビューをもとに，適切な調査方法や看護実践方法を立案する。（実施可能な計画を立案する） 看護の実践・研究における倫理的課題を明確化し配慮に必要なことを抽出する。	〃	
【3 授業形式】			
ゼミ形式によるプレゼンテーション，ディスカッション			
【4 評価方法】			
発表・討議への参加度			
【5 教科書及び参考図書等】			
適宜紹介する。			
【6 その他】			

【老年看護学特別研究】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学特別研究		1 2 単位	2 年次通年
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○四谷 淳子	教 授／成人・老年看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】			
老年看護学領域において自ら選んだ専門の研究課題について、一連の研究プロセスを展開し修士論文を作成する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 研究課題の明確化と研究計画立案	研究課題や意義を明確にし、研究目的・研究デザイン・研究対象・研究方法の選定，分析方法を検討する。	四谷	
2) 研究計画の実施	研究計画に基づいて，研究を実施する。	〃	
3) データ分析	収集したデータを分析方法に基づき分析する。	〃	
4) 研究論文の作成	分析結果について先行研究との比較を基に考察を深め，論理的に論文を作成する。	〃	
5) 研究論文の発表	作成した論文の骨子から簡潔明瞭なプレゼンテーション資料を作成し，研究成果を発表する。	〃	
【3 授業形式】			
ゼミ形式と個別指導			
【4 評価方法】			
研究プロセスを通して、その取り組む姿勢、最終修士論文内容と発表状況。			
【5 教科書及び参考図書等】			
D. F. ホーリット&C. T. ベック著 近藤潤子翻訳:看護研究 原理と方法 第2版 医学書院, 2011. その他, 適宜紹介する。			
【6 その他】			

【老年看護学特論Ⅰ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学特論Ⅰ		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○上野 栄一 磯見 智恵 四谷 淳子 月田 佳寿美 平松 知子	教 授／基礎看護学 教 授／成人・老年看護学 教 授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学 教 授／金沢医科大学・老年看護学	eiichiu@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp jyotsuya@u-fukui.ac.jp tsuki@u-fukui.ac.jp hiramatu@kanazawa-med.ac.jp	
【1 学習目標】			
・老年看護に関する諸理論や概念について説明できる。 ・老年看護を実践するために有用な看護理論を理解できる。 ・老年看護を実践するために必要な倫理的課題とその対応について説明できる。 ・老人看護専門看護師として教育、相談、調整、倫理調整などの機能や役割について説明できる。			
【2 授業内容】			
(主題)		(学習内容)	(教員)
1) 老年看護の歴史と課題 高齢者の理解		ガイダンス 老年看護学の歴史の変遷と課題 自己の高齢者観の探求	上野 月田
2-3) 高齢者の心理・社会的面における諸理論①		生涯発達理論・活動理論・離脱理論・適応理論	上野 月田
4-5) 高齢者の心理・社会的面における諸理論②		サクセスフルエイジング・アクティブエイジング	上野 月田
6-7) 老年看護における倫理的課題と支援①		アドボカシー・エイジズム・高齢者虐待 (事例検討)	四谷 平松
8-9) 老年看護における倫理的課題と支援②		意思決定・尊厳死など (事例検討)	四谷 平松
10-11) 老年看護を実践する基盤となる理論①		セルフケア論、エンパワメント	磯見
12-13) 老年看護を実践する基盤となる理論②		コンフォート理論・ストレングス論	上野 磯見
14-15) 老年看護学実践・研究の課題 老人看護専門看護師としての機能と役割		老年看護の実践・研究・教育の現状と課題 老人看護専門看護師の活動の実際 老人看護専門看護師の役割・機能	四谷
【3 授業形式】			
授業は、講義、文献購読、討論により行う。			
【4 評価方法】			
授業での討論内容（60％）、課題レポート（40％）を総合して評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】			
必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。			
【6 その他】			
事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。			

【老年看護学特論Ⅱ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学特論Ⅱ (健康生活評価)		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○四谷 淳子 西 依見子 吉川 雅則 濱田 敏彦 水上喜美子	教 授／成人・老年看護学 Taste&See 代表 非常勤講師／大阪 府立大学看護学分類 病院教授／奈良県立医科大学 内科 学第二講座 准教授／北陸大学医療保健学部 准教授／仁愛大学 人間学部心理学 科	jyotsuya@u-fukui.ac.jp emiko5222000@yahoo.co.jp noriy@naramed-u.ac.jp mizukami@jindai.ac.jp	
【1 学習目標】 ・ 老年期における健康について把握し、健康面や生活状況の評価方法の特徴を理解できる。 ・ 高齢者の健康状態を身体的・精神的・社会的および包括的にアセスメントすることができる。 ・ 専門看護師として高齢者の総合的評価に基づき、看護ニーズを整理し、Q O L 向上に向けた、高齢者と家族の看護実践への活用が説明できる。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1-2) 高齢者の健康生活機能評価	高齢者の健康生活評価の特徴について、高齢者総合機能評価 (CGA)、国際生活機能分類 (ICF) の考え方について	四谷	
3-4) 身体機能の評価	日常生活自立度 (ADL) と手段的生活動作 (IADL)、転倒転落リスク評価	四谷	
5)	摂食・嚥下機能の変化と評価	西	
6)	栄養評価と栄養管理	吉川	
7)	排泄機能の変化と評価	四谷	
8)	呼吸器・循環器機能の変化と評価	濱田	
9-10) 認知・心理的機能および社会的機能の評価	認知機能障害の評価、精神心理機能の評価	水上	
11)	高齢者の QOL、生活満足度の評価	四谷	
12-13)	ソーシャルサポート、ネットワーク家族機能の評価、介護負担、ストレス評価	水上	
14-15) 高齢者の健康生活評価の実際 (事例検討)	高齢者の包括的アプローチと看護展開の実際	四谷	
【3 授業形式】 授業は、講義、文献購読、討論により行う。			
【4 評価方法】 授業での討論内容 (60%)、課題レポート (40%) を総合して評価する。			

【5 教科書及び参考図書等】

必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。

【6 その他】

事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。

【老年看護学特論Ⅲ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学特論Ⅲ (病態・治療学)		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○四谷 淳子 一和多俊男	教 授／成人・老年看護学 教 授／東京医科大学 八王子医療 センター 呼吸器内科	jyotsuya@u-fukui.ac.jp ichiwata@tokyo-med.ac.jp	
近藤 康博	呼吸器・アレルギー疾患内科主任部 長／公立陶生病院	konyasu2003@yahoo.co.jp	
藤本 圭作 河内 文雄	教 授／信州大学 医学部保健学科 理事長／医療法人社団 以仁会 稲毛 サティクリニック	keisaku@shinshu-u.ac.jp kouchi-fumio@nifty.com	
石塚 全	教 授／福井大学医学系部門医学領 域 内科学 (3)	tamotsui@u-fukui.ac.jp	
濱野 忠則	准教授／福井大学医学系部門医学領 域 内科学 (2)	hamano@u-fukui.ac.jp	
有島 英孝	講 師／福井大学医学系部門医学領 域附属病院部 脳脊髄神経外科	ari@u-fukui.ac.jp	
小久保安朗	准教授／福井大学医学系部門医学領 域 整形外科	kokubo@u-fukui.ac.jp	
青木 芳隆	講 師／福井大学医学系部門医学領 域 泌尿器科学	aokiyosh@u-fukui.ac.jp	
後藤 伸之	教 授／福井大学医学系部門医学領 域 薬剤部	ngoto@u-fukui.ac.jp	
【1 学習目標】 ・高齢者に多く見られる疾患の病態や症状、診断・治療について説明ができる。 ・疾病や治療等が高齢者の生活に及ぼす影響をアセスメントし、予測的な対応につなげることができる。 ・高齢者特有の疾患の診断・治療に関する知識を活用し、ケアとキュアを統合した高度な看護実践を検討できる。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 老化について	老化のメカニズム、老年期の疾患の特徴	四谷	
2) 呼吸器系疾患の病態・診断・治療	COPD	一和多	
3)	間質性肺炎、肺線維症	近藤	
4)	咳、気管支喘息、気管支拡張症	藤本	
5)	肺炎・新型インフルエンザなど呼吸器感染症	河内	
6)	肺癌	石塚	
7-8) 脳血管系および神経系疾患の病態・診断・治療	脳梗塞・脳出血・パーキンソン症候群・嚥下障害	有島	
9) 認知・精神機能障害の病態・診断・治療	認知症の評価と治療・せん妄への対応・老年期うつ病の評価と治療	濱野	
10) 運動器系の診断・治療	骨折・関節拘縮リウマチ	小久保	

11)	泌尿器系の診断・治療	排尿障害・神経因性膀胱・前立腺肥大	青木
12-13)	高齢者の薬物療法	薬物動態・薬物力学・処方上の注意点・薬効評価・服薬指導	後藤
14-15)	診断・治療過程における高齢者看護包括アセスメント	複雑な疾患を抱えながら生活する高齢者の病態・診断・治療を踏まえ、リスクアセスメント知識を活用した看護展開（事例検討）	四谷
【3 授業形式】 授業は、講義、文献購読、討論により行う。			
【4 評価方法】 課題レポート（40％）、事例の討論内容（30％）、参加態度（30％）を総合して評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】			
【6 その他】 事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。			

【老年看護学特論Ⅳ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期																								
老年看護学特論Ⅳ (看護援助論)		2 単位	1 年次後期																								
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス																									
○四谷 淳子 長谷川 美香 平松 知子 古谷 和紀 花房 由美子	教 授／成人・老年看護学 教 授／地域看護学 教 授／金沢医科大学・老年看護学 老人看護専門看護師／京都大学医学部附属病院 老人看護専門看護師／神戸市立医療センター中央市民病院	jyotsuya@u-fukui.ac.jp mikah@u-fukui.ac.jp hiramatu@kanazawa-med.ac.jp fururu_to0515@yahoo.co.jp hanafusa@kcho.jp																									
【1 学習目標】 ・高齢者に起こりやすい健康問題とそこから派生する、高齢者と家族の問題を説明することができる。 ・高齢者と家族が抱える倫理的課題および支援方法を説明できる。 ・終末期における高齢者と家族への支援方法を具体的に説明できる。 ・複雑な健康問題をもつ高齢者と家族の入院から在宅復帰までの経過における質の高い看護を検討できる。																											
【2 授業内容】 <table><tr><th>(主題)</th><th>(学習内容)</th><th>(教員)</th></tr><tr><td>1-3) 家族看護論に基づく看護援助方法</td><td>家族理論にもとづき、高齢者とその家族への看護支援方法の理解</td><td>長谷川美</td></tr><tr><td>4-5) 転倒を起こしやすい高齢者と家族の看護</td><td>転倒のアセスメント、介入、評価について最近の研究から理解する。</td><td>平松</td></tr><tr><td>6-7) せん妄を起こしやすい高齢者と家族の看護</td><td>せん妄を生じる高齢者への看護に関する理論と実際、アセスメント方法・せん妄を発生した高齢者および家族へのケアについて学ぶ。</td><td>花房</td></tr><tr><td>8-9) 排泄障害を起こしやすい高齢者と家族の看護</td><td>排泄についてのアセスメント、介入、評価について最近の研究から理解する。</td><td>四谷</td></tr><tr><td>10-12) 終末期にある高齢者および家族への看護</td><td>終末期の身体的特徴と緩和ケア、高齢者の意思決定と家族を支える看護</td><td>花房</td></tr><tr><td>13-14) 複雑な健康問題をもつ高齢者と家族への看護</td><td>複雑な健康問題をもつ高齢者と家族の入院から在宅復帰までの経過における看護:最新の文献と既習した知識・技術を活用した看護実践の検討(事例検討)</td><td>四谷 古谷</td></tr><tr><td>15) まとめ</td><td>高齢者と家族への援助における老人専門看護師としてのあり方、自己の課題を討議する。</td><td>四谷</td></tr></table>				(主題)	(学習内容)	(教員)	1-3) 家族看護論に基づく看護援助方法	家族理論にもとづき、高齢者とその家族への看護支援方法の理解	長谷川美	4-5) 転倒を起こしやすい高齢者と家族の看護	転倒のアセスメント、介入、評価について最近の研究から理解する。	平松	6-7) せん妄を起こしやすい高齢者と家族の看護	せん妄を生じる高齢者への看護に関する理論と実際、アセスメント方法・せん妄を発生した高齢者および家族へのケアについて学ぶ。	花房	8-9) 排泄障害を起こしやすい高齢者と家族の看護	排泄についてのアセスメント、介入、評価について最近の研究から理解する。	四谷	10-12) 終末期にある高齢者および家族への看護	終末期の身体的特徴と緩和ケア、高齢者の意思決定と家族を支える看護	花房	13-14) 複雑な健康問題をもつ高齢者と家族への看護	複雑な健康問題をもつ高齢者と家族の入院から在宅復帰までの経過における看護:最新の文献と既習した知識・技術を活用した看護実践の検討(事例検討)	四谷 古谷	15) まとめ	高齢者と家族への援助における老人専門看護師としてのあり方、自己の課題を討議する。	四谷
(主題)	(学習内容)	(教員)																									
1-3) 家族看護論に基づく看護援助方法	家族理論にもとづき、高齢者とその家族への看護支援方法の理解	長谷川美																									
4-5) 転倒を起こしやすい高齢者と家族の看護	転倒のアセスメント、介入、評価について最近の研究から理解する。	平松																									
6-7) せん妄を起こしやすい高齢者と家族の看護	せん妄を生じる高齢者への看護に関する理論と実際、アセスメント方法・せん妄を発生した高齢者および家族へのケアについて学ぶ。	花房																									
8-9) 排泄障害を起こしやすい高齢者と家族の看護	排泄についてのアセスメント、介入、評価について最近の研究から理解する。	四谷																									
10-12) 終末期にある高齢者および家族への看護	終末期の身体的特徴と緩和ケア、高齢者の意思決定と家族を支える看護	花房																									
13-14) 複雑な健康問題をもつ高齢者と家族への看護	複雑な健康問題をもつ高齢者と家族の入院から在宅復帰までの経過における看護:最新の文献と既習した知識・技術を活用した看護実践の検討(事例検討)	四谷 古谷																									
15) まとめ	高齢者と家族への援助における老人専門看護師としてのあり方、自己の課題を討議する。	四谷																									
【3 授業形式】 授業は、講義、文献購読、討論により行う。																											
【4 評価方法】 授業での討論内容（60％）、課題レポート（40％）を総合して評価する。																											

【5 教科書及び参考図書等】

【6 その他】

事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。

【老年看護学特論Ⅴ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学特論Ⅴ (システムケア論)		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○長谷川 美香 米澤 洋美 山村 修 天谷 早苗 古川 直美 角地 孝洋 久保 博子	教 授／地域看護学 准教授／地域看護学 講 師／福井大学医学系部門医学領 域 地域医療推進講座 ケアマネジャー／福井大東包括支援 センター 訪問看護師／新田塚訪問看護ステー ション管理者 保健師／小松市 長寿介護課 主査 がん看護専門看護師／福井大学医学 部附属病院 地域医療連携部	mikah@u-fukui.ac.jp hyone@u-fukui.ac.jp kapi@u-fukui.ac.jp s-amaya@mx4.fctv.ne.jp huru0837@yahoo.co.jp t-kaku@city.komatsu.lg.jp kubohiro@u-fukui.ac.jp	
【1 学習目標】			
・国内外の高齢者保健医療福祉制度・政策、変遷、相違について説明できる。 ・病院・施設・在宅・地域のケア場面で必要な知識と、保健医療福祉との連携・協働のあり方を理解し、チーム医療における老人看護専門看護師の役割について説明できる。 ・高齢者と家族のサポートシステムの組織化と活用方法についてグローバルな視点で探求できる。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1-4) 高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状	高齢者保健医療福祉制度と政策の変遷・現状について理解し、諸外国における高齢者および家族への保健医療福祉制度・施策との比較。	長谷川美 米澤	
5-7) 高齢者と家族のためのサポートシステム	地域における保健医療福祉の現状と課題 地域包括ケアシステムの構築と地域マネジメント 地域包括ケアシステムにおけるC N Sの役割	長谷川美 米澤	
8-10) 住み慣れた地域で最後まで暮らすためのサポートシステム	高齢者および家族への支援の現状と課題を踏まえて、サポートシステムの構築と活用方法に関する最新の研究および施策の検討	長谷川美 米澤	
11-13) 多様な場で生活する高齢者と家族のためのサポートシステム	施設でのケアシステムの構築とその実際 医療施設でのチーム医療と保健医療福祉専門職の役割と看護職との連携 大学附属病院地域連携室における現状と課題	山村 天谷 古川 久保	
14-15) 今後の高齢者へのサポートシステムのあり方	既習を踏まえ、地域で高齢者と家族を支えるために必要な制度、サポートシステムを討議	角地	
【3 授業形式】			
授業は、講義、文献購読、討論により行う。			
【4 評価方法】			
授業での討論内容（60％）、課題レポート（40％）を総合して評価する。			

【5 教科書及び参考図書等】

指定教科書は特にない。

【6 その他】

事前に提示された課題・資料を自己学習して授業に臨む。

【老年看護学演習Ⅰ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学演習Ⅰ (急性期看護)		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○長谷川 智子 四谷 淳子 上原 佳子 青池 智小都	教 授／基礎看護学 教 授／成人・老年看護学 准教授／基礎看護学 特命助教／福井大学看護キャリアア ップ部門	hasekatz@u-fukui.ac.jp jyotsuya@u-fukui.ac.jp uehara@u-fukui.ac.jp chiko@u-fukui.ac.jp	
浅川 久美子	主任教員／福井大学看護キャリアア ップ部門	asakawak@u-fukui.ac.jp	
梅田 尚子	特命助教／福井大学看護キャリアア ップ部門	numeda@u-fukui.ac.jp	
武澤 真	急性・重症患者看護専門看護師／福 井大学医学部附属病院	mtake129@u-fukui.ac.jp	
古谷 和紀	老人看護専門看護師／京都大学医学 部附属病院	fururu_to0515@yahoo.co.jp	
上田 真弓 小淵 岳恒	看護師／加賀市医療センター 講師／福井大学医学系部門医学領域 救急部・総合診療部	m.ueda@city.kaga.lg.jp kobuta@u-fukui.ac.jp	
【1 学習目標】			
・生命の危機状態にある高齢者を包括的にアセスメントするために身体的・心理的反応について理解し、急性期医療上の課題を明らかにする。			
・急性期にある高齢者の生命の維持・回復をはかるとともに、安全で安楽な環境と高齢者の強みを引き出す、ケアとキューを統合した高齢者の急性期看護を探究する。			
・急性期にある高齢者に発生しやすい、せん妄や廃用性症候群などの要因と評価、予防的看護と発生時の看護について理解できる。			
・急性期医療下で高齢者を看護するための、医療専門職者の連携や協働、意思決定支援や入院初期から退院・在宅移行への支援を理解し、CNS の実践上の課題と自己の課題を明確化する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1- 3) オリエンテーション 急性期にある高齢者の特徴	急性期にある高齢者看護の特徴などについて 文献を活用し検討	長谷川智 上原	
4-8) 急性期にある高齢者の生体 反応	入院治療を受ける高齢者の特徴と周手術期の 術前～術後の生体反応や回復過程および心理 的变化の理解	武澤 青池	
	急性期にある高齢者の侵襲性の高い高度医 療・検査を受ける医療環境下における影響 ～呼吸・循環・代謝水分管理を中心に～	武澤 青池	
	治療に伴う高齢者の安楽と緩和ケアに寄り添 う QOL の維持向上へのアプローチ ～鎮痛管理と鎮静管理の調整とその方法～	武澤 青池	
	危機的状況における高齢者の予期的予測と終 末期医療の困難と課題 ～急性期医療現場が抱える医療者と患者・家族 のジレンマと倫理的課題～	武澤 青池	

9-11)	急性期治療をうける高齢者に活用できる看護理論	危機理論（事例展開）	梅田
		自己効力理論（事例展開）	浅川
		障害受容（事例展開）	上田
12-14)	急性期治療をうける高齢者の看護	認知機能の低下した高齢者への看護 廃用性症候群予防の看護 術後せん妄・うつ・認知症の要因と鑑別方法と 予防的介入・治療的介入	四谷 古谷
15-17)	急性期治療をうける高齢者と家族への看護	急性期における倫理的課題と高齢者の尊厳を守る看護、家族の意思決定支援	古谷
18-20)	急性期治療をうける高齢者の退院支援計画	入院初期から退院・在宅移行への計画立案（家族機能アセスメントを含め）、他職種連携・協働と社会資源の活用とサポート体制の構築プロセス	古谷
21-28)	急性期治療をうける高齢者のフィジカルアセスメント	呼吸器系・循環器系・消化器系・脳神経系・筋・骨格系のアセスメントとその看護	長谷川智 青池 小淵
29-30)	演習の統括	これまでの演習を通して、急性期治療をうける高齢者とその家族への看護実践の課題と解決方法を検討する。 認知症看護実践における CNS の役割の考察と自己の課題を明確にする。	四谷 古谷 武澤
【3 授業形式】			
授業は、講義、演習、文献購読、討論により行う。			
【4 評価方法】			
事例検討の内容（40%）、課題レポート（40%）、参加態度（20%）を総合して評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】			
必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。			
【6 その他】			

【老年看護学演習Ⅱ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学演習Ⅱ (認知症看護)		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○四谷 淳子 濱野 忠則	教 授／成人・老年看護学 准教授／福井大学医学系部門医学領域 内科学 (2)	jyotsuya@u-fukui.ac.jp hamano@u-fukui.ac.jp	
直井 千津子	看護部副部長・老人看護専門看護師 ／金沢医科大学病院	c-naoi@kanazawa-med.ac.jp	
森垣 こずえ	老人看護専門看護師／金沢医科大学 病院	morigaki@kanazawa-med.ac.jp	
前田 恵津子	看護師／小規模多機能型居宅介護事 業所 我が家	momotaro.16@gmail.com	

【1 学習目標】

- ・認知症の病態・症状・診断・治療を最新の研究に基づき理解し説明できる。
- ・認知症高齢者を取り巻く環境を理解し、包括的にアセスメントできる。
- ・認知症高齢者および家族を取り巻く倫理的課題を分析・考察し、その支援方法を説明できる。
- ・認知症の周辺症状（B P S D）とその支援方法を説明できる。
- ・認知症高齢者および家族への支援における他職種との連携・協働の意義を理解し述べることができる。
- ・認知症高齢者および家族の現状を踏まえ、キュアとケアを統合した専門的で高度なケア実践を考えることができる。

【2 授業内容】		
(主題)	(学習内容)	(教員)
1- 3) 認知症高齢者の理解	認知症高齢者とその家族の理解、認知症高齢者の看護の基本 パーソンセンタードケアと看護	四谷 直井 森垣
4- 6) 認知症の病態・診断・治療	認知症の病態生理、検査と診断、中核症状と周辺症状（BPSD）の治療、認知機能のメカニズム	濱野
7- 10) 認知症ケアの実際 (フィールドワーク 1)	認知症をもつ高齢者のケアの実際とスタッフ行動を通して考える。 地域で暮らす認知症高齢者ケアの実際を知る。	四谷 前田
【施設：小規模多機能型居宅介護事業所 我が家】		
11-12) 認知症の看護（事例検討）	フィールドワークで学んだ認知症ケアをもとに、認知症高齢者看護を考える。	四谷 前田
13-14) 認知症の予防的介入と効果	アクティビティケア、回想法など認知症の予防的介入とその効果について	四谷
15-17) 認知症高齢者と家族への支援	認知症高齢者と家族へのアセスメント・看護計画立案 中核症状と周辺症状（BPSD）への対応、生活行動への援助 認知症をもつ方とのコミュニケーション	四谷 直井 森垣

18-19)	認知症看護における連携と協働	認知症高齢者と家族の課題について 地域におけるサポートシステム、CNS の役割	四谷 直井 森垣
20-21)	認知症高齢者の倫理的課題	認知症高齢者とその家族にかかわる倫理的課題と支援、および倫理調整について	四谷 直井 森垣
22-27)	認知症ケアの実際 (フィールドワーク 2)	認知症をもつ高齢者のアセスメントおよび看護計画を立案する。地域で過ごすために必要なケアプランの立案。	四谷 前田
28-30)	演習の統括	【施設：小規模多機能型居宅介護事業所 我が家】 フィールドワークで体験した、認知症高齢者とその家族への看護実践の課題と解決方法を検討する。 認知症看護実践における CNS の役割の考察と自己の課題を明確にする。	四谷 前田 直井 森垣
【3 授業形式】 授業は、講義、演習、文献購読、討論により行う。			
【4 評価方法】 事例検討の内容（40％）、課題レポート（40％）、参加態度（20％）を総合して評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】 必要に応じて、資料配布・文献の紹介を行う。			
【6 その他】 事前に文献検索の方法についてオリエンテーションを受けておく。 フィールドワークに内容や方法については、別途提示する。			

【老年看護学実習Ⅰ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学実習Ⅰ (CNS 役割)		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○四谷 淳子 花房 由美子 古谷 和紀	教 授／成人・老年看護学 老人看護専門看護師／神戸市立医療 センター中央市民病院 老人看護専門看護師／京都大学医学 部附属病院	jyotsuya@u-fukui.ac.jp hanafusa@kcho.jp fururu_to0515@yahoo.co.jp	
【1 学習目標】 ・老人看護専門看護師が果たしている 6 つの役割（実践、教育、相談、調整、倫理、研究）を理解し、専門看護師として取り組むべき自己の課題を明確にすることができる。			
【2 授業内容及び方法】			
(主題) 1 老人看護専門看護師役割実習 【実習病院】 ・神戸市立医療センター中央市民病院 ・京都大学医学部附属病院		(学習内容) ・老人看護専門看護師が実際の場面でどのように実践的な役割を果たしているのか、実践の意図や役割について理解する。 ・老人看護専門看護師のコンサルテーションに同行し、コンサルテーションに必要な知識や技術を理解する。 ・老人看護専門看護師が行っている調整的な役割について理解する。 ・老人看護専門看護師が行っているケアの質向上を目指した教育活動を理解できる。 ・老人看護専門看護師が行っている臨床における研究活動の実際を理解できる。 ・倫理的問題の解決に向けた老人看護専門看護師の果たす役割を理解できる。 ・老人看護専門看護師の役割開発と課題について考え、言語化することができる。 ・老年看護の質の向上にむけた組織内の活動を理解する。 ・自己の専門看護師像を描き、取り組むべき課題を明らかにする。	(教員) 四谷 花房 古谷
(方法) 実習目標を踏まえ、実習指導者と相談及びスーパービジョンを受けながら、自立して実習計画を立案し、それにそって実習を行う。日々の実習の学びを記録し、振り返りを行う。カンファレンス等では、実習目標到達に向けた取り組んだ実習内容を実習指導者や教員より助言をもらいながら統合させる。最終的に実習目標到達に向けての学びをレポートにまとめる。 実習施設の就業時間を参考に、実習開始・終了時間を決定する。教員は、実習全体の企画ならびスーパービジョンを行う。また、実習上での即決を必要とする調整がある場合、その任にあたる。さらに、教員は、最終日のカンファレンスに参加し、学生の学びを深められるように適切なアドバイザーとしての役割を担う。			

(実習スケジュール)

	月	火	水	木	金
1週目	オリエンテーション 老人CNSに同行し参加観察			受け持ち対象者の紹介 情報収集	中間カンファレンス CNSとしての役割と機能の 学びを整理し、自習からの看 護計画を立案する。 受け持ち対象者の理解と看 護計画の立案。 指導者・教員からの指導をう ける。
	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	
2週目	老人CNSに同行し看護実践 する 受け持ち対象者への看護実 践	スーパービジョンを受けなが ら看護実践に活かす			最終カンファレンス CNSの活動、看護実践から の学びを発表。 今後の活動に向けた展望と 課題についてディスカッショ ンする。
	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	

【3 授業形式】

実習およびプレゼンテーションと討議。

【4 評価方法】

目標達成度、実践状況（看護実践能力を重視する）、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。レポートは、課題に即した倫理性・内容性・表現性などを重視する。

【5 教科書及び参考図書等】

適宜提示する。

【6 その他】

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

【老年看護学実習Ⅱ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学実習Ⅱ (急性期看護)		4 単位	2 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○四谷 淳子 古谷 和紀 花房 由美子	教 授／成人・老年看護学 老人看護専門看護師／京都大学医学部附属病院 老人看護専門看護師／神戸市立医療センター中央市民病院	jyotsuya@u-fukui.ac.jp fururu_to0515@yahoo.co.jp hanafusa@kcho.jp	
【1 学習目標】			
・急性期の複雑な看護ニーズをもつ高齢者とその家族について、身体・精神・生活等を総合的に評価する能力を高め、ケアとキュアを統合した質の高い看護が実践できる。 ・急性期の臨床状況において高齢者とその家族に遭遇する倫理的課題を解決するために、適切な意思決定ができるように倫理的調整を行うことができる。 ・急性期にある高齢者とその家族が希望する生活の場で生活ができるよう、家族・施設内外の保健医療福祉関係者に対し、調整を実施できる。			
【2 授業内容及び方法】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 急性期における高齢者看護実習	・高度先進かつ総合的診療機能をもち診療ならびに看護を提供している病院で実習する。 ・急性期疾患によって入院加療中の複雑な健康問題を抱え、高度な看護実践能力を必要とする高齢者を、入院から退院まで受け持ち、フィジカルエクザミネーション、看護理論を基に幅広い視野で収集した情報、アセスメントを基に質の高い看護を展開する。 ・高齢者の持っている力を発揮できるように、医療チームの一員として連携して援助する。 ・受け持ち高齢者の看護計画を立案し、病棟指導者の指導を受け、自己の看護実践を病棟指導者や指導教員と共に検討する。 ・急性期にある高齢者とその家族に生じやすい倫理的問題を解決するために適切な意思決定ができるように支援することができる。 ・急性期にある高齢者の療養場所の移行に際し、高齢者と家族が希望する生活の場を把握し、最良の選択を行うための社会資源の把握、施設内外との調整をする。	四谷 古谷 花房	
【実習病院】			
・神戸市立医療センター中央市民病院 ・京都大学医学部附属病院			
(方法)			
実習目標を踏まえ、実習指導者と相談及びスーパービジョンを受けながら、自立して実習計画を立案し、それにそって実習を行う。日々の実習の学びを記録し、振り返りを行う。カンファレンス等では、実習目標到達に向けた取り組んだ実習内容を実習指導者や教員より助言をもらいながら統合させる。最終的に実習目標到達に向けての学びをレポートにまとめる。			
実習施設の就業時間を参考に、実習開始・終了時間を決定する。教員は、実習全体の企画ならびスーパービジョンを行う。また、実習上での即決を必要とする調整がある場合、その任にあたる。さらに、教員は、最終日のカンファレンスに参加し、学生の学びを深められるように適切なアドバイザーとしての役割を担う。			
(実習計画)			
実習は4週間とし、急性期治療をうける高齢者を2例受け持ち、高度な看護実践をする。			

(実習スケジュール)

	月	火	水	木	金
1週目	病院の概要および実習関連部署のオリエンテーション 受け持ち対象者紹介 ケアとキューアの側面から情報収集・アセスメントを行う	受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキューアにもとづき看護計画・立案・実践を行う			第1回 中間面接 ・教員と面接を行い、看護問題、看護の方向性、自己の課題について検討する ・指導者からスーパービジョンを受ける
	施設の教育プログラムに参加する				
2週目	看護計画提出 スーパービジョンを受けながら、看護計画にもとづき看護を実践する				中間カンファレンス ・実習指導者、教員とカンファレンスを行い、看護問題、目標、看護計画の適切性、必要な調整、倫理調整について、アドバイスを受ける ・看護計画の修正
	施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。				
3週目	修正した看護計画提出 修正した看護計画にもとづき看護を実践する	受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキューアにもとづき看護計画・立案・実践を行う。			第2回 中間面接 ・教員と面接を行い、自己の課題について検討する
	施設の教育プログラムに参加する				
4週目	スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす 退院支援、高齢者とその家族に生じた倫理的問題の調整、教育・相談活動・ケア調整について実践する。				最終カンファレンス ・実践した高度な看護実践・評価ならびに退院支援など実践した看護活動・評価、今後の課題を明確にする。 ・コンサルテーションの一連のプロセスについて、指導者・教員よりスーパービジョンを受け、看護実践能力を高めるための課題と解決策を見出す。
	施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。				CNSとしての教育活動のあり方について意見交換を行う。

【3 授業形式】

実習およびプレゼンテーションと討議。

【4 評価方法】

目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

【6 その他】

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

【老年看護学実習Ⅲ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学実習Ⅲ (認知症看護)		4 単位	2 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○四谷 淳子 直井 千津子 森垣 こずえ 菓子尾 美保	教 授／成人・老年看護学 看護部副部長・老人看護専門看護師 ／金沢医科大学病院 老人看護専門看護師／金沢医科大学 病院 認知症看護認定看護師／福井勝山 総合病院	jyotsuya@u-fukui.ac.jp c-naoi@kanazawa-med.ac.jp morigaki@kanazawa-med.ac.jp	
【1 学習目標】 病院や施設で生活する認知症高齢者に対し、最先端の認知症の診断・検査・治療を学びながら、認知症の状態と心身の状態を包括的にアセスメントし、倫理的判断に基づいて、その人らしさを発揮した、認知症の症状・経過に応じた高度な専門的看護実践能力を修得する。また、多職種・他機関と連携・協働ができる能力を修得する。			
【2 授業内容及び方法】			
(主題) 1 認知症高齢者看護実習	(学習内容) 【病院実習 (2 単位)】 ・ <u>認知症センター (もの忘れ外来)</u> 検査・診断・治療の見学を通して、各職種の先駆的な取り組みや、集団家族指導・相談、地域連携を学ぶ。 認知症高齢者のその家族の生活とニーズを理解し、在宅生活継続のための生活の再構築に向けた認知症治療と看護の役割を学ぶ。 ・ 病棟実習 認知症をもつ高齢者を 2 名受け持ち (うち 1 名は BPSD をもつ高齢者、高齢者や家族に生じている課題を、専門知識を用いて包括的にアセスメントし、生活の質、尊厳を尊重し、認知症の症状・経過に応じた看護実践を行う。 ・ 看護スタッフおよび多職種と連携して高度なダイレクトケアを実践する。 ・ 多職種と情報を共有し、看護の専門的ケアを考察する。 ・ スーパービジョンを受けながら、自己の専門性を発展させ、専門看護師としての自己の課題を明確にする。 【施設実習 (2 単位)】 ・ 複雑で困難な課題を抱える認知症をもつ高齢者を 1～2 名受け持ち、専門的な知識や理論を活用してアセスメント、プラン立案、実践、評価の看護過程を実践する。教員や臨床指導者のスーパービジョンを受け、安全性も考慮する。 ・ 看護師だけでなく、介護職員、介護支援専門員等の他職種に対しても意見交換を行い、老人看護専門看護師としての役割を自覚し、チームケアの質を向上するための取り組みについて考える。 ・ 受け持ち対象者だけでなく、他の対象者にも目をむけ、積極的に認知症看護の実践を行う。	(教員) 四谷 直井 森垣 菓子尾	
【実習病院】 ・ 金沢医科大学病院			
【実習施設】 ・ 福井勝山総合病院附属 介護老人保健施設			

- ・認知症高齢者の倫理的判断を必要とされる看護場面で、倫理基準等にもとづいて適切な倫理判断と関係者間の倫理的調整と意思決定の支援を行う。
- ・介護保険制度のなかでの施設の役割や機能を考慮し、場のニーズを踏まえたケアの質向上をもたらすスタッフ教育計画を企画・実践する。

(方法)

実習目標を踏まえ、実習指導者と相談及びスーパービジョンを受けながら、自立して実習計画を立案し、それにそって実習を行う。日々の実習の学びを記録し、振り返りを行う。カンファレンス等では、実習目標到達に向けた取り組んだ実習内容を実習指導者や教員より助言をもらいながら統合させる。最終的に実習目標到達に向けての学びをレポートにまとめる。

教員は、最終日のカンファレンスに参加し、学生の学びを深められるように適切なアドバイザーとしての役割を担う。

(実習スケジュール)

【病院実習】					
	月	火	水	木	金
1週目	病院及び実習関連部署のオリエンテーション 認知症センター見学実習 認知症高齢者への検査・診断・治療の見学を通して、各職種の先駆的な取り組みを学ぶ	認知症センター見学実習 集団指導・相談・地域連携の場に参画し、生活の再構築に必要な環境調整と家族支援の実践を学ぶ 受け持ち対象者紹介 ケアとキュアの側面から情報収集・アセスメントを行う。	受け持ち対象者の看護実践に参加しながら、ケアとキュアにもとづき看護計画・立案・実践を行う。 高齢者とその家族に適切な退院支援を実践するために、包括的なアセスメントを進める。		中間カンファレンス CNSとしての役割と機能の学びを整理し、自習からの看護計画を立案する。 受け持ち対象者の理解と看護計画の立案。 指導者・教員からの指導をうける。
		カンファレンス 病院内の教育プログラムに参加する	カンファレンス	カンファレンス	
2週目	老人CNSに同行し看護実践する 受け持ち対象者への看護実践 退院支援、高齢者とその家族に生じた倫理的問題の調整、教育・相談活動・ケア調整について実践する。	スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす			最終カンファレンス CNSの活動、看護実践からの学びを発表。 今後の活動に向けた展望と課題についてディスカッションする。
	施設の教育プログラムに参加し、教育を実施する。	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	
【施設実習】					
	月	火	水	木	金
1週目	介護老人保健施設及び実習に関連する部署・施設のオリエンテーション 受け持ち対象者紹介 専門知識を用いて包括的にアセスメントする。	受け持ち対象者の生活の質、尊厳を尊重し、認知症の症状・経過に応じた看護計画・立案・実践を行う。		施設内でのアクティビティケアを実践	中間カンファレンス CNSとしての役割と機能の学びを整理し、自習からの看護計画を立案する。 受け持ち対象者の理解と看護計画の立案。 指導者・教員からの指導をうける。
		カンファレンス 施設の教育プログラムに参加する	カンファレンス	カンファレンス	
2週目	看護師・介護スタッフに同行し看護実践する 受け持ち対象者への看護実践	スーパービジョンを受けながら看護実践に活かす 施設内での担当者サービス担当者会議の参加			最終カンファレンス CNSの活動、看護実践からの学びを発表。 今後の活動に向けた展望と課題についてディスカッションする。
	施設の教育プログラムを企画し実施する。(看護師、介護スタッフへの教育)	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	

【3 授業形式】

実習およびプレゼンテーションと討議。

【4 評価方法】

目標達成度、実習に取り組む姿勢、レポート、プレゼンテーションなどを総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

適宜紹介する。

【6 その他】

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

【老年看護学課題研究】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
老年看護学課題研究		2 単位	2 年次通年
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○四谷 淳子	教 授／成人・老年看護学		jyotsuya@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】 ・老年看護学における研究課題を設定し、研究を実施し、論文を完成し公表することを通して専門看護師としての実践上の課題を解決するための研究能力を養う。			
【2 授業内容及び方法】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 研究課題とテーマの設定	フィールドワークおよび実習において見つけた看護実践の疑問や課題を研究課題として絞り込み、研究意義を明確化する。 研究課題に関する系統的レビューから、研究テーマと目的を設定する。	四谷	
2) 研究計画書の作成 (倫理審査含む)	研究目的に適切な研究デザインを検討する。 研究目的・研究デザインを踏まえて研究計画を立案する。 計画した研究実施に際しての倫理的配慮を検討する。	〃	
3) データ収集および分析	研究計画に基づき、データ収集し分析する。	〃	
4) 研究論文の作成	分析結果について先行研究との比較を基に考察を深め、論理的に論文を作成する。	〃	
5) 研究論文の発表	作成した論文の骨子から簡潔明瞭なプレゼンテーション資料を作成し、研究成果を発表する。	〃	
【3 授業形式】 ゼミ形式と個別指導			
【4 評価方法】 研究プロセスを通して、その取り組む姿勢、最終修士論文内容と発表状況。			
【5 教科書及び参考図書等】 D. F. ポーリット&C. T. ベック著 近藤潤子翻訳：看護研究 原理と方法 第2版 医学書院，2011. その他、適宜紹介する。			
【6 その他】			

【母子看護学特論】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
母子看護学特論		2 単位	1 年次前期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○波崎 由美子 友田 明美 谷澤 昭彦 畑 郁江 嶋 雅代 重松 陽介 上澤 悦子	教 授／母子看護学・助産学 教 授／子どものこころの発達研究センター 教 授／がん専門医育成推進講座 准教授／小児科学 講 師／母子看護学・助産学 客員教授／福井大学 教 授／京都橘大学 助産学	yuminami@u-fukui.ac.jp atomoda@u-fukui.ac.jp tanizawa@u-fukui.ac.jp ikueh@u-fukui.ac.jp mashima@u-fukui.ac.jp yosuke@u-fukui.ac.jp kamisawa@tachibana-u.ac.jp	

【1 学習目標】

母子を取り巻く健康問題、母子の心身の健全な育成、周産期における母子の看護支援、小児期の看護の質の評価、思春期や更年期にある人の健康問題など母子看護学に関連した課題について女性と家族のライフサイクルの視点で学習する。また、胎児期からの小児の疾病について医学的側面から学び、小児期の健康問題を有する患児とその家族が直面する医療上の問題などについて検討し、地域保健の視点をも含めた問題解決法について学習する。これらを通し、今後の学習の基礎的能力を修得する。

【2 授業内容】

(主題)	(学習内容)	(教員)
1) 母子看護学領域の研究課題と取り組み方		波 崎
2) 女性のライフサイクルにおける健康課題 (1)	母性準備期の課題と看護介入	上 澤
3) 女性のライフサイクルにおける健康課題 (2)	更年期の課題と看護介入	波 崎
4) 子どもの健康課題・問題と看護介入	低出生体重児・多胎児	波 崎
5) 母子看護学領域で用いられる概念・理論 (1)	Deutsch、Rubin、Mercer の母親	波 崎
6) 母子看護学領域で用いられる概念・理論 (2)	流産・死産・新生児の死	〃
7) 母子看護学領域で用いられる概念・理論 (3)	がん・生殖	波 崎
8) マスクリーニングと医学管理・看護支援	新生児スクリーニングの実際	重 松
9) 小児がんと治療	小児がん治療の実際	谷 澤
10) 小児がん患者の晩期障害と対応	二次がん・生殖機能温存	〃
11) 遺伝性疾患と遺伝相談	遺伝相談の実際	畑
12) 小児の疼痛と看護支援	医療処置とプレパレーション	〃
13) 子どもへの虐待	児童虐待と子どもの脳	友 田
14) 母子看護学領域の臨床看護研究の実際 (1)		嶋
15) 母子看護学領域の臨床看護研究の実際 (2)		波 崎

【3 授業形式】

講義・グループ討議

【4 評価方法】

授業への出席態度及び課題レポート

【5 教科書及び参考図書等】

高橋真里 村本淳子編：ウィメンズヘルスナーシング - 女性のライフサイクルとナーシング第2版，
ヌーベルヒロカワ その他、随時講義の中で紹介する。

【6 その他】

【母子看護学演習】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
母子看護学演習		4 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属		E メールアドレス
○波崎 由美子 嶋 雅代	教 授／母子看護学 講 師／母子看護学		yuminami@u-fukui.ac.jp mashima@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】			
母子看護学特論で学んだ内容に関連して、母子の心身の健全な育成に関連する諸因子、女性や家族の健康問題及び看護支援方法について検討し、実践の場で活用できる看護支援および研究への活用法について探求する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 文献の収集とクリティーク	リプロダクティブヘルスケアを必要とする女性に対する課題・問題の抽出、具体的な看護支援と評価を行う。	波崎・嶋	
2) 文献の収集とクリティーク	周産期のハイリスク母子と家族の課題・問題の抽出を内外の関連文献を用いて、看護支援と評価を行う。	波崎・嶋	
3) 研究課題の明確化	文献クリティークを通じて、自己の研究課題を明確にする。	波崎・嶋	
4) 研究計画の立案	倫理的問題、分析方法を検討し、実施可能な研究計画書を立案する。	波崎・嶋	
【3 授業形式】			
ゼミ形式によるプレゼンテーション、ディベート、テーマに基づくレポート			
【4 評価方法】			
出席状況、主体的な学習活動、課題に対する問題解決能力、プレゼンテーション能力、ディベート能力、レポート内容などにより総合的に評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】			
その他随時講義の中で紹介する。 スー・ブロックター, メアリー・レンフルー編 監訳 前原澄子:助産学研究入門 エビデンスにもとづく実践を目指して, 医学書院, 2003. 福原俊一:シリーズ臨床家のための臨床研究デザイン塾テキスト③概念モデルをつくる～研究課題を研究可能な形に～, 2013. 大木秀一:看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん, 医歯薬出版, 2014.			
【6 その他】			

【母子看護学特別研究】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
母子看護学特別研究		1 2 単位	2 年次通年
担当教員名	職名／所属		E メールアドレス
○波崎 由美子 嶋 雅代	教 授／母子看護学・助産学 講 師／母子看護学・助産学		yuminami@u-fukui.ac.jp mashima@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】			
母子看護・助産学領域において自ら選んだ専門の研究課題に沿って研究をデザインし、研究プロセスを実際に展開する。研究の成果を論文にまとめ発表する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1) 研究準備	研究計画が研究目的に添っているかを確認し、 調査項目を精選する。研究フィールドに協力を依頼する。	波崎 嶋	
2) 研究の実施	研究計画に添い、研究を実施する。	〃	
3) 結果の分析	収集したデータを分析し、研究の方法、 目的を満たすかを確認し、必要時修正を行う。	〃	
4) 修士論文作成	分析結果に添い、研究で明らかになった事象を、 先行研究からの比較、結果の意味を考察し、 論理的な論文とする。必要な図表を作成する。	〃	
5) 修士論文発表	作成した論文をもとに、プレゼンに必要な抄録、 パワーポイント、原稿を作成し、成果を発表する。	〃	
【3 授業形式】			
ゼミ形式または個別指導			
【4 評価方法】			
修士論文の作成過程・論文内容をもとに評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】			
研究テーマと研究方法、研究結果に関する諸論文 D. F. ポーリット、B. P. ハングラー、近藤潤子監訳：看護研究 原理と方法 第2版、医学書院、2010. バーンズ&グローブ、黒田裕子、中木高夫、逸見 功監訳：看護研究入門 原著第7版 一評価・統合・エビデンスの生成、2015.			
【6 その他】			

【災害看護学特論Ⅰ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学特論Ⅰ		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○酒井 明子 磯見 智恵 木村 哲也 松本 英樹 清水 誉子 高山 裕喜枝 野戸 結花 山崎 加代子 上田 耕蔵 永井 幸寿	教 授／災害看護学 教 授／成人・老年看護学 准教授／救急医学 准教授／放射線基礎医学 講 師／災害看護学 救急看護認定看護師／看護部 教 授／弘前大学 准教授／福井県立大学 病院長／神戸協同病院 弁護士／アンサー法律事務所	sakaiaki@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp tkimu@u-fukui.ac.jp hidekim@u-fukui.ac.jp urutaka@u-fukui.ac.jp yukie@u-fukui.ac.jp noto@hirosaki-u.ac.jp yamazaki@fpu.ac.jp ueda@kobe-iseikyo.or.jp koju-answer@bell.ocn.ne.jp	
【1 学習目標】 災害種類・災害サイクルにおける身体的・心理的・社会的課題を生活の側面や地域社会への影響の側面から理解する。災害発生時の生活の問題に関連した法律や制度を理解し、災害対応政策の現状と課題を検討し、考察する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 災害種類別による生活上の諸問題	災害種類における身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題	酒井・山崎・高山 磯見・清水	
2 //	//	酒井・山崎・高山 磯見・清水	
3 災害サイクル別による生活上の諸問題	災害サイクルにおける身体的・心理的・社会的課題に対する生活上の問題	酒井・山崎・高山 磯見・清水	
4 //	//	酒井・山崎・高山 磯見・清水	
5 災害時に発生する健康課題	災害に関連する疾患および災害関連死と発生要因	上田	
6 //	災害関連死に関する災害対応政策の現状と課題	上田	
7 災害が人体に及ぼす影響と社会的課題	災害が人体に及ぼす影響 —放射線による人体影響に関する対策	松本	
8 //	放射線による社会的課題	松本	
9 //	緊急被ばくに対する災害対応政策	松本	

10	災害事例と災害対策	事例からみた各災害における災害対応政策の 実際と課題	木村
11	〃	〃	木村
12	災害事例と看護の課題	事例からみた各災害における生活上の問題・地域 社会への影響と看護	野戸
13	〃	〃	野戸
14	災害に関連した法律や制度	災害時の諸問題と法	永井
15	〃	法改正の背景と今後の課題	永井
【3 授業形式】 講義及びプレゼンテーションと討議			
【4 評価方法】 授業への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】 適宜紹介する。			
【6 その他】 主単位認定者が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行う。			

【災害看護学特論Ⅱ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学特論Ⅱ		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○酒井 明子 長谷川 智子 磯見 智恵 清水 誉子 高山 裕喜枝 上澤 悦子 三澤 寿美 山崎 加代子	教 授／災害看護学 教 授／基礎看護学 教 授／成人・老年看護学 講 師／災害看護学 救急看護認定看護師／看護部 教 授／京都橘大学 教 授／東北福祉大学 准教授／福井県立大学	sakaiaki@u-fukui.ac.jp hasekatz@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp urutaka@u-fukui.ac.jp yukie@u-fukui.ac.jp kamisawa@tachibana-u.ac.jp misawa@tfu-mail.tfu.ac.jp yamazaki@fpu.ac.jp	
【1 学習目標】			
1) 災害看護活動の対象となる被災者および援助者の特性および反応を理解し、災害サイクルに沿って援助方法を修得する。			
2) 災害時要援護者への支援の実際を通して援助方法を修得する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 急性期における災害看護	危機的状態にある被災者および援助者の特性	高山・山崎 清水	
2 〃	危機的状態にある被災者および援助者への看護	高山・山崎 清水	
3 慢性期における災害看護	災害時の慢性疾患患者の病状と生活に及ぼす影響	磯見	
4 〃	災害時の慢性疾患患者がセルフケアを維持していくための援助方法	磯見	
5 生殖医療を受ける対象者への災害看護	生殖医療を受けている対象者の特性	上澤	
6 〃	災害時の生殖看護の実際	上澤	
7 災害時要援護者・被災者・援助者	災害時要援護者の定義と対象の特徴を踏まえた生活への援助 被災者と援助者の特性と支援の実際	酒井	
8 高齢者と災害看護	災害時の高齢者の反応	磯見	
9 〃	災害時における高齢者の看護の実際	磯見	
10 母子と災害看護	災害時の母性看護の実際	三澤	
11 〃	災害時の小児看護の実際	三澤	
12 ストレス・危機状態にある人への災害看護	災害サイクルにおける心理的変化のプロセスと心理的支援	酒井	
13 外国人と災害看護	外国人への看護の実際	長谷川智	
14 心身に障がいをもつ人への災害看護	心身に障がいをもつ人の災害時の諸問題	酒井	
15 〃	心身に障がいをもつ人の災害時の看護の実際	酒井	

【3 授業形式】

講義及びプレゼンテーションと討議

【4 評価方法】

授業への参加状況，プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

適宜紹介する。

【6 その他】

主単位認定者が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行う。

【災害看護学特論Ⅲ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学特論Ⅲ		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○酒井 明子	教 授／災害看護学	sakaiaki@u-fukui.ac.jp	
長谷川 美香	教 授／地域看護学	mikah@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵	教 授／成人・老年看護学	ichie@u-fukui.ac.jp	
安田 伸宏	教 授／附属国際原子力工学研究所	nyasuda@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子	講 師／災害看護学	urutaka@u-fukui.ac.jp	
室崎 益輝	研究科長／兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科	y.murossaki@mist.ocn.ne.jp	
渥美 公秀	教 授／大阪大学	atsumi@hus.osaka-u.ac.jp	
小原 真理子	理事長／NPO 法人災害看護支援機構	ohara-ma@ac.cyberhome.ne.jp	
福田 淑江	准教授／東京医療保健大学	y-fukuda@thcu.ac.jp	
村井 雅清	顧 問／被災地NGO協働センター	murai@code-jp.org	
【1 学習目標】			
災害発生に伴う急性期から復興期の人間の行動を理解し、国際的な視点・地域防災・病院防災の視点から防災・減災を理解し、備えに向けた看護援助方法を学ぶ。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 開発途上国への看護支援	開発途上国への災害支援の現状と課題	長谷川	
2 開発途上国への看護支援	災害時における異文化社会における看護援助方法	長谷川	
3 地域における災害対応政策	地域における災害対応政策の現状と課題	長谷川	
4 地域防災	個人・家族・地域・病院における防災体制	小原	
5 地域防災	住民や住民組織による地域防災と看護支援	小原	
6 病院防災	災害時の初動体制	福田	
7 病院防災	病院における災害対応訓練の実際	福田	
8 防災行政・防災計画	災害時における災害応急対策	安田	
9 防災行政・防災計画	災害時における行政対応と原子力災害対応	安田	
10 復興支援	復興とは 人間復興	室崎	
11 復興支援	復興支援「復興支援時の諸問題と看護介入、災害対応政策における課題」	室崎・酒井 磯見・清水	
12 復興支援ボランティア	国内における復興支援ボランティアの実際と課題	村井	
13 復興支援ボランティア	海外における復興支援医療ボランティアの実際と課題	村井・酒井 磯見・清水	
14 防災・減災	防災・減災の人間科学	渥美	
15 防災・減災	看護の視点から捉えた防災・減災「防災・減災の人間科学」	渥美・酒井 磯見・清水	

【3 授業形式】

講義及びプレゼンテーションと討議

【4 評価方法】

授業への参加状況，プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

適宜紹介する。

【6 その他】

主単位認定者が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行う。

【災害看護学特論Ⅳ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学特論Ⅳ		2 単位	2 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○酒井 明子	教 授／災害看護学	sakaiaki@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵	教 授／成人・老年看護学	ichie@u-fukui.ac.jp	
木村 哲也	准教授／救急医学	tkimu@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子	講 師／災害看護学	urutaka@u-fukui.ac.jp	
山田 覚	教 授／高知県立大学	yamada@cc.u-kochi.ac.jp	
菊池 志津子	元常任幹事／日本看護連盟	shizukoki@gmail.com	
瀬戸 初江	看護局長／東北医科薬科大学病院	seto@hosp.tohoku-mpu.ac.jp	
【1 学習目標】			
災害サイクルと被災者特性を踏まえ、災害救護活動の現場・病院・地域における専門職としての連携システム、地域ネットワーク、倫理判断を含む看護援助について理論的に理解する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 専門職連携	災害支援活動における I P W	酒井 磯見 清水	
2 〃	災害サイクルと被災者の特性を考慮した他職種との連携による看護支援の実際	酒井 磯見 清水	
3 地域ネットワーク	災害時の広域な地域ネットワーク	山田	
4 〃	災害看護支援ネットワーク構築の実際	山田	
5 被災病院における倫理的判断と看護援助	被災病院における倫理的諸問題と看護援助	瀬戸	
6 〃	被災病院における倫理的諸問題と看護援助	瀬戸	
7 専門職としての連携システム	専門職チームにおける連携システム	木村	
8 〃	緊急被ばく医療における連携の実際	木村	
9 被災地における連携の実際	災害サイクルと災害の場の特性および被災者特性を考慮した被災地における災害看護活動	酒井	
10 被災地における倫理的判断と看護援助	被災地における倫理判断を含む看護援助	酒井	
11 災害管理における看護の役割	災害対応訓練と連携システムにおける看護の役割	菊池	
12 〃	災害医療機関施設と地域との連携	菊池	

13	課題検討と発表	1) 被災病院における専門職連携と看護援助に関するプレゼンテーションとディスカッション	酒井 磯見 清水
14	〃	2) 被災地域における専門職連携と看護援助に関するプレゼンテーションとディスカッション	酒井 磯見 清水
15	〃	3) 専門職としての倫理判断と看護援助プレゼンテーションとディスカッション	酒井 磯見 清水
【3 授業形式】 講義及びプレゼンテーションと討議			
【4 評価方法】 授業への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】 適宜提示する。			
【6 その他】 主単位認定者が、各単元の講義内容調整および講義サポートを行う。			

【災害看護学演習Ⅰ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学演習Ⅰ		2 単位	1 年次後期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○酒井 明子 磯見 智恵 繁田 里美 月田 佳寿美 川口 めぐみ 清水 誉子	教 授／災害看護学 教 授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学 講 師／精神看護学 講 師／災害看護学		sakaiaki@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp shigeta@u-fukui.ac.jp tsuki@u-fukui.ac.jp senmegu@u-fukui.ac.jp urutaka@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】			
災害発生から時間的な推移に伴い必要となる看護援助として、災害急性期に在宅や避難所や病院で被災者が抱える諸問題や対応策、中長期に仮設住宅で被災者が抱える倫理的問題含む健康や生活上の問題と対応策に関する看護援助方法を学び、災害看護専門看護師としての役割を探究する。			
【2 授業内容】			
	(主題)	(学習内容)	(教員)
1～2	災害急性期において被災者が抱える諸問題や対応策	災害急性期における救命救急時の高度な知識と技術（実践）	酒井・磯見 月田・清水
3～4	〃	在宅避難者への看護に必要な知識と技術（実践）	〃
5～6	〃	避難所の看護に必要な知識と技術（実践）	〃
7～8	〃	災害急性期における倫理的課題の明確化と問題解決（倫理）	〃
9～10	災害慢性期において被災者が抱える諸問題や対応策	災害慢性期における健康管理に必要な知識と技術（実践）	酒井・繁田
11～12	〃	慢性疾患による生活上の問題解決方法の探究（実践）	〃
13～14	〃	災害慢性期における倫理的課題の明確化と問題解決（倫理）	〃
15～16	災害復旧復興期において被災者が抱える諸問題や対応策	災害復旧復興期における健康管理に必要な知識と技術（実践）	酒井・川口
17～18	〃	災害復旧復興期における生活上の問題の査定、問題解決方法の探究（実践）	〃
19～20	〃	仮設住宅における健康問題解決に必要な知識・技術（実践）	〃
21～22	〃	災害復旧復興期における倫理的課題の明確化と問題解決（倫理）	〃

23～24	病院災害において被災者が抱える諸問題や対応策	病院災害に対応する高度な知識・技術（実践）	酒井
25～26	〃	病院災害時の看護活動の問題の検討と解決方法の探求（実践）	〃
27～28	〃	病院災害における倫理的課題の明確化と問題解決（倫理）	〃
29～30	時間的推移に伴う看護援助	災害発生後の時間的経過における災害看護専門看護師の役割の探求	〃
【3 授業形式】 災害看護のエキスパートと指導教員との連携のもと演習及びプレゼンテーションと討議			
【4 評価方法】 授業への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】 適宜紹介する。			
【6 その他】			

【災害看護学演習Ⅱ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学演習Ⅱ		2 単位	2 年次前期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○酒井 明子	教 授／災害看護学		sakaiaki@u-fukui.ac.jp
磯見 智恵	教 授／成人・老年看護学		ichie@u-fukui.ac.jp
繁田 里美	准教授／成人・老年看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp
月田 佳寿美	准教授／成人・老年看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp
川口 めぐみ	講 師／精神看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp
清水 誉子	講 師／災害看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp
高山 裕喜枝	救急看護認定看護師／看護部		yukie@u-fukui.ac.jp
野戸 結花	教 授／弘前大学		noto@hirosaki-u.ac.jp
山崎 加代子	准教授／福井県立大学		yamazaki@fpu.ac.jp
【1 学習目標】			
災害時要援護者の特性を踏まえた援助方法を考慮した上で、個人・家族・地域・医療機関などにおける防災・減災・被害対応・備えに向けた教育・訓練などを企画・実施・評価をすることで、災害看護専門看護師としての教育機能・調整機能を修得する看護援助方法を修得する。			
【2 授業内容】			
(主題)		(学習内容)	(教員)
1～2	専門看護師としての災害時 要援護者への援助方法	災害時要援護者の特性を踏まえた様々な 看護援助の必要性和根拠について検討し、 実技とプレゼンテーションにより授業を 展開する。①～⑦の援助方法について 理論的学習を行う。	酒井・磯見・繁田 月田・川口・清水
3～4	〃	①コミュニケーション	〃
5～6	〃	②観察	〃
7～8	〃	③身体ケア	〃
9～10	〃	④こころのケア	〃
11～12	〃	⑤情報伝達	〃
13～14	〃	⑥避難方法	〃
15～16	〃	⑦災害時要援護者への看護援助の評価	〃
17～18	災害時における病院管理	災害時における病院管理の諸問題に 対する看護援助方法の企画・実施・評価	酒井・山崎・高山
19～20	〃	〃	〃
21～22	〃	〃	〃
23～24	〃	〃	〃

25～26	災害時の被害対応と備え	災害時における被害対応・備えに対する教育・訓練の企画	酒井
27～29	〃	特殊災害への対応：救護所レイアウト・養生実習・身体表面汚染検査・除染方法	酒井・野戸
30	〃	災害時における被害対応・備えに対する教育・訓練の評価	酒井
【3 授業形式】 演習及びプレゼンテーションと討議			
【4 評価方法】 授業への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】 適宜紹介する。			
【6 その他】			

【災害看護学演習Ⅲ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学演習Ⅲ		2 単位	2 年次前期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○酒井 明子	教 授／災害看護学		sakaiaki@u-fukui.ac.jp
磯見 智恵	教 授／成人・老年看護学		ichie@u-fukui.ac.jp
繁田 里美	准教授／成人・老年看護学		shigeta@u-fukui.ac.jp
月田 佳寿美	准教授／成人・老年看護学		tsuki@u-fukui.ac.jp
川口 めぐみ	講 師／精神看護学		senmegu@u-fukui.ac.jp
清水 誉子	講 師／災害看護学		urutaka@u-fukui.ac.jp
北村 大樹	参 事／鯖江・丹生消防組合消防本部		d.kitamura@fd-sabaenyu.jp
【1 学習目標】			
災害サイクル各期における専門職の連携と他職種との連携について、現状や問題点を分析的に検討する。講義で学んだ知識や理論をもとに、教育・訓練などの企画、実施、評価を行い、災害看護専門看護師としての実践・調整・連携機能を修得する。			
【2 授業内容】			
	(主題)	(学習内容)	(教員)
1～2	災害看護活動の場における他職種との連携活動	災害時における専門職と連携について現状や問題点を分析し、①②③の場における看護を展開する。	酒井・磯見・繁田・月田 川口・清水・北村
3～6	〃	①現場救護所における演習	〃
7～10	〃	②救護所における演習	〃
11～14	〃	③病院災害における演習	〃
15～16	災害サイクルにおける他職種との教育・訓練	災害サイクルにおける他職種との連携実践を通して専門看護師としての実践・調整・連携機能を学ぶ。	〃
17～20	〃	災害急性期における連携の演習	〃
21～24	〃	災害慢性期における連携の演習	〃
25～28	〃	災害復旧復興期における連携の演習	〃
29～30	〃	災害看護専門看護師としての実践・調整・連携機能についてプレゼンテーション	〃
【3 授業形式】			
演習及びプレゼンテーションと討議			
【4 評価方法】			
授業への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。			
【5 教科書及び参考図書等】			
適宜紹介する。			
【6 その他】			

【災害看護学実習Ⅰ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学実習Ⅰ		2 単位	2 年次前期
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○酒井 明子	教 授／災害看護学	sakaiaki@u-fukui.ac.jp	
磯見 智恵	教 授／成人・老年看護学	ichie@u-fukui.ac.jp	
川口 めぐみ	講 師／精神看護学	senmegu@u-fukui.ac.jp	
清水 誉子	講 師／災害看護学	urutaka@u-fukui.ac.jp	
大柴 福子	看護部長／災害医療センター	fukuko-ohshiba@tdmc.hosp.go.jp	
岡地 千佳	副看護部長／災害医療センター	cokaji1223@tdmc.hosp.go.jp	
熊倉 英高	看護師長／災害医療センター	kuma3115@tdmc.hosp.go.jp	
江津 繁	副看護師長／災害医療センター	k-shige@tdmc.hosp.go.jp	
花房 亮	副看護師長／災害医療センター	r-hanabusa@tdmc.hosp.go.jp	
山本 宏一	副看護師長／災害医療センター	k-yamamo@tdmc.hosp.go.jp	
原田 直子	副看護師長／災害医療センター	nao705911@tdmc.hosp.go.jp	

【1 学習目標】

災害看護学特論および演習での学習を統合しながら災害看護専門看護師に必要な高度な実践能力を高めるために、災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における災害看護教育の実践を学び、卓越した災害看護の実践能力に必要なコンサルテーション、研究、教育が自律して行える能力の開発を目指す。

【2 授業内容】

(主題)	(学習内容)	(教員)
1 災害看護教育における 専門看護師の役割開発	実習施設の災害医療や災害看護システムの在り方の中で、災害看護専門看護師の果たす役割・機能の特徴を探究する。 (各部署での防災対策、災害発生時の災害対応マニュアル・院内災害対応、災害時に必要な知識・技術、現場救護所における医療活動)	大柴・岡地 熊倉・江津 花房・山本 原田・酒井 磯見・川口 清水
2 病院における災害看護研修の 企画・実施・評価のプロセス の探究	災害看護知識および実践能力向上のための集団教育および個人指導事例のアセスメント、実習計画、実施、評価のプロセスを通して災害看護専門看護師が果たすコンサルテーション、研究、教育の役割機能について探究する。	〃
3 実践事例を通じた課題探究と 評価	災害時に卓越した災害看護の実践能力を発揮するために必要なコンサルテーション、研究、教育について議論し、課題を探究し評価する。	〃

【3 授業形式】

実習及びプレゼンテーションと討議

【4 評価方法】

実習への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

適宜紹介する。

【6 その他】

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

【災害看護学実習Ⅱ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学実習Ⅱ		3 単位	2 年次前期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○酒井 明子 磯見 智恵 川口 めぐみ 清水 誉子 大柴 福子 岡地 千佳 熊倉 英高 江津 繁 花房 亮 山本 宏一 原田 直子	教 授／災害看護学 教 授／成人・老年看護学 講 師／精神看護学 講 師／災害看護学 看護部長／災害医療センター 副看護部長／災害医療センター 看護師長／災害医療センター 副看護師長／災害医療センター 副看護師長／災害医療センター 副看護師長／災害医療センター 副看護師長／災害医療センター	sakaiaki@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp senmegu@u-fukui.ac.jp urutaka@u-fukui.ac.jp fukuko-ohshiba@tdmc.hosp.go.jp cokaji1223@tdmc.hosp.go.jp kuma3115@tdmc.hosp.go.jp k-shige@tdmc.hosp.go.jp r-hanabusa@tdmc.hosp.go.jp k-yamamo@tdmc.hosp.go.jp nao705911@tdmc.hosp.go.jp	
【1 学習目標】 災害看護学特論および演習での学習を統合しながら災害看護専門看護師に必要な実践能力を高めるために、災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における災害看護教育・防災教育の実際を学び、災害時の複雑で解決困難な看護問題に対して必要なコンサルテーション、研究、教育、実践、各職種間・病棟などの部門間の倫理調整・連携機能が自律して行える能力の開発を目指す。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における災害看護教育・防災教育の企画・実施・評価のプロセスの探究	実習施設における防災訓練の企画・実施・評価の実際についてスーパービジョンを受けながら実践し、災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における災害看護教育・防災教育の評価・課題を通して、災害看護専門看護師が修得すべき6つの能力を探究する。	大柴・岡地 熊倉・江津 花房・山本 原田・酒井 磯見・川口 清水	
2 病院災害における複雑で解決困難な看護問題に対する解決方法の検討	実習施設において病院災害における複雑で解決困難な看護問題を把握し、指導者から助言を受けながら解決方法を検討し、実践する。	〃	
3 実践事例を通じた課題探求と評価	災害看護専門看護師が修得すべき6つの能力について実践事例を通して探求し評価する。	〃	
【3 授業形式】 実習及びプレゼンテーションと討議			

【4 評価方法】

実習への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

適宜紹介する。

【6 その他】

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

【災害看護学実習Ⅲ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学実習Ⅲ		2 単位	2 年次後期
担当教員名	職名／所属		Eメールアドレス
○酒井 明子 磯見 智恵 川口 めぐみ 清水 誉子	教 授／災害看護学 教 授／成人・老年看護学 講 師／精神看護学 講 師／災害看護学		sakaiaki@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp senmegu@u-fukui.ac.jp urutaka@u-fukui.ac.jp
【1 学習目標】 災害看護学特論および演習での学習を統合しながら災害中長期における看護活動について、災害看護の専門看護師としての役割を認識した上で、看護職者と他職者に対する相談、実践する能力を養う。 また、被災者の尊厳を守り、倫理的課題に取り組みながら、看護職者、他職種のケア提供者、地域で暮らす被災者と家族の生活を支援するための援助に必要な能力を開発する。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 災害中長期における専門看護師の役割の開発	災害中長期における被災地（避難所・仮設住宅・恒久住宅）で災害看護専門看護師の果たす役割・機能の特徴を探究する。	酒井・磯見 川口・清水	
2 災害中長期における複雑で解決困難な看護問題に対する解決方法の検討	災害中長期における複雑で困難な看護問題を把握し、指導者から助言を受けながら解決方法を検討し、災害看護専門看護師が果たす役割機能について探究する。	酒井・磯見 川口・清水	
3 生活を支援するための保健―医療―福祉の連携における専門看護師の役割開発	災害中長期において保健―医療―福祉の連携のもと倫理的課題への対応、集団教育および個人指導の実践を行い、アセスメント、実施、評価のプロセスを通して専門看護師の役割を開発する。	酒井・磯見 川口・清水	
4 実践事例を通じた倫理的課題探究と評価	災害中長期の生活を支援する卓越した災害看護の実践能力を発揮するために必要な能力について議論し、課題を探究し評価する。	酒井・磯見 川口・清水	
【3 授業形式】 実習及びプレゼンテーションと討議			

【4 評価方法】

実習への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。

【5 教科書及び参考図書等】

適宜紹介する。

【6 その他】

学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。

【災害看護学実習Ⅳ】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学実習Ⅳ		3 単位	2 年次後期
担当教員名	職名／所属	Eメールアドレス	
○酒井 明子 磯見 智恵 木村 哲也 繁田 里美 月田 佳寿美 川口 めぐみ 清水 誉子 鈴木 勝博	教 授／災害看護学 教 授／成人・老年看護学 准教授／救急医学 准教授／成人・老年看護学 准教授／成人・老年看護学 講 師／精神看護学 講 師／災害看護学 救急救命士／永平寺町消防本部	sakaiaki@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp tkimu@u-fukui.ac.jp shigeta@u-fukui.ac.jp tsuki@u-fukui.ac.jp senmegu@u-fukui.ac.jp urutaka@u-fukui.ac.jp katsukun900r2005@yahoo.co.jp	
【1 学習目標】 災害急性期から中長期、備えの時期（静穏期）における地域に根ざした看護活動の実際を学び、被災者を取り巻く他職種とのネットワークを活用した実践能力を養い、災害看護専門看護師の役割（実践、相談、調整、教育、研究、倫理調整）を分析し、専門看護師としての将来展望をもつ。			
【2 授業内容】			
(主題)	(学習内容)	(教員)	
1 地域における減災・防災に貢献する専門看護師の必要性和役割の開発	地域の歴史・文化・対象者の特性を把握し、地域全体の視点から、課題を探究し、減災・防災に貢献する災害看護専門看護師として、地域との連携を考慮した役割の必要性を分析する。	酒井・磯見 繁田・月田 川口・清水	
2 地域における減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法を探究	地域のネットワークを活用し地域に寄り添う企画を実践し、複雑で解決困難な問題に対して地域の資源を活用した解決方法を探究する。 (地元消防との連携実習として、大規模災害に備えて、応急救護所および避難所活動のシミュレーションを企画し、永平寺町住民と協働し、大規模災害を想定した訓練を行う。永平寺消防職員と協働し住民への救急救命講習を行う。また、地元の消防との連携により救急車同乗実習を行い、災害医療初動体制における実践能力を学ぶ。)	酒井・川口 鈴木	
3 原子力施設が立地する地域において減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法を探究	原子力施設が立地する地域において地域のネットワークを活用した企画を実践し、減災・防災に関する複雑で解決困難な問題に対して地域ネットワークを活用した解決方法を探究する。 (原子力施設と共存・共栄できるまちづくりとして	酒井・木村	

	原子力関連団体と協働し、原発立地県住民へのスクリーニング指導、放射線の絵本作りと地元小学校へのエネルギー環境教育、放射線による健康被害、地域被ばくフォーラムを実施)	
4 実践事例を通した課題探求と評価	地域に根ざした他職種とのネットワークにおける災害看護の実践能力を発揮するために必要な能力について議論し、課題を探求し評価する。	酒井
【3 授業形式】 実習及びプレゼンテーションと討議		
【4 評価方法】 実習への参加状況、プレゼンテーション内容及びレポート内容により総合的に評価する。		
【5 教科書及び参考図書等】 適宜紹介する。		
【6 その他】 学生は、主体的に実習を企画し実施・評価を行うこと。自律して自己の実習目標達成に向け企画・調整し実習評価を具体的にできるように行うこと。		

【災害看護学特別研究】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学特別研究		1 2 単位	2 年次通年
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○酒井 明子 磯見 智恵 川口 めぐみ 清水 誉子	教 授／災害看護学 教 授／成人・老年看護学 講 師／精神看護学 講 師／災害看護学	sakaiaki@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp senmegu@u-fukui.ac.jp urutaka@u-fukui.ac.jp	
【1 学習目標】 講義・演習による知識の活用および文献検討をふまえて、災害看護分野に関する研究課題を科学的に探究する。研究テーマの明確化、研究計画書の作成、データ収集と結果、論文作成までの過程を学ぶ。			
【2 授業内容】 (主題) (教員) 1) 研究課題に基づいて研究計画の概要を明確にすることができる。 酒井・磯見 川口・清水 2) 研究計画に基づいて計画の実施についての調整ができる。 〃 3) 研究計画に基づいて研究を展開することができる。 〃 4) 研究結果について多面的に検討し、先行論文との比較検討ができる。 〃 5) 研究論文を作成することができる。 〃 6) 作成した論文に基づいて、発表し、説明することができる。 〃			
【3 授業形式】 指導教員及び副指導教員による個別指導 領域教員によるゼミ形式			
【4 評価方法】 研究過程における取り組み姿勢、プレゼンテーション状況、作成された修士論文及び論文発表状況			
【5 教科書及び参考図書等】 適宜紹介する。			
【6 その他】			

【災害看護学課題研究】

科 目 名		単位数	開 講 時 期
災害看護学課題研究		2 単位	1 ・ 2 年次通年
担当教員名	職名／所属	E メールアドレス	
○酒井 明子 磯見 智恵 川口 めぐみ 清水 誉子	教 授／災害看護学 教 授／成人・老年看護学 講 師／精神看護学 講 師／災害看護学	sakaiaki@u-fukui.ac.jp ichie@u-fukui.ac.jp senmegu@u-fukui.ac.jp urutaka@u-fukui.ac.jp	
【1 学習目標】 災害看護学の学修並びに実践を通して見出された研究課題に沿って研究を行い論文を作成することにより、看護実践に活用できる研究能力を養う。			
【2 授業内容】 (主題) (教員) 1) 研究課題に基づいて研究計画の概要を明確にすることができる。 酒井・磯見 川口・清水 2) 研究計画に基づいて計画の実施についての調整ができる。 〃 3) 研究計画に基づいて研究を展開することができる。 〃 4) 研究結果について多面的に検討し、先行論文との比較検討ができる。 〃 5) 研究論文を作成することができる。 〃 6) 作成した論文に基づいて、発表し、説明することができる。 〃			
【3 授業形式】 指導教員及び副指導教員による個別指導 領域教員によるゼミ形式			
【4 評価方法】 研究過程における取り組み姿勢、プレゼンテーション状況、作成された修士論文及び論文発表状況			
【5 教科書及び参考図書等】 適宜紹介する。			
【6 その他】			



国立大学法人
福井大学大学院